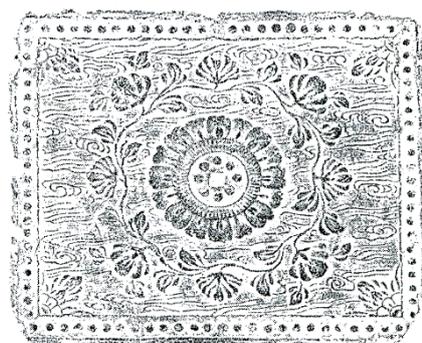


九州歴史資料館年報

令和4年度



九州歴史資料館

はじめに

当館は、昭和48年に福岡県太宰府市に開館し、平成22年に弥生時代の集落遺跡である三沢遺跡に隣接する現在の地（小郡市三沢）へ移転し、令和5年2月に開館50周年の節目を迎えました。

古くから中国大陸、朝鮮半島などとの対外交流の窓口として重要な役割を果たしてきた九州・福岡県には、先人たちの足跡をたどることができる多彩な文化財が各地に残されています。

当館は、九州全域を視野に入れながら、福岡県固有の各種文化財の調査・研究・活用等を行う博物館機能と、大宰府史跡等の発掘調査・研究及び出土品の管理等を行う埋蔵文化財センター的機能を併せ持っています。また、令和3年3月に策定された「福岡県文化財保護大綱」では、県内地域の文化財保護の充実のため、文化財保護課と一体となって、市町村の文化財保護の取組みへの助言や支援の役割強化を担うことが求められております。

当館では、コロナ禍で構築したデジタルコンテンツやオンライン授業、各種イベントや研修を通して、皆様に広く還元するために本県文化財の魅力を発信しています。

さらに、4年度から着手している古代史研究では、太古よりアジアの玄関口として機能し続けている福岡を視座に据えた新たな古代史像の構築を目指し、その研究対象を弥生時代や古墳時代にも広げ、令和4年11月に「福岡の古墳」の魅力を発信する古代史研究フォーラムを開催したほか、古墳時代の古代史研究映像コンテンツを制作しました。

この年報では、当館が4年度に実施した調査・研究活動、各種事業の概要を報告します。

今後も当館に求められる役割を全うすべく、職員一丸となって、魅力ある施設づくりを進めてまいります。引き続き、御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、この年報が多くの方々に御活用いただければ幸いに存じます。

令和5年7月

九州歴史資料館長

城戸 秀明

目 次

1 事業概要	
（1）調査・研究	4
（2）展 示	20
（3）資料利用	28
（4）学習支援・博学連携	40
（5）ボランティア	47
（6）普及・活用事業	51
（7）重点施策	64
（8）広報活動	66
（9）実習・研修	70
（10）市町村支援	73
（11）刊行物一覧	79
（12）交流事業	80
（13）協議会等	80
2 九州歴史資料館概要	
（1）沿 革	81
（2）施設概要	83
（3）予 算	83
（4）組織・職員	84
（5）関連法規	85
3 諸 統 計	
（1）入館者状況	91
（2）収蔵資料・図書	91
4 日 誌 抄	92

1 事業概要

(1) 調査・研究

[学芸調査室学芸研究班]

◎美術工芸資料に関する調査研究

造形遺品を対象として調査研究を進めている。対象としては、古代から中世にかけての仏像や仏画などの、いわゆる仏教美術と、福岡藩お抱え絵師尾形家を要とする、近世絵画を主として据えながら、その他の彫刻、絵画、工芸も広く意識して扱うように努めている。このような調査研究を通して、九州や現在の福岡県域が、わが国の歴史の中で、また東アジアの歴史の中で、どのような特色をもち、どのような役割を果たしてきたのか、その一面を明らかにするべく意識している。4年度は、未だ新型コロナウイルスの影響があり、調査を行うことが困難な場合もあったが、以下の通りの活動を行った。

○寺社所蔵資料の調査研究

造形遺品が集中する場として、寺社が挙げられる。当館では、地域の歴史において中核的な役割を果たしてきた寺社をとり上げて、そこに伝わる造形遺品を中心とした文化財を悉皆的に調査して、当該寺社を考えることを通して地域の特色を把握しようという調査研究を核としながら、特定地域の造形遺品について集中的に調査を行うことで、その地域の特色を浮かび上がらせようとする調査研究を進めている。その他にも地誌をはじめとする各種史資料や、市町村の文化財担当者から得られた情報に基づく調査などを、臨機的に組み込みながら調査研究活動を行っている。

4年度は、宗像市教育委員会の依頼のもと協業しつつ行ってきた、市史関係の調査に一区切りをつけた。期間的にも人員的にも市域の寺社における尊像の悉皆調査は叶わなかったものの、これまで知られてきた重要作例に加え、新たに存在が知られるに至った重要作例の多くについて、基礎資料を調えることができた。4年度に調査を行った主な作例は、鎮国寺の木造不動明王立像と阿弥陀如来坐像板碑、鎮国寺奥之院の石造不動明王立像と線刻仏画、宗像大社に保管される円通寺蔵の、赤間神宮旧蔵と伝える清凉寺式釈迦如来立像、名残不動堂の如来形像等である。これらの調査成果の詳細については、市史にて報告される予定である。3年度に開始し、その後継続している、高良山ゆかりの仏教美術作品の調査も継続している。高良山には高良大社が存在していて、今は神の山の印象があるが、ここも神仏分離以前は仏教が共生して繁栄を見せていた。神仏分離の後も仏教的な遺品は、多くが山麓やゆかりの地で命脈を保っており、それらを悉皆的に調査することで、ありし日のあり方を蘇らせようと試みているところである。その他、諫早市と共に継続している市内の寺社における文化財の確認調査、史跡指定にかかる調査以来継続している英彦山にかかる、山内旧在の仏像の確認調査、久留米市朝日寺の神子栄尊坐像について、九州国立博物館の協力を得ながらのX線CTスキャナを用いた構造確認調査、福岡市西区小田の、小田観音堂あるいは光明寺観音堂の、千手観音立像、十一面観音立像、六臂観音立像の、3軀の大型の観



阿弥陀如来坐像板碑（宗像市）

音像および、持国天立像、多聞天立像の計5軀の、県指定にかかる調査を改めて行う等のことも行っている。

○九州に偏在する大陸系彫刻の調査研究

九州に偏在している、中国の明時代以前の彫刻、朝鮮半島渡来の彫刻について、調査と研究を進めている。中国の明時代以前の彫刻については、奈良時代以降の日本の彫刻への影響を考える上で重要な存在でありながら、これまで必ずしも調査が進んでいなかったところを前進させ、より具体的に九州の彫刻への大陸からの影響や、日本彫刻史における大陸からの影響を考える上での有用な基盤を形成するために、調査と研究を進めているものである。調査は木彫像や塑像等にとどまらず、そのほとんどが九州西側に存在する中国渡来石塔である薩摩塔に刻まれた5軀の尊像、またその他の中国渡来石造物までを対象としている。薩摩塔については、これまでは九州西側のみで確認されていたものが、大阪府堺市からも見出されて、研究は新たな段階に入ったが、そのような中で塔身に刻まれている尊像についても再検討の必要が生じ、いまその作業を進めつつある。

○福岡県内の絵画調査と研究

3年度までに引き続き、福岡藩の御抱え絵師、尾形家について、狩野探幽に絵を学んだ尾形家初代～第3代に焦点を当て、作品と画稿についての調査研究を進めている。県内の寺社や博物館・美術館所蔵の作品の調査を行ったほか、画稿（尾形家絵画資料）については、所蔵先である福岡県立美術館の協力を得て2年度から取り組んでいた、初代仲由、第二代守義制作の331点の調査・撮影を完了した。また、これらの調査をもとにした研究成果を、第66回企画展「尾形家三代一探幽に学んだ福岡藩御抱え絵師―」にて公表した。

さらに、県内各所の絵画について、市町村の依頼等をうけて調査を行っている。3年度までに引き続き、4年度も、太宰府市教育委員会が行っている太宰府絵師調査に絵画担当職員が調査員のひとりとして加わり、全国に名の知られた文人である吉嗣拝山を核とする吉嗣家の絵画資料調査や報告書の作成に参加した。

○文化財の保護活動

当館では、現地での保管が困難ないしは危険であり、かつ当面所在地を離れても、地域の信仰文化に深刻な影響を与えることはないと判断される、文化財としての意義をもった仏像や神像、仏画等々をはじめとする文化財について、受け入れを行っている。この際は、緊急避難を受け入れた上で、地元環境を整えることに協力し、整えば再び地元で保管するというのを、理想の形として心がけている。4年度は、糟屋郡宇美町の清水寺から、聖観音立像を受け入れている。本像はその修復に宇美八幡宮や、大宰府戒壇院の運照等が関与している注目すべき作例である。また、太宰府市の個人宅より、吉嗣鼓山・萱島秀山・萱島秀峰合作屏風を受け入れている。太宰府の文人、画家として著名な彼らが、博多の富家の慶事に際して制作したこの屏風は、博多太宰府地域にとって大切な作品である。なお当館では、県指定文化財等を安置する堂宇や収蔵庫の建て替えに伴う一時保管を行うこともある。昨年度については、柳川の立花家史料館の収蔵庫の不具合により、収蔵資料の基本的に全てが当館の収蔵庫に一時避難する運びとなったのが、最も大きなことであった。立花家史料館の収蔵資料は、柳川にあってこそ最大の意義をもつものであり、地域の歴史や文化を象徴する存在でもあるため、関係者みなで協力しながら、なるべく早く地元に戻ることができるよう努めねばならない。その他、行橋市の大儀寺より、南北朝時代から室町時代にかけての如意輪観音坐像を、修復までの一時保管として受け入れている。

◎考古基準資料調査

○古代玄界灘における漁労活動の考古学的研究

本研究では、玄界灘沿岸地域における弥生・古墳時代の遺跡出土漁具から、弥生・古墳時代の漁

法を復元し、漁労活動や海人集団、生産活動等について検討を加える計画である。

研究最終年度である4年度は、報告書『古代玄界灘における漁労活動の考古学的研究』を執筆し、印刷物として刊行、関係機関に配布するとともに、当館HP・「全国遺跡報告総覧」のweb上で報告書PDFデータを同時に公開した。また弥生時代の大型石錘である半球形有孔滑石製品を用いた漁法の復元、社会背景等についても検討を行い、論文として九歴論集で公表した。（科学研究費研究課題：研究代表者 大庭孝夫）

○福岡県内における軍事に関する遺構の基礎的研究～飛行場を中心に～

本研究は、北部九州地域における昭和期の飛行場及び関連施設（主として「航空機用掩体」）を研究の主となる素材として取り上げ、分布と現状について文献及び現地踏査により資料を収集し、現存状況等を把握した上で基礎的な考察を行うものである。4年度は研究の3ケ年目で最終年度となる予定であったが、新型コロナウイルス感染症の拡大により現地調査に大きな影響を受けたため、予定の一部に留まった。このことにより研究を1年延長して5年度までとし、次年度に研究の大枠をまとめ、研究成果を発表する予定である。（科学研究費研究課題：研究代表者 森井啓次）



海軍築城航空基地稲童掩体

○大宰府史跡出土品の重要文化財指定に向けた保存と活用の為の三次元データベースの構築

本研究は、大宰府史跡出土品の保存と活用のための三次元データベース作成を目的としたものである。研究の対象となる出土品に関しては軒丸瓦、軒平瓦などの瓦類を中心に写真データの取得に努め、三次元化の作業を行った。また、大野城跡門礎など、大宰府史跡に関連する遺構も、写真データの取得を行い、三次元化を進めた。撮影したデータはAGISOFT社製のMetaShapeを用いて、三次元化を行っているが、写真の撮影および撮影データを解析する際に長時間を要する点が課題となった。そのため、Apple社製のiPadに搭載されているLiDAR機能を用いての三次元データ取得も試行している。（科学研究費研究課題：研究代表者 進村真之）



大宰府史跡出土軒丸瓦223 b 形式の三次元画像

○福岡県内近世陶磁器研究

福智町所蔵の上野焼（山地コレクション）について、72件すべての調査が終了し、岩谷高麗窯、釜の口窯、上野本窯についての現地周辺を含めた踏査などを行う。福智町では上野焼の窯跡調査なども含めて準備を始めており、特に昭和30年代に日本陶磁協会にて行われた釜の口窯跡の発掘調査資料など再調査も考えており、それに関しても協力を行っている。上野焼についてはいまだ不明瞭な部分が多いので、今後も研究を続けていく予定である。また、久留米市が行っている福聚寺の本堂改修・収蔵庫新設に伴う文化財確認調査に参加し、近世後期の陶磁器群についての所見を得た。（遠藤啓介）

○中世北部九州出土の喫茶関係遺物の研究

館内等に収蔵している中世の遺跡から出土した喫茶関係遺物についての研究を行った。一般的な喫茶の歴史では、古代の団茶、中世の抹茶、近世の煎茶といわれてきた。しかし、発掘事例の増加

や歴史学・美術史の研究が進み、近年、喫茶の実相に多様性があることが分かってきた。本研究は中世北部九州特に福岡で喫茶の実相を考えるうえで重要な遺跡について、遺構や出土遺物から喫茶の様相を考えるものである。本年は朝倉市才田遺跡・狐塚南遺跡の出土品の調査を行い、『九州歴史資料館研究論集』48で発表した。（遠藤啓介）



朝倉市狐塚南遺跡出土 茶臼

◎文書・典籍資料の調査研究

当館では、古代から近現代におよぶ各時代の古文書・典籍資料のほか、出土文字資料や写真・映像資料など、広く記録資料を対象として、福岡県域そして九州の歴史的な役割・特質を明らかにすべく、調査研究活動を行っている。

○出土文字資料の調査研究

4年度は、大宰府跡出土木簡が重要文化財に指定されたことを記念する特集展示の開催にあたり、再度これまでの木簡に関する展示の内容や大宰府跡出土木簡全体の調査成果を通覧して、どのような内容を展示するのが相応しいかを検討した。

○福岡県史編纂史料等の調査研究

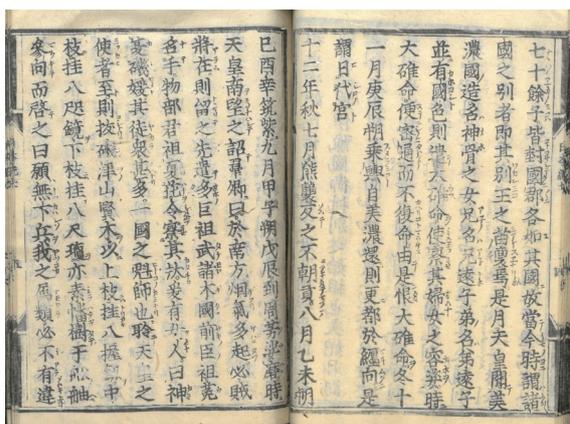
福岡県史編纂史料は、22年度の当館の移転開館に伴い、新たに収蔵した約15万点の史料群である。移管後は、閲覧・レファレンスのほか、未整理史料の整理を引き続き実施し、一方で展示への活用や調査研究も積極的に行っている。このほか、筑豊工業高校資料、太田静六資料等の館蔵資料についても、引き続き調査研究・整理作業に努めている。5年3月29日に、県史編纂史料に含まれる永江純一文書のうち、未受領であった旧蔵図書7箱分を、当館に搬入した。これについて5年度に清掃と燻蒸を行う予定である。

さらに、福岡県内の鉄道敷設計画に関する文書を一部調査し、その成果は4年度パネル展「福岡鉄道遺産ものがたり8～日豊本線編～」で紹介したほか、各種講演会でも活用している。

○県内・県外所在資料の調査研究

4年度は、3年度に引き続き、福岡県の東部、旧豊前国に関わる古代史料の調査を行った。既知の史料であるが、『日本書紀』や『古事記』、『風土記』逸文、『先代旧事本紀』などの古代の文献史料にみえる、豊前地域の豪族層の活動について、当該地域の遺跡や考古資料の調査成果と対照した。考古学の研究により、豊前地域は瀬戸内海を通じて、近畿地方との交流における九州東側の玄関口であったことから、豊前地域の豪族層は、九州島内で最も早い3世紀後半から古墳文化を受容し、倭王権と関係を築いたことが知られている。

文献史料にみえる豊前地域の豪族層が登場する記述は、神武天皇の東征や景行天皇の九州巡幸といった伝承の中にみられ、これらは史実とは認め難いが、早くから天皇に従う伝承が多いことは、考古学の研究成果と整合的である。また、筑肥型石室を持つ苅田町御所山古墳や、豊前地域では珍しい装飾古墳であるみやこ町皆見大塚古墳の存在が示す筑後地域とのつながりも、倭王権との戦争に敗れた筑紫君磐井が豊前国上膳県（後の上毛郡）に逃げたという『筑後国風土記』逸文の伝承



『日本書紀』版本（当館所蔵）

と整合的である。

加えて、京都平野には宇佐八幡宮とその神宮寺である弥勒寺が多くの荘園を保有していたことが、鎌倉時代初期の『八幡宇佐宮神領大鏡』や「弥勒寺喜多院所領注進」から知られており、奈良時代には宇佐八幡宮とも所縁のある渡来系氏族の梶田勝勢麻呂が京都郡の大領（長官）となっていた（『続日本紀』天平12年9月己酉条）。いっぽう、みやこ町池田遺跡で奈良時代の溜池が発見され、この地の渡来人の技術によって築堤されたことが指摘されており、宇佐八幡宮による京都平野の開発にともなって築かれた可能性が考えられている。

このような既知の文献史料と考古学の研究成果を突き合せて、古墳時代から平安時代の豊前地域の古代史の研究を行った成果は、4年度特別展「京都平野と豊国の古代」において紹介した。

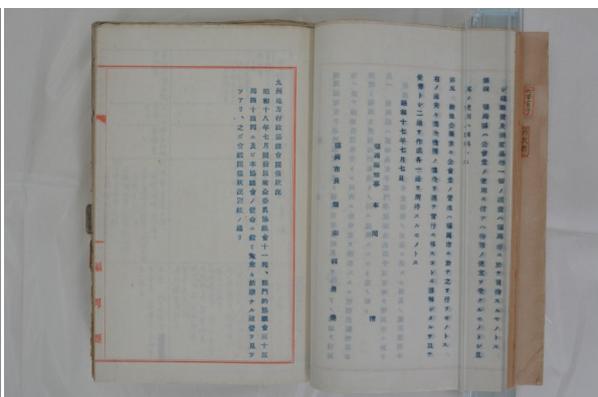
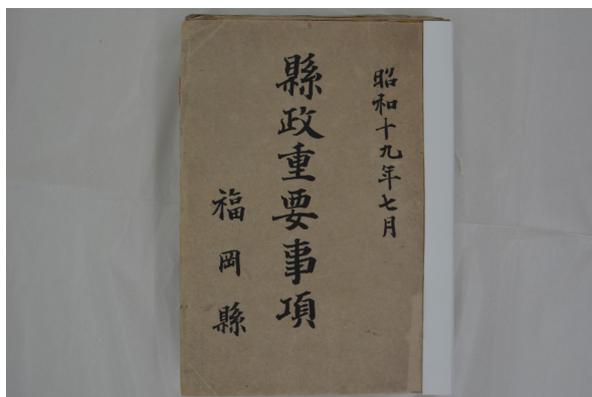
さらに、引き続き戦時行政に関する文書調査を行った。特に、昭和18年から20年まで設置されていた九州の広域行政機関である九州地方行政協議会・九州地方総監府に関する史料を、国立国会図書館、福岡共同公文書館、福岡県立図書館、福岡市総合図書館、佐賀県公文書館、長崎県立長崎図書館郷土資料センター、熊本県県政情報文書課、大分県公文書館、宮崎県文書センター等で調査した。調査成果は、4年度の『九州歴史資料館研究論集』で発表している。



『鼈頭旧事紀（先代旧事本紀）』版本
（当館所蔵）



『筑前国続風土記』写本
（当館所蔵）



縣政重要事項（福岡県立公文書館所蔵）

[学芸調査室文化財科学班]

◎文化財の保存処置

○木製遺物の保存処理

木製遺物の保存処理は、含水率測定や樹種同定などの事前調査、トレハロースによる含浸処置、含浸処置後の余分なトレハロースを除去する表面処理といった工程で行っている。4年度は、3遺跡37点の保存処理を行った。

○金属製遺物の保存処理

金属製遺物の保存処理は、X線CTスキャナや蛍光X線分析装置などの事前調査、土砂や錆を除去するクリーニング、腐食促進因子を除去する脱塩処理、合成樹脂含浸による強化処置といった工程で行っている。4年度は13遺跡173点の保存処理を行った。

○美術工芸・古文書・典籍・歴史資料に対する保存処理

美術工芸・古文書等の保存処置について、現状では文化財の有害生物を対象に、資料への被害状況、劣化状況等の保存状態調査を経て、資料に対して適切な処置を行っている。

今年度は、有害生物の被害がみられたとして、太宰府市公文書館、柳川古文書館、九州大学記録資料館管理資料および当館寄贈、借用資料について、処置を行った。

○館内の保存環境整備に関する取り組み

年間をつうじて、第一展示室、特別収蔵庫各室の温湿度測定や空調設備の制御状況の確認、特別収蔵庫周辺の有害生物監視を継続的に行った。今後も、文化財に対する有害生物をできる限り軽減させ、適切な環境のもと、保存できるよう測定や監視等の取り組みを継続する。

○各種文化財の保存対策

資料の保存環境を整備するため、22年度から関係部署と共に、温湿度等の保存環境調査を行っている。今年度、作業を行ったのは、宗像大社神宝館であり、展示室、収蔵庫内に測定地点を定めデータログを設置、数カ月おきにデータ収集と定期点検を行った。そのほか宗像大社へは、国宝沖ノ島出土品保存活用計画策定の支援を行った。

また、昨年度から、装飾古墳石室内環境に関する支援を開始し、今年度も王塚古墳（桂川町）、五郎山古墳（筑紫野市）、屋形古墳群（うきは市）の保存環境整備に対応した。調査、支援により、適切な保存環境整備に向けた取り組みの計画・立案に寄与している。

○各種文化財の科学的調査

4年度の外部機関に基づく科学的調査は以下のとおりである。

	依頼機関	調査資料	使用機器	依頼日
1	松浦市教育委員会	鷹島海底遺跡出土元寇沈没船部材	X線CTスキャナ	4. 27
2	筑紫野市教育委員会	堀池遺跡出土板状鉄製品	X線CTスキャナ	5. 13
3	筑前町教育委員会	小隈古墳出土鉄製品	X線CTスキャナ	6. 2
4	大野城市教育委員会	九州飛行機株式会社板付車輪工場採取資料	蛍光X線分析	6. 21
5	春日市教育委員会	須玖岡本遺跡出土鉄製品	X線CTスキャナ	6. 29
6	島根県立古代出雲歴史博物館	御崎山古墳出土大刀等	X線CTスキャナ	7. 26

	依頼機関	調査資料	使用機器	依頼日
7	荏田町教育委員会	富久古墳出土そろばん玉・管玉	X線CTスキャナ	8. 3
8	小郡市教育委員会	干潟上遺跡出土金製玉	X線CTスキャナ	8. 5
9	大野城市教育委員会	御供田遺跡木製鳥居型電柱	デジタルマイクロ スコープ	12. 14
10	志免町教育委員会	志免鋳業所遺跡第8坑扇風機坑口ブ ロペラ	デジタルマイクロ スコープ	1. 26
11	宮崎県高鍋町教育委員 会	持田地下式横穴墓出土金銅製馬具	X線CTスキャナ	2. 21
12	春日市教育委員会	須玖岡本遺跡出土鉄製品・青銅製品	X線CTスキャナ	3. 16
13	春日市教育委員会	竹本遺跡出土鉄製品	X線CTスキャナ	3. 22

上記のほか、館蔵資料については随時、科学的調査を実施している。

○外部機関への協力・研修など

博物館等の保存施設新築、改築をはじめ、遺物の保存処置、保存環境をはじめとする文化財保存に関する外部機関からの相談・支援依頼に随時対応している。今年度、対応した外部機関は以下のとおりである（対応順）。大野城市心のふるさと館、筑紫野市教委、宮若市教委、福岡市・福岡市博物館、長崎県松浦市教委、モンゴル国立博物館、大野城市、太宰府市教委、福岡市美術館。また、（一社）文化財保存修復学会理事会に理事として出席した。

◎船原古墳出土資料に関する共同研究

平成24年度に発見され、その後、遺物の取り上げ作業やX線CT調査等の支援を行った古賀市船原古墳遺物埋納坑出土遺物について、平成26年度より、古賀市教育委員会と当館との間で協定を締結し、科学的調査や保存処置に関する共同研究を開始している。

今年度も引き続き、これまで撮影したCTデータの解析を進め、現状における遺物の形状や数量等を抽出し、出土位置との照合を行い、全容を把握する作業を行った。遺物のクリーニング作業は、小札甲、冑など合計365点、行った。



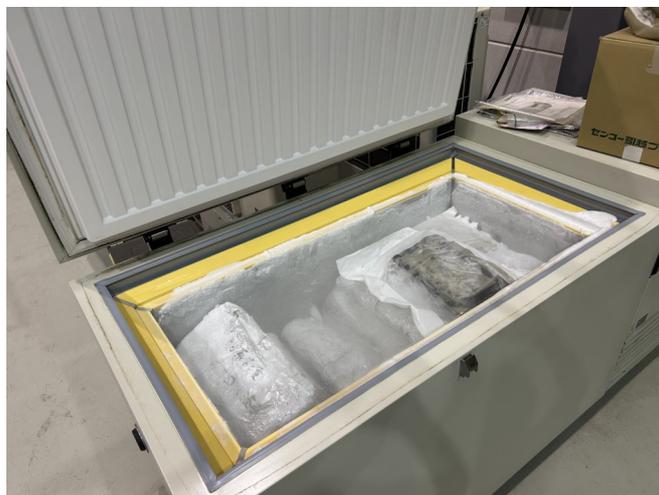
4年度クリーニングを終えた小札甲

◎平成29年4月九州北部豪雨による被災文化財救援への対応

平成29年7月九州北部豪雨災害、令和2年7月豪雨により水損した文書の応急的保存処置を行った。

内容は、冷凍保存によるカビ繁殖防止、真空凍結乾燥法による乾燥処置、付着した土砂、カビのクリーニング、折れ、シワ等を伸ばすフラットニングやカビ、虫害が発生している資料への燻蒸処置である。

4年度は、個人蔵文書群（朝倉市）、個人蔵文書群（熊本県）の作業を行った、なお、平成29年7月九州北部豪雨災害におけるレスキュー活動の報告書が朝倉市教育委員会から刊行され、文書等紙資料の応急的保存処置について報告した。



水損文書の冷凍保管状態

[埋蔵文化財調査室文化財調査班]

文化財調査班の主たる業務は、国の機関や県及び外郭団体の開発事業に関わる発掘調査及び報告書作成等である。また、県内市町村の実施する発掘調査の支援も適宜行っている。加えて、2年度より4ヵ年（当初3ヵ年の予定を新型コロナウイルス感染症の影響により1年延長）をかけ、基礎的な調査として「福岡県近世窯業関係遺跡調査」を行っている。また、4年度より3ヶ年の予定で、「福岡県装飾古墳総合調査」も行っている。県内市町村の埋蔵文化財担当者を対象とした「福岡県埋蔵文化財発掘調査基礎研修」については、4年度は全7回の講座として企画した。

◎発掘調査及び報告書作成

4年度の発掘調査は、道路改良事業に係る発掘調査を実施した。報告書は受託事業及び執行委任事業に係る報告書を刊行した。

発掘調査は、福岡県県土整備部の執行委任を受け、主要地方道久留米筑紫野線道路改良道路事業（十郎丸長谷古遺跡第2次調査）及び都市計画道路三橋筑紫橋線道路改良事業（坂本町遺跡）の計2件を実施した。

整理・報告書作成は、受託事業として平成30年度・3年度にかけて発掘調査を実施した一般国道210号浮羽バイパス（国土交通省九州地方整備局福岡国道工事事務所・新開遺跡）1冊及び執行委任事業として主要地方道久留米筑紫野線（十郎丸長谷古遺跡第1次調査）、一般県道湯辺田八女線（湯辺田・下柿瀬遺跡）、一般国道322号線（本郷流川遺跡）、主要地方道県道荊田採銅所線（山口古墳群）の計5冊を刊行した。これら報告書は印刷物として刊行した後、電子媒体として館のHP等に掲載する予定である。

○主要地方道久留米筑紫野線道路改良事業

- ・十郎丸長谷古遺跡第2次調査（久留米市）

本遺跡は久留米市北野町十郎丸に所在する。筑後川の支流である大刀洗川右岸にあり、周知の埋蔵文化財包蔵地「古町遺跡」の北西側に位置する。3年度からの発掘調査の継続事業である。調査の結果、弥生時代の甕棺墓1基、古墳時代の土坑3基、奈良時代の竪穴住居跡1棟、溝8条などを検出した。

弥生時代の甕棺墓は合わせ口で棺内や掘方の一部で赤色顔料を検出した。竪穴住居跡は北壁にカマドを伴い、出土遺物から奈良時代のものと考えられる。



十郎丸長谷古遺跡第2次調査（左：甕棺墓 右：竪穴住居跡）

○都市計画道路三橋筑紫橋線道路改良事業

- ・坂本町遺跡（柳川市）

本遺跡は柳川市坂本町に所在し、柳川城址の北側に位置する。寛政3（1791）年の絵図によると、武家屋敷があった場所に該当する。発掘調査の結果、盛土等の嵩上げにより、3面の遺構面が重なっていることがわかった。遺構は主に江戸時代の建物跡1棟、井戸8基、柵列2列、土坑28基、溝17条を検出している。また、前述の絵図に描かれた区画溝に該当する溝も検出されており、記録と発掘調査成果の検証が行えた貴重な成果である。



坂本町遺跡（左：寛政3（1791）年の絵図 右：現場写真）※赤丸が区画溝

4年度文化財調査班実施の発掘調査及び作成報告書一覧

発掘調査

遺跡名	所在地	調査面積 (㎡)	調査期間	調査内容	調査原因
十郎丸長谷古遺跡 第2次調査	久留米市北野町 十郎丸	1,500㎡	221024-230215	集落	道路改良
坂本町遺跡	柳川市坂本町	1,500㎡ (3面合計)	221027-230323	集落	道路改良

作成報告書

タイトル	シリーズ名	調査原因
新開遺跡	一般国道210号線浮羽バイパス関係埋蔵文化財調査報告 第26集	バイパス建設
十郎丸長谷古遺跡	福岡県文化財調査報告書第280集	道路改良
湯辺田・下柿瀬遺跡	福岡県文化財調査報告書第281集	道路改良
本郷流川遺跡3	福岡県文化財調査報告書第282集	道路改良
法正寺遺跡群第2次 山口古墳群	福岡県文化財調査報告書第283集	道路改良

◎福岡県近世窯業関係遺跡調査

福岡県内では高取焼、上野焼を始め、近世以降多くの陶磁器が生産されている。また、近年では小石原焼が重要無形文化財に指定されるなど、県内の窯業に対する関心が高まっている。

そのような中で福岡県では、県内に所在する近世以降の窯業関係の生産遺跡を対象に、総合的な緊急分布調査を行うこととし基礎的な作業内容に基づき現地確認作業等の要点調査を実施した。2・3年度は既存の資料の収集・整理を進め、基礎的な作業を実施した。3ヶ年目となる4年度は、基礎

的な作業内容に基づき現地確認作業等の要点調査を実施した。調査の計画や実施内容については、有識者3名からなる「福岡県近世窯業関係遺跡調査指導委員会」を5月17日（火）に福智町、12月27日（火）にみやま市にて実施し意見を仰いだ。5年度は重点調査のさらなる充実を図り、調査指導委員会を開催して、報告書としてとりまとめる予定である。



福岡県近世窯業関係遺跡調査指導委員会 5月17日（左：皿山本窯 右：永満寺宅間窯）

福岡県近世窯業関係遺跡調査指導委員会委員名簿（4年3月31日現在）

	氏名	所属等	専門
委員長	大橋 康二	佐賀県立九州陶磁文化館名誉顧問	陶磁史
委員	辻田 淳一郎	九州大学人文科学研究院研究院准教授	考古学
	宮地 英敏	九州大学附属図書館記録資料館准教授	日本経済史

◎福岡県装飾古墳総合調査

本県では、全国でも2番目に多い80基余の装飾古墳が所在しており、装飾古墳は本県の古墳時代の象徴的存在として知られている。本館では、装飾古墳の歴史的な位置付けや評価と適切な保存管理を行うために必要なアーカイブ化を目的として、令和4年度から県内装飾古墳の総合調査を実施している。

初年度である4年度は、最新のデジタル機器を駆使して既存情報の把握、整理を行った。5年度は中でも重要な装飾古墳を対象に、詳細調査を重点的に行う予定である。



砥上観音塚古墳調査

福岡県装飾古墳総合調査指導委員会委員名簿（4年3月31日現在）

氏名	専門	備考
重藤 輝行	考古学	佐賀大学芸術地域デザイン学部教授 福岡県文化財保護審議会専門委員
辻田 淳一郎	考古学	九州大学人文科学研究院准教授
河野 一隆	考古学	東京国立博物館学芸研究部長

【埋蔵文化財調査室大宰府調査班】

大宰府調査班では、大宰府史跡と関連遺跡の調査研究を主な業務として取り組んでいる。4年度は、開発に伴う事前確認調査を3件実施した。また、大宰府外郭線の調査研究計画に基づく発掘調査を1件実施し、報告書を1冊刊行した。そのほか、大宰府史跡の発掘開始から50年以上経過したことを契機に、今後の大宰府史跡への取組み方について検討を行い、『大宰府史跡の調査研究・整備の在り方』および『大宰府史跡の調査研究・整備のこれから』を作成した。

◎大宰府史跡の発掘調査および報告書作成

4年度は、3年度まで大宰府史跡発掘調査第10次5ヶ年計画に基づき行ってきた蔵司地区の調査の整理作業を行った。総括報告書は5年度に刊行する予定である。

また、大野城跡や大宰府政庁周辺官衙跡、筑前国分寺跡では、開発に伴う事前確認調査を実施した。

そのほか、大野城跡については、今後総合的な調査を行っていくことにしており、過去の調査の整理を開始し、また基礎資料を得るための踏査及び測量調査を行った。

詳細は下記のとおりである。

4年度大宰府史跡調査一覧

調査回数	面積 (㎡)	調査期間	調査地区
大野城跡第58次調査	2.4	2022.9.27	四王寺県民の森
大宰府史跡第252次調査	6.5	2023.2.08	政庁周辺官衙跡・政庁前面広場地区
筑前国分寺跡第30次調査	6.9	2023.2.21～22	西側回廊付近
大野城跡踏査・測量調査	約30,000	2022.4～2023.3	全域

○大野城跡第58次調査

第58次調査は、福岡県立四王寺県民の森内にある、ワンヘルスの森ミュージアムのエレベーター設置に先立って行った確認調査である。

調査の結果、地表下1.6mまで自然堆積土が存在し、その下に地山を確認した。遺構・遺物は確認できなかった。周辺の地形から、当該箇所は東側の谷に向かって傾斜していく箇所にあたるのが想定された。

○大宰府史跡第252次調査（政庁周辺官衙跡・政庁前面広場地区）

第252次調査は、開発に先立つ確認調査で、政庁前面広場地区の中央付近に位置する。筏状遺構が確認された第136-2次調査の南側で、河川の浸食を受けている可能性が考えられた。

調査は2本のトレンチを設定して行った。その結果、第1トレンチは地表下2.6mまで掘削したが、河川の氾濫に由来する堆積土が厚く堆積しており、第2トレンチは地表下3.1mまで掘削したが、氾濫原を埋めた新しい土が厚く堆積し、遺構は広がっていないことが判明した。また、氾濫原を埋めた古代の整地層も確認



大野城跡第58次調査



大宰府史跡第252次調査

することはできなかった。

南側を流れる御笠川はかつて大きく蛇行しており、当該箇所は御笠川の影響を大きく受けた氾濫原に位置することが考えられる。

○筑前国分寺跡第30次調査（西側回廊付近）

第30次調査は、掘削行為の地下への影響を判断するための確認調査で、西側回廊が想定される箇所を対象とした。

調査の結果、一部で遺物包含層の可能性のある暗褐色土が薄く存在し、古代の瓦が少量出土した。しかし、現代の攪乱がはげしく、遺構は確認できなかった。検出が予想された西側回廊は、おそらく後世の造成等で削られてしまったことが考えられる。

○大野城跡踏査・測量調査（全域）

今後の調査に向け、全域を対象に踏査を行った。主に土塁線や建物群および平坦面等の現状把握を行い、課題を抽出していった。

測量は業者に委託し、全域の空中写真測量を行い、そのデータをもとに、西側1.1km²について、1/1,000地形図を作成した。



筑前国分寺跡第30次調査



大野城跡踏査



4年度第1回大宰府調査研究指導委員会

◎大宰府史跡調査研究指導委員会

大宰府史跡の調査研究にあたっては、遺跡の性格上、あらゆる分野から総合的に取り組む必要があるため、考古学・歴史学・建築史学・造園学・都市工学・土木工学などの専門家で構成する「大宰府史跡調査研究指導委員会」を設置し、その指導のもと、計画的に調査研究を進めている。

4年度の大宰府史跡調査研究指導委員会は、令和4年7月27日（水）と、10月19（水）・20日（木）に開催した。第1回目の7月27日はオンラインを併用し、4年度までに実施した大宰府外郭線の発掘調査の成果について報告したほか、今後の大宰府史跡の在り方についての審議が行われた。第2回目の10月19・20日は、今後の大宰府史跡の在り方及び蔵司地区の調査成果について審議が行われた。

大宰府史跡調査研究指導委員会委員名簿

（4年度）

	氏名	所属	専門
委員長	佐藤 信	東京大学名誉教授	歴史学
副委員長	山中 章	三重大学名誉教授	考古学
委員	坂上 康俊	九州大学名誉教授	歴史学
	森 公章	東洋大学文学部教授	歴史学
	増淵 徹	京都橘大学教授	歴史学
	本中 眞	独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所長	造園学

	氏名	所属	専門
委員	亀田 修一	岡山理科大学大学院教授	考古学
	箱崎 和久	独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所	建築史学
	伊東 龍一	熊本大学大学院教授	建築史学
	尼崎 博正	京都造形芸術大学教授	造園学
	包清 博之	九州大学大学院芸術工学研究院教授	造園学
	末次 大輔	宮崎大学工学部教授	土木工学

◎大宰府外郭線の調査・報告書作成および大宰府外郭線部会

筑紫野市前畑遺跡第13次調査で確認された「土塁状遺構」については、大宰府都城の外郭線を構成する古代の遺構の可能性が指摘された。そのため、当館では関連市町と連携し、大宰府外郭線を構成する遺構の有無や範囲を確認して大宰府の構造を理解するための調査研究を行い、今後の保存活用の基礎資料とすることとなった。



4年度第2回大宰府外郭線部会

【関連市町】

筑紫野市・春日市・大野城市・太宰府市・那珂川市・宇美町・小郡市・佐賀県基山町

【4年度】

- ・大宰府外郭線検討会（関連市町との連携による調査研究）を5月31日（火）に開催した。
- ・大宰府史跡調査研究指導委員会 大宰府外郭線部会を、令和4年8月17日（水）と12月15日（木）の2回開催した。

第1回部会は、大宰府外郭線第3次補足調査（小郡市）について現地視察を行ったほか、オンラインを併用して、成果の総括に向けた審議が行われた。

第2回部会は大宰府外郭線の境界観について、考古資料や文献史料から検討した成果を報告し、組織的な審議が行われた。

大宰府史跡調査研究指導委員会 大宰府外郭線部会委員名簿（4年度）

	氏名	所属	専門
部会長	小田富士雄	福岡大学名誉教授	考古学
副部会長	坂上 康俊	九州大学名誉教授	歴史学
委員	亀田 修一	岡山理科大学教授	考古学
	岩永 省三	九州大学名誉教授	考古学
	末次 大輔	宮崎大学教授	土木工学

4年度大宰府外郭線調査一覧

調査次数	面積（㎡）	調査期間	調査地区
大宰府外郭線第3次補足	21.0	2022.4.13～ 2022.12.19	大宰府外郭線東側推定線

○大宰府外郭線第3次補足調査（小郡市三沢）

大宰府外郭線第3次調査は、踏査によって遺構の存在が想定された小郡市三沢地内の三ヶ所を対象に、2年度に実施し、3年度に補足調査を行った発掘調査である。3年度の調査により、桜町堤付近の第6トレンチにおいて、人為の可能性のある土層を確認したが、詳細な検討を行うため、4年度に再度補足調査を実施した。

調査は水路を囲むようにコ字形にトレンチを拡張し、土層の傾きや堆積状況を検討した。人為の可能性のある土層については、古代の層状積土に類似するが、自然堆積の可能性も残された。



筑前国分寺跡第30次調査

○報告書「大宰府外郭線Ⅰ」の刊行

◎古代歴史文化協議会

古代歴史文化にゆかりの深い全国14県が連携し、平成26年に「古代歴史文化協議会」が設立された。協議会では平成26年度から30年度までの第1期共同調査研究テーマを「古墳時代の玉類」とし、各県連携して調査研究や成果の普及活用を行ってきた。元年度から4年度までの第2期共同調査研究ではテーマを「弥生・古墳時代の刀剣類」とし、調査研究を行った。本調査研究成果を基に、大阪歴史博物館にて特別企画展「刀剣～古代の武といのり～」、講演会「刀剣が語る巨大古墳の時代」を開催した。また、成果図書『刀剣～武器から読み解く古代社会～』を刊行した。

【古代歴史文化協議会加盟県】

埼玉県・石川県・福井県・三重県・兵庫県・奈良県・和歌山県・鳥取県・島根県・岡山県・広島県・福岡県・佐賀県・宮崎県（14県）

○4年度事業内容

- ・特別企画展「刀剣～古代の武といのり～」

会期：令和4年10月15日（土）～12月4日（日）



展示会場入口



14県グッズ紹介ブース

特別企画展「刀剣～古代の武といのり～」（大阪歴史博物館）展示風景

会場：大阪歴史博物館

- ・第6回古代歴史文化講演会「刀剣が語る巨大古墳の時代」
開催日：令和4年10月30日（日）
会場：大阪歴史博物館
- ・成果図書『刀剣～武器から読み解く古代社会～』
刊行日：令和4年10月11日（火）
編集：古代歴史文化協議会
- ・第15回研究集会 8月3日（水）～4日（木）を大阪歴史博物館で開催
- ・担当者Web会議を年4回開催

(2) 展 示

◎常設展示

第1展示室では、「歴史(とき)の宝石箱」をテーマに、旧石器時代から近現代に至る福岡県の歴史を、遺跡からの出土品の他、仏像、古文書、古地図、古絵図等の実物を、概ね時系列に沿って展示することにより、通史的に紹介している。象徴的な資料と向き合うことを通して、福岡県さらには九州の歴史を体感できるよう意図している。文書や絵画資料については、資料の保全のため、また資料の調査研究の活性化やリピーター獲得のために、約2か月ごとに展示替えを行っている。

第2展示室では、大宰府政庁中門の10分の1復元模型を展示する他、九州の大きさや地形、位置や距離を学ぶことができるように、床面の中央に縮尺10万分の1の九州の衛星写真を設置している。

第3展示室では、縦横に棚を連ねたロッカー式のケースに、福岡県内出土の弥生土器や須恵器、軒先瓦などを基本的に時系列に沿って並べ、形や文様、調整等制作技術の移り変わりが理解できる展示を行っている。また引き出し式のケースには、貿易陶磁や国産陶器等の破片資料を展示しており、それら資料の多彩な色や文様、胎土等の様子を観察することができる。

第4展示室では、旧石器時代や縄文時代の集石遺構、弥生時代の小児甕棺墓や銅矛銅戈埋納土坑、古墳時代の編み籠に入った須恵器、奈良時代の地盤強化のための筏状遺構、平安時代の製銅炉他の、現地で保存することができなかった遺構を切り取ってきて保存処理を施して床下のケースに収め、地中の遺跡を覗き込むような形での展示を行っている。

第1展示室、第2展示室においては、常設展示の内容を掘り下げたり、より平易に入門編的に紹介したり、学校の授業と連動させるなどした、特集展示と銘打った展示も行っている。特別展や企画展に比べると小規模で手作りのものではあれ、その分必要に応じ調査研究の進捗に応じて臨機的に織り込むことができ、展示に変化をもたらしている。

また当館では、展示内容や展示資料の歴史的な背景をより深く理解してもらうために、ギャラリートークを定期的に行い、YouTubeなどを通じて展示の紹介を行うなどもしている。

<常設展示「歴史の宝石箱」展示構成>

- 第1章 旧石器・縄文時代 狩猟と採集
- 第2章 弥生時代 稲作とクニ
- 第3章 古墳時代 北部九州の古墳文化
- 第4章 古代Ⅰ 大宰府史跡
 - 古代Ⅱ 西海道大宰府
 - 古代Ⅲ 仏教美術
- 第5章 中世Ⅰ その後の大宰府
 - 中世Ⅱ 武士と戦乱の世
- 第6章 近世 「太平の世」の福岡
- 第7章 近代Ⅰ 「福岡県」の誕生とあゆみ
 - 近代Ⅱ 絵図の世界



第1・3展示室

◎特集展示

○特集展示 「きゅうおにとタイムトラベル ―大昔のくらしと国づくり―」

会期：令和4年4月5日(火)～7月18日(日)

会場：第2展示室

主催：九州歴史資料館

内容：例年の企画展である。福岡の大昔の人たちはどのような服を着ていたのか、食べ物は何を食べて暮らしていたのか、また日本の国はどのように形作られてのか。そのような大昔の歴史の疑問を、当館のイメージキャラクターである「きゅうおに」とともに縄文・弥生・古墳・奈良の各時代をタイムトラベルしながら探っていく小学生とくに歴史をはじめて学ぶ高学年の子供たちを対象とした展示である。教育普及の観点を重視し、歴史学習をより楽しくできるように、わかりやすくするために実物資料だけではなくレプリカやイラストパネルを多用した。第1展示室では実践しにくかった子供たちへむけての展示を実践でき、さらに親や先生、同級生などと一緒に楽しめる企画でもある。



「きゅうおにとタイムトラベル」 入口からの展示風景

○特集展示 「やきもの はじめの一步① やきものの種類と器の形」

会期：令和4年7月20日（火）～10月2日（日）

会場：第2展示室

主催：九州歴史資料館

内容：「やきもの」は私たちの毎日の生活で使用される身近な道具の一つである。特に食器の中で、陶器や磁器の色とりどりの「やきもの」を用いたり、各自がそれぞれの食器があるのは、日本人ならではの文化ともいえる。博物館においても「やきもの」は多く展示しており、当館では縄文、弥生土器、土師器、須恵器、三彩、青磁、黒釉陶、白磁、褐釉陶、青白磁など多くの「やきもの」がある。その産地は中国、朝鮮、イスラムなど海外などを含め、九州島内外の国産陶器も多岐にわたる。このように身近に感じることでできる「やきもの」だが、その詳細について知っている人は多くない。そこで、本特集展示は「やきもの」の基礎的な知識を当館の資料を使って、分かりやすく解説した。第1回目は、「やきものの種類」をとりあげ、土器、陶器、磁器の違い、器の形とその各部位名称などについて、パネルなどの解説を多くして、楽しく理解できる内容とした。



「やきもののはじめの一步」展示風景
土器の解説部分

○特別展示「京都平野と豊国の古代」

会期：令和4年10月8日（土）～12月4日（日）

会場：第1・2展示室

主催：九州歴史資料館

共催：行橋市、行橋市教育委員会、苅田町、苅田町教育委員会、みやこ町・みやこ町教育委員会

内容：京都平野は古くから、瀬戸内海を通じた近畿地方との海上交通における九州東岸の玄関口に

あたることから、多くの人びとや文物が往来する地域であった。古墳時代の京都平野や宇佐地域の豪族は、九州最古級の前方後円墳が築かれたように、倭王権と早くから結びついた。さらに豊前地域には、朝鮮半島からの渡来人も多く居住して先進的な技術をもたらすとともに、飛鳥時代には朝鮮系瓦が甍を飾った寺院が多く造営され、仏教文化が花開いた。そして律令制国家の成立により、京都平野には豊前国府が置かれ、繁栄したのである。

本展においては、京都平野の原始・古代を概観することにより、古来、京都平野を中心とする豊前地域が、朝鮮半島、近畿地方との交流の拠点として繁栄し、日本の古代文化形成の上で大きな役割をはたしたことに思いをはせていただけることを企図した。

主な展示品は下記の通りである。

第1章 京都平野の最古の人びと：動物化石（苅田町青龍窟 [ナウマン支洞] 出土 福岡・苅田町教育委員会蔵）、石刃・台形様石器等（行橋市渡筑紫遺跡C区出土 福岡・行橋市教育委員会蔵）、深鉢（苅田町浄土院遺跡出土 福岡・苅田町教育委員会蔵）。

第2章 京都平野と稲作文化：彩色壺（みやこ町大熊条里遺跡出土 福岡・みやこ町教育委員会蔵）、広形銅矛（伝行橋市天生田大将陣出土 福岡・個人蔵）。

第3章 豊国の豪族と倭王権：重要文化財 三角縁獣文帯三神三獣鏡（大分県宇佐市赤塚古墳出土 京都・京都国立博物館蔵）、重要文化財 三角縁獣文帯三神三獣鏡（苅田町石塚山古墳出土 福岡・宇原神社蔵）、重要文化財 金銅立飾付眉庇付冑・横矧板鋌留短甲（行橋市稲童21号墳出土 福岡・行橋市教育委員会蔵）。

第4章 渡来人と豊国の古代寺院：重要文化財 豊前国仲津郡丁里大宝二年戸籍断簡（正倉院旧蔵 奈良・奈良国立博物館蔵）、大分県指定有形文化財 八幡宇佐宮御託宣集大卷十一 大分・宇佐神宮蔵）、重要文化財 弥勒寺喜多院所領注進（京都・石清水八幡宮蔵）、複弁八弁蓮華



特別展「京都平野と豊国の古代」展示風景

文軒丸瓦 上毛町垂水廃寺出土 福岡・上毛町教育委員会蔵)

第5章 豊前国の成立と京都平野：長頸壺（行橋市御所ヶ谷神籠石出土 福岡・行橋市教育委員会蔵）、墨書土器「京郡物太」「京都大」「津」（行橋市延永ヤヨミ園遺跡出土 当館蔵）。総点数：168件700点 図録：A4版、168頁、頒価1,100円

関連する当館主催イベントは以下のとおりである。

・特別展開催記念講演会：日時：11月6日（日）講師：亀田修一氏（岡山理科大学名誉教授） 演題「古代の豊前と渡来人」。

・夕べのギャラリートーク：日時：10月28日（金）講師：進村真之（考古）、11月25日（金）講師：酒井芳司（歴史）。

・九歴講座：10月8日（土）酒井芳司（当館 学芸員）「京都平野の飛鳥・奈良時代」。11月12日（土）山口裕平氏（行橋市教育委員会文化課）「京都平野の古墳時代」。

・その他：10月23日（日）特別展開催記念茶会。10月29日（土）アクロス福岡ミュージアムコンサートin九州歴史資料館。10月30日（日）文化財めぐり「みやこ古墳日和」講師：吉村靖徳（当館副館長）

◎企画展

4年度は、第1展示室の一部および第2展示室を会場として、3回の企画展を開催した。第1展示室の約3分の1を使って行い図録も作成する、特別展に準ずる企画展としては、福岡藩のお抱え絵師の家である尾形家の、はじめの三代をとり上げた「尾形家三代一探幽に学んだ福岡藩御抱え絵師一」を開催した。同時期に同じく第1展示室にて、「古墳時代の刀剣」も開催している。これは、福岡県も参加した古代歴史文化協議会における刀剣の研究成果をもとに、大阪歴史博物館で開催された特別企画展「刀剣 古代の武といのり」の地域展的な位置づけとして、福岡県の資料と、同じく協議会の構成県である佐賀県や宮崎県の資料を集めて展示を行ったものである。そしてもう1回は、第2展示室で開催した「山国側流域の遺跡展」で、これは文化財調査室が例年行っている発掘調査の成果速報展の4年度分である。

○第65回企画展「山国川流域の遺跡～山国川築堤関係発掘調査の成果～」展

会期：令和4年12月6日（火）～5年3月26日（日）

会場：第2展示室

当館では県内各地に所在する遺跡の発掘調査を継続的に実施しており、郷土の歴史を知る上で多くの成果を挙げている。平成23年度からは毎年、前年度に行った発掘調査の成果を公開する企画展示「発掘速報展」を開催しており、4年度は山国川築堤関係発掘調査の成果を紹介する展示を行っ



写真：（左：第2展示室展示風景 右：下唐原東屋敷遺跡）

た。紹介したのは、上唐原遺跡、上唐原了清遺跡、下唐原宮園遺跡、金居塚遺跡、下唐原東屋敷遺跡、上唐原稲本屋敷遺跡、百留居屋敷遺跡の7遺跡である。

関連事業として、会期中の12月23日（金）、夕べのギャラリートーク（展示資料解説）を実施した。

○第66回企画展「尾形家三代―探幽に学んだ福岡藩御抱え絵師―」

会期：令和5年1月18日（水）～3月12日（日）

会場：第1展示室（一部）

主催：九州歴史資料館

内容：福岡藩御抱え絵師尾形家の初代仲由、第2代守義、第3代守房について、調査研究の成果を紹介する展示を行った。尾形家は、江戸時代を通して福岡藩士として活動した狩野派絵師の家系だが、なかでも先述の3代は、江戸で活躍した狩野探幽に絵を学び、その画風をもって筑前の地で活躍した重要な絵師といえる。この3代について、県内に残る作品と、福岡県立美術館に所蔵される「尾形家絵画資料」の画稿を展示し、その画業と制作の背景を紹介した。

展示は、第1展示室の近世・近代コーナーを使用し、「狩野探幽―江戸狩野派の巨匠―」「仲由・守義・守房―尾形家はじめの三代―」「三代の画稿―尾形家絵画資料より―」「その後の尾形家―継承される図様と画法―」の4章構成とした。展示件数は初公開作品を含む31件で、すべて寺社や博物館・美術館からの借用品である。尾形家については、近年まとまった展示はなされておらず、久方ぶりの展示となり、さらに、探幽に学んだ尾形家のはじめの3代に着目した展示は初めての試みであった。結果として、県内で未だ認知度の低い尾形家や画稿について来館者に知っていただける機会となり、また、県内外の近世絵画研究者より予想以上に反響をいただくこともできた。会期中の入館者数は4,875名である。

なお、会期中の1月21日（土）には企画展開催記念講演会「福岡の御抱え絵師たち」（講師：小林法子氏（元福岡県文化財保護審議会委員））を開催し、38名の参加者があった。1月27日（金）には当館学芸員によるギャラリートークを行い、10名の参加者があった。



企画展「尾形家三代」展示風景

◎企画展「古代九州の刀剣」

会期：令和5年1月18日（水）～3月12日（日）

会場：第1展示室

主催：九州歴史資料館

章立：第1章「刀剣のはじまりと前方後円墳の成立」

第2章「刀剣が語る巨大古墳の時代」

内容：本展では「古代九州の刀剣」と題し、弥生時代から古墳時代にかけての刀剣の変遷を時系列的に沿って解説した。

稲作農耕による富の蓄積は、『漢書』に「百余国」と記される国々を日本列島に誕生させた。やがて、国々は巨大前方後円墳に象徴される統一政権「倭王権」にまとまり、日本国の原型を形作った。一連の国づくりの過程で、日本列島にもたらされた刀剣は、近接戦闘武器として普及し、幾度もの対外交渉を経ながら日本独自の刀剣を成立させた。対外交渉の窓口とも言える九州の遺跡からは、朝鮮半島の刀剣と類似する磨製石剣や、日本国内で製作された鉄剣等が数多く出土する地域性がある。

本展では以上の国家形成の歴史、九州の地域性をふまえ、福岡県内出土資料を中心に、良好な刀剣資料の出土が知られる宮崎県・佐賀県出土資料を展示した。



企画展「古代九州の刀剣」

◎パネル展

県内各地の多様な文化財を紹介し、また、これまで福岡県が行ってきた調査研究の成果を公開することを目的に、写真や図版によるパネル展を開催した。

当館主催のパネル展が5回。その内訳は、当館の研究成果を紹介する展示3回、名誉館長講座と連動した展示1回、世界遺産を紹介する展示1回である。また、筑紫地区社会教育振興協議会文化財部会主催・当館共催で、地域の文化財を紹介する展示を1回開催した。

○パネル展「『倭の水人』の実態を探ってみた」

会期：令和4年6月28日（火）～9月4日（日）

会場：九州歴史資料館2階 文化情報広場

主催：九州歴史資料館

内容：古代の漁撈具に関する調査研究の成果を紹介する展示。『魏志』倭人伝に登場する「倭の水人」の記述は、3世紀当時、玄界灘沿岸に漁撈活動をする人々が存在していたことを示している。展示では、福岡市・西新町遺跡から出土する漁撈具を整理分析しながら、彼らの漁撈活動の実態に迫った。同遺跡から出土する大量の石錘は、近世・近代の漁撈具と比較することでその使い方や機能が復元的に考察でき、彼らが倭人伝が記す以上に多様な漁撈技術を有していたことを明らかにする。問いの設定から、分析方法の選択、考察の進め方など、研究の進展の過程も含めてパネルで分かりやすく紹介した。科学研究費助成事業の成果報告展示。



「『倭の水人』の実態を探ってみた」ポスター

○パネル展「世界遺産『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺跡群」

会期：令和4年9月6日（火）～10月2日（日）

会場：九州歴史資料館2階 文化情報広場

主催：九州歴史資料館

内容：福岡県内の世界遺産「『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺跡群」を紹介する展示。平成29年

度にユネスコの世界文化遺産に登録された同遺産について、福岡県世界遺産室が作成したパネルを展示した。パネルでは、沖ノ島を中核とした宗像市及び福津市に所在する複数遺跡で構成される同遺産について、それぞれの遺跡の特徴や関連性を紹介し、あわせて世界遺産登録に至るまでの経緯を紹介した。また、会期中にはパネル展の横で同遺産を紹介する映像番組を上映し、パネル展との相乗効果で同遺産に興味をもってもらえるようにした。

○パネル展「福岡鉄道遺産ものがたり8～日豊本線編～」

会期：令和4年10月4日（火）～12月4日（日）

主催：九州歴史資料館

会場：九州歴史資料館2階 文化情報広場

内容：福岡県内の鉄道史に関する調査研究の成果を紹介する展示。近代の福岡県では、濃密な鉄道網が形成され、戦前から多くの鉄道施設も建設されてきた。これらの鉄道施設には、今なお「鉄道遺産」として現存しているものもある。これらは、近代福岡県の交通を物語る貴重な文化遺産であり、当館ではこれまで「福岡鉄道遺産ものがたり」シリーズとして、7回に渡り県内各地の鉄道遺産を紹介してきた。

シリーズ8回目の本展では、同年度特別展「京都平野と豊国の古代」にあわせて、京築地域を走る日豊本線に関連する鉄道遺産を紹介した。各鉄道遺産の写真パネルに加え、日豊本線敷設の歴史や、京築地域で計画された鉄道構想についても取り上げている。また日豊本線列車の始発駅の一つで、先年修復工事が完了した重要文化財門司港駅や、かつて豊後地域を走り、4年に気動車として初の重要文化財に指定された「キハ42055号気動車」（JR九州所蔵、九州鉄道記念館保管）も紹介した。

○パネル展「筑紫・豊（前）の四つの窓（前編）」

会期：令和4年12月6日（火）～5年2月26日（日）

会場：九州歴史資料館2階 文化情報広場

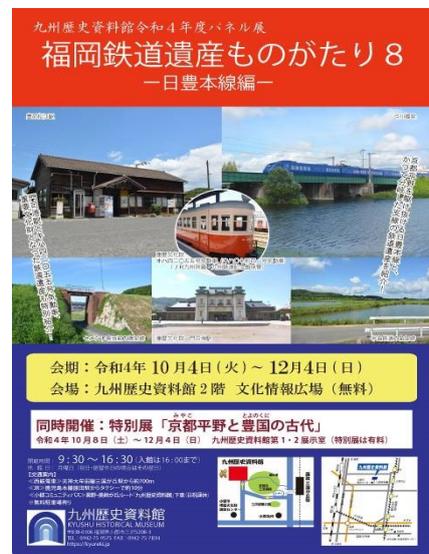
主催：九州歴史資料館

内容：西谷正名誉館長による名誉館長講座と連動した展示。かつて筑紫・豊（前）の国と称されていた福岡県は、玄界灘・響灘・周防灘・有明海の四つの海に面している。この四つの海は、古代から福岡県域と外部との文化交流の窓口としての機能も果たし、いわば「四つの窓」ともいえる。この四つの窓に面した地域の遺跡については、当館の西谷正名誉館長が長年研究を行い、数多くの写真も撮影してきた。

本展では、4年度から5年度にかけて開催される名誉館長講座「筑紫・豊（前）の四つの窓」にあわせ、四つの窓に関連する遺跡について、西谷名誉館長撮影の写真パネルで取り上げた。名誉館長講座が2年間で



「世界遺産『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺跡群」ポスター



パネル展「福岡鉄道遺産ものがたり8～日豊本線編～」ポスター



「筑紫・豊（前）の四つの窓（前編）」展示風景

開催されるため、4年度は前編として、主に玄界灘と響灘に面した地域の遺跡を紹介した。後編については、5年度での開催を予定している。

○パネル展「筑紫地区文化財写真展 ちくし再発見～見てみんなね。中世の筑紫～」

会期：令和4年2月28日（火）～3月12日（日）

会場：九州歴史資料館2階 文化情報広場

主催：筑紫地区社会教育振興協議会文化財部会

共催：九州歴史資料館・九州国立博物館

内容：筑紫地区社会教育振興協議会文化財部会が主催し、当館などが共催する展示。筑紫地区（筑紫野市・太宰府市・大野城市・春日市・那珂川市）の文化財担当者が自治体の枠を超えて文化財を紹介する取り組みで、例年、共同で企画を立ててパネルを作成し、各自治体と九州国立博物館、当館で巡回展示する。4年度のテーマは「筑紫の中世」。「城」、「暮」、「祈」をキーワードに、地域に残る城郭遺跡や生活遺構、石碑、仏像などを取り上げ、中世の人々の営みを紹介した。



「筑紫地区文化財写真展 ちくし再発見～見てみんなね。中世の筑紫～」展示風景

○パネル展「古賀市船原古墳遺物埋納坑調査の最前線2022－2023」

会期：令和5年3月14日（火）～6月4日（日）

会場：九州歴史資料館2階 文化情報広場

主催：九州歴史資料館

内容：当館が平成25年から継続する古賀市・船原古墳の保存科学調査の成果展示。今回は、出土遺物に付着した有機物に注目した。船原古墳では、武具・馬具の科学的調査によって、織りの組織が確認できる繊維や、木材・漆・皮革など、多様な有機物が検出されている。これらは、武具・馬具の一部を構成するもの、あるいは埋納の際に収めたり包んだりしたものであったと推定され、遺物埋納の実態を解明する上で重要となる。本展示では、これらの成果について、デジタルマイクロスコープで撮影した鮮明な拡大写真を多くパネル化し、分かりやすく紹介した。



「古賀市船原古墳遺物埋納坑調査の最前線2022－2023」展示写真（遺物に付着した繊維）

(3) 資料利用

本館では、他機関の展示のため所蔵資料の貸出を行っている。考古資料のほか、文書資料、写真資料も貸出しており、令和4年度においては以下のとおり利用があった。また、他機関や学生による資料調査などの一時利用を受け入れており、平日以外にも、日曜日の閲覧希望も基本的に対応している。4年度の実績は考古資料貸出20件、同一次利用31件、写真資料貸出・掲載許可103件、文書・典籍資料一次利用1件である。

考古資料の短期貸出一覧(1)

番号	貸出先	点数	貸出資料名	貸出目的	貸出期間
1	田川市教育委員会	1	知恩寺跡出土ガラス薬瓶	企画展「炭鉱のメディカルー炭鉱の病と医療と救済とー」	4. 4. 中旬～5. 末
2	九州国立博物館	1	推定金光寺跡出土土製地蔵菩薩坐像	文化交流展「海の道、アジアの路」	R4. 5. 中旬～12. 下旬
3	甘木歴史資料館	16	大宰府政庁跡出土鬼瓦他	夏季企画展「朝倉の鬼と大宰府の鬼」	R4. 6. 中旬～8. 末
4	栃木県立博物館	32	大野城跡出土鬼瓦 他	特別企画展「鑑真和上と下野薬師寺」	R4. 8～11
5	田川市教育委員会	2	辻垣長通遺跡出土広片口三耳鉢 他	ミニ企画展「赤色に魅せられた弥生・古墳時代の人々」	R4. 6. 下旬～10. 末
6	九州国立博物館	16	三雲南小路遺跡出土連弧文「清白」銘鏡 他	文化交流展「海の道、アジアの路」	R4. 7. 下旬～9. 下旬
7	大田区立郷土博物館	20	貝元遺跡出土勾玉 他	特別展「大勾玉展」	R4. 7. 月上旬～11. 末
8	九州国立博物館	2	宮原遺跡出土刻印土器	文化交流展「海の道、アジアの路」	R4. 9. 1～R5. 3. 31
9	太宰府市文化ふれあい館	3	筑前国分寺跡出土土製如来形仏像頭部 他	「まるごと太宰府歴史館2022」	R4. 8. 2～11. 8
10	九州国立博物館	13	三雲遺跡出土土器 他	特別展「加耶」	R4. 11. 月上旬～R5. 3. 末
11	春日市教育委員会	1	大野城跡出土鬼瓦	考古企画展「古代日本の「西の都」」	R4. 8. 18～10. 14
12	古代歴史文化協議会	5	大庭久保遺跡出土石剣他	展覧会「刀剣ー古代の武といのりー」	R4. 9. 下旬～12. 末
13	小郡市教育委員会	3	千瀉遺跡出土金製玉他	特別展「小郡50年展」	R4. 8. 下旬～12. 中旬
14	伊都国歴史博物館	10	三雲南小路遺跡出土重圈彩面鏡 他	特別展「伊都国王誕生」	R4. 9. 下旬～12. 月上旬

考古資料の短期貸出一覧（２）

番号	貸出先	点数	貸出資料名	貸出目的	貸出期間
15	大野城心のふるさと館	6	勝浦井ノ浦古墳出土鏡 他	特別展「筑紫の至宝 国宝宮地嶽古墳出土宝物の世界」	R4. 10. 上旬～ R5. 1. 上旬
16	甘木歴史資料館	56	水城跡出土須恵器 他	企画展「杷木神籠石と古代山城」	R4. 10. 中旬～ 12. 下旬
17	九州国立博物館	8	大野城跡出土鬼瓦 他	文化交流展「海の道、アジアの路」	R5. 3. 上旬～8. 下旬
18	九州国立博物館	5	観世音寺出土三彩陶器	特別展「大阪市立東洋陶磁美術館名品展（仮）」	R5. 6. 上旬～ 10. 下旬
19	行橋市教育委員会	14	延永水取遺跡出土瓦 他	特別展「椿市廃寺の時代」	R5. 1. 19～3. 下旬
20	国立金海博物館	2	三雲遺跡出土土器 他	特別展「海を渡った加耶人」	R5. 4. 上旬～7. 下旬

考古資料の長期貸出一覧（１）

番号	貸出先	点数	貸出資料名	貸出目的	貸出期間
1	京都国立博物館	4	永岡遺跡出土甕棺 他	展示等利活用のため	4. 7. 1～7. 6. 30
2	京都国立博物館	1	筑後石人山石棺石膏製模型	展示等利活用のため	4. 7. 1～7. 6. 30
3	大韓民国国立羅州文化財研究所	1	道場山遺跡甕棺	常設展示のため	5. 2. 1～8. 1. 31
4	九州国立博物館	186件	門田遺跡出土細石刃 他	文化交流展示室展示等のため	5. 4. 1～6. 3. 31
5	国立歴史民俗博物館	9	広田遺跡出土浅鉢・深鉢 他	総合展示のため	5. 4. 1～6. 3. 31
6	岩手県立博物館	4	永岡遺跡出土弥生土器、甕棺	展示及び調査研究のため	5. 4. 1～6. 3. 31
7	甘木歴史資料館	42件	楠田遺跡出土縄文土器 他	常設展示のため	5. 4. 1～6. 3. 31
8	求菩提資料館	10	銅製経筒・草花双鳥鏡・蓬莱鏡	常設展示のため	5. 4. 1～6. 3. 31
9	福岡市博物館	2	西新町遺跡出土土器	常設展示のため	5. 4. 1～6. 3. 31
10	老司公民館	6	大宰府史跡出土瓦	展示ケース展示のため	5. 4. 1～6. 3. 31
11	古都大宰府保存協会	33	大宰府史跡出土資料	常設展示のため	5. 4. 1～6. 3. 31
12	大野城市牛頸ダム記念館	112	牛頸須恵器窯跡出土須恵器、写真パネル	牛頸ダム記念館展示のため	5. 4. 1～6. 3. 31

考古資料の長期貸出一覧（2）

番号	貸出先	点数	貸出資料名	貸出目的	貸出期間
13	筑紫野市歴史博物館	108	剣塚遺跡出土資料 他	筑紫野市歴史博物館展示のため	5. 4. 1～6. 3. 31
14	直方市教育委員会	72	内ヶ磯窯跡出土陶器	直方谷尾美術館展示のため	5. 4. 1～6. 3. 31
15	古賀市教育委員会	19	水上A遺跡出土縄文土器 他	古賀市歴史資料館展示のため	5. 4. 1～6. 3. 31
16	春日市教育委員会	6	伯玄社遺跡出土磨製石鏃 他	奴国の丘歴史資料館展示のため	5. 4. 1～6. 3. 31
17	伊都国歴史博物館	246	三雲南小路遺跡出土資料 他	常設展示のため	5. 4. 1～6. 3. 31
18	八女市教育委員会	1	真浄寺古墳出土短甲2号	岩戸山歴史資料館展示のため	5. 4. 1～6. 3. 31
19	小郡市埋蔵文化財調査センター	一式	津古内畑遺跡出土資料、記録	報告書作成のため	5. 4. 1～6. 3. 31
20	筑前町教育委員会	178箱	依井遺跡出土資料 他	筑前町歴史民俗資料館等で展示、報告書作成のため	5. 4. 1～6. 3. 31
21	粕屋町歴史資料館	76箱	駕与丁池遺出土資料 他	粕屋町歴史資料館展示のため	5. 4. 1～6. 3. 31
22	香春町教育委員会	84	陣山屋敷遺跡出土資料 他	香春町歴史資料館展示のため	5. 4. 1～6. 3. 31
23	みやこ町教育委員会	23点	徳永川ノ上遺跡出土資料 他	みやこ町歴史民俗博物館展示のため	5. 4. 1～6. 3. 31
24	鞍手町教育委員会	10件	銀冠塚古墳出土資料 他	鞍手町歴史民俗資料館展示のため	5. 4. 1～6. 3. 31
25	篠栗町教育委員会	117	高田遺跡出土資料 他	篠栗町中央公民館展示のため	5. 4. 1～6. 3. 31
26	須恵町教育委員会	419	乙植木古墳群出土資料	須恵町立歴史民俗資料館展示のため	5. 4. 1～6. 3. 31
27	福津市教育委員会	一括	津屋崎古墳群出土資料等	福津市歴史資料館展示のため	5. 4. 1～6. 3. 31
28	筑波大学	一括	立明寺古墳群出土資料	大学における教育等に活用するため	4. 4. 1～5. 3. 31
29	太宰府館	9	大宰府史跡出土瓦	太宰府館展示のため	5. 4. 1～6. 3. 31
30	宮城県多賀城跡調査研究所	25	大宰府政庁跡出土磁器	磁器の産地・年代同定する参考資料にするため	5. 4. 1～6. 3. 31

考古資料の長期貸出一覧（3）

番号	貸出先	点数	貸出資料名	貸出目的	貸出期間
31	埼玉県立歴史と民俗の博物館	2	永岡遺跡出土甕棺	常設展示のため	4.9.1～5.8.31
32	栃木県立博物館	2	門田遺跡出土甕棺	常設展示のため	4.10.1～ 5.9.30
	田川市教育委員会	1	伝田川市糴上ノ原遺跡 細形銅剣		5.4.1～6.3.31
	粕屋総合庁舎管理事務所、福岡県土整備事務所	20	箱崎遺跡出土資料	庁舎での展示のため	5.4.1～6.3.31
33	宮若市教育委員会	17	犬鳴遺跡出土資料	宮若市文化財収集・展示・交流センター展示のため	5.4.1～6.3.31

考古資料の一時利用（資料見学等）一覧（1）

番号	利用者(機関)	点数	利用資料名	利用目的	利用日
1	荻田町教育委員会	一式	松山城関係文書	報告書作成のため	4.4.21
2	個人	2	三雲遺跡出土鉄器	調査研究のため	4.4.25
3	春日市教育委員会	1	大宰府政庁跡出土鬼瓦	展示のための資料調査	4.4.21
4	春日市教育委員会	1	大野城跡出土鬼瓦	展示のための資料調査	4.6.15
5	個人	12	柿原古墳群出土鉄鉢 他	卒業論文執筆のため	4.6.28～7.1
6	個人	一括	上枇杷遺跡出土炭化米	調査研究のため	4.7.22
7	小郡市教育委員会	3	干潟遺跡出土玉 他	展示のための資料調査	4.6.27
8	田川市教育委員会	2	辻垣畠田遺跡出土土器 他	展示のための資料調査	4.6.22
9	個人	52	観世音寺出土陶磁器 他	調査研究のため	4.8.7～8
10	個人	65	西新町遺跡出土石製品	調査研究のため	4.8.22～23
11	個人	20	番塚古墳出土鉄鏃	修士論文執筆のため	4.8.10
12	個人	4	三雲遺跡出土石製品	調査研究のため	4.8.22～23
13	個人	6	西新町遺跡出土石製品	調査研究のため	4.9.26、10.17
14	個人	5	観世音寺出土製塩土器	卒業論文執筆のため	4.9.29
15	個人	42	観世音寺出土ガラス製品 他	調査研究のため	4.10.9
16	個人	15	西新町遺跡出土石製品	調査研究のため	4.10.24
17	個人	1	御笠川南条坊遺跡出土 線刻仏	調査研究のため	4.11.2

考古資料の一時利用（資料見学等）一覧（2）

番号	利用者(機関)	点数	利用資料名	利用目的	利用日
18	個人	7	門田遺跡出土鉄製品他	調査研究のため	4. 11. 15～16
19	個人	34	汐井掛遺跡出土鉄製品他	博士論文執筆のため	4. 11. 17
20	個人	103	観世音寺出土製塩土器他	卒業論文執筆のため	4. 11. 10～
21	個人	28	西新町遺跡出土窯道具他	調査研究のため	4. 12. 4
22	個人	26	牛頸窯跡出土土器 他	調査研究のため	4. 11. 20
23	個人	19	三雲遺跡出土土器 他	調査研究のため	4. 11. 20
24	個人	3	長野古墳群出土鉄器	調査研究のため	4. 12. 7
25	個人	8	汐井掛遺跡出土玉類他	調査研究のため	5. 1. 16
26	個人	1	鈴ヶ山古墳群出土鉄製品	調査研究のため	5. 2. 6
27	石川県埋蔵文化財センター	5	延永ヤヨミ園遺跡出土木製品	報告書作成のため	5. 2. 2
28	春日市教育委員会	26	塔原廃寺出土瓦 他	展示のための資料調査	5. 1. 31
29	個人	4	延永ヤヨミ園遺跡出土木製品	調査研究のため	5. 3. 15
30	個人	20	曲り田遺跡出土石製品他	調査研究のため	5. 3. 9
31	個人	8	大宰府跡出土土器 他	調査研究のため	5. 3. 29
32	個人	一括	塔原廃寺出土瓦	調査研究のため	5. 3. 28～29

文書・典籍資料等の短期貸出一覧

番号	貸出先	点数	貸出資料名	貸出目的	利用期間
1	甘木歴史資料館	2点	日本書紀 第五冊・第十二冊	企画展「朝倉の鬼と大宰府の鬼」	4. 6. 15～ 4. 8. 29
2	中津市歴史博物館	2点	小幡政義絵画作品のうち、一戸城・一戸城（二の丸付近）	企画展「土豪の城—豊前武士と戦国動乱—」	4. 9. 5～ 4. 11. 18
3	大牟田市立三池カルタ・歴史資料館	13点	野田大塊文書・永江文書	企画展「団琢磨没後90年特別展示」	4. 10. 4～ 4. 12. 4
4	甘木歴史資料館	1点	日本書紀 第十三冊	企画展「杷木神籠石と古代山城」	4. 10. 22～ 4. 12. 18
5	九州国立博物館	1点	続日本紀 巻五・六	特集展示「種子島—風と波が育んだ歴史—」	4. 12. 13～ 5. 2. 12

文書・典籍資料等の長期貸出一覧

番号	貸出先	点数	貸出資料名	貸出目的	利用期間
1	筑豊高等学校	223点	筑豊工業高校資料	資料室における展示	5・4・1～6・3・31
2	福岡県青少年科学館	90点	筑豊工業高校資料	常設展示	5・4・1～6・3・31
3	九州国立博物館	1点	筑豊工業高校資料	常設展示	5・4・1～6・3・31
4	福岡県教育庁筑豊教育事務所	7点	筑豊工業高校資料	展示のため	5・4・1～6・3・31

文書・典籍資料等の一時利用（資料見学等）一覧（1）

番号	利用者(機関)	点数	利用資料名	利用目的	利用日
1	新修宗像市史編集委員会	39点	福岡日日新聞・福陵新報・西日本新聞・九州日報（紙焼）	市史編纂	4.4.5～5.3.28
2	九州大学大学院人文科学府	58点	熊谷文書・戦時婦人生活資料、鷹尾家文書（新出）目録2011・安高文書・地域史収集資料・河田家資料	修士論文	4.4.8～4.4.21
3	宮若市教育委員会	2点	日本林制史資料（藤島利平文書）	調査研究	4.4.15
4	九州大学	1点	福岡藩関係史料	卒業論文	4.4.17
5	個人	3点	永江文書・地図絵図史料・『西日本文化』502（図書）	調査研究	4.4.26
6	北九州市立自然史・歴史博物館	10点	安高文書	調査研究	4.6.8～4.6.14
7	国土舘大学	24点	永江文書	調査研究	4.6.11
8	日本学術振興会特別研究員PD（東京大学社会科学研究所）	14点	貝原収蔵文書	調査研究	4.6.11
9	一橋大学・九州大学	76点	永江文書	調査研究	4.6.22
10	一橋大学	47点	野田大塊文書・永江文書・佐々木（清）文書・貝原収蔵文書・鳥居文書・九州日報	調査研究	4.6.23
11	東京大学法学部	55点	永江文書・野田大塊文書	調査研究	4.6.24
12	九州国立博物館	4点	内閣文庫蔵筑前国各郡図地理全誌付図・高島文書	調査研究	4.6.30

文書・典籍資料等の一時利用（資料見学等）一覧（2）

番号	利用者(機関)	点数	利用資料名	利用目的	利用日
13	九州大学	18点	野田大塊文書・永江文書・戸川（博）文書・絵葉書・地図絵図史料・福岡日日新聞	調査研究	4. 7. 17
14	個人	35点	篠崎文書・有田（建）文書・花瀬村庄屋文書	調査研究	4. 7. 23
15	個人	13点	花瀬村庄屋文書	調査研究	4. 7. 24～4. 12. 25
16	個人	6点	黒田家文書・福岡藩関係史料	調査研究	4. 7. 28
17	福岡県立香住丘高等学校	1点	福岡藩関係史料	教材研究	4. 7. 29
18	大阪経済大学	5点	野田大塊文書	調査研究	4. 8. 4
19	大牟田市立三池カルタ・歴史資料館	35点	野田大塊文書・永江文書	展示準備	4. 8. 11
20	個人	1点	米多比（善）文書（紙焼）	調査研究	元. 8. 12
21	個人	41点	糟屋郡史編纂史料・福岡藩関係資料・御笠郡土木資料仮目録	調査研究	元. 9. 16
22	立命館大学	125点	野田大塊文書・永江文書・福岡日日新聞・西日本新聞社史（図書）・西日本新聞百年史（図書）	調査研究	元. 9. 18～ 元. 9. 19
23	大野城市教育委員会	1点	福岡日日新聞	調査研究	元. 10. 14
24	大牟田市立三池カルタ・歴史資料館	47点	伊東尾四郎文書	展示準備	元. 11. 7
25	小山工業高等専門学校	28点	林（美）文書	調査研究	4. 8. 14～4. 8. 16
26	POW研究会	3点	永江文書	調査研究	4. 8. 17
27	松本大学	95点	農業関係資料・花瀬村庄屋文書・山北村庄屋文書・中尾文書・東下村史料・水城文書・矢野文書	調査研究	4. 9. 30～4. 10. 1
28	個人	3点	野田大塊文書	調査研究	4. 10. 2
29	一般財団法人西日本文化協会「西日本文化」編集室	2点	福岡日日新聞	調査研究	4. 10. 13
30	大妻女子大学博物館大妻コタカ・大妻良馬研究所	7点	戦時婦人生活資料・福岡日日新聞	調査研究	4. 10. 16
31	ASOポップカルチャー専門学校ゲーム・CG・アニメ科CGコース	6点	大田静六史料	調査研究	4. 10. 18
32	県立広島大学大学院	1点	高島文書	調査研究	4. 10. 23

文書・典籍資料等の一時利用（資料見学等）一覧（3）

番号	利用者(機関)	点数	利用資料名	利用目的	利用日
33	舞鶴古文書会	4点	黒田家文書	調査研究	4. 11. 4～4. 12. 2
34	大韓民国国史編纂委員会	322点	永江文書・野田大塊文書・河田家文書・福岡藩関係史料	調査研究	4. 11. 24
35	NPO法人愛媛県建設技術支援センター	83点	福岡日日新聞	調査研究	4. 12. 27
36	東京大学大学院教育学研究科	23点	安高文書・西村（太）文書・永江文書	調査研究	5. 1. 14
37	九州産業大学商学部	66点	永江文書・熊谷文書・福岡日日新聞・戸川文書・門司鉄道管理局所蔵資料	調査研究	5. 2. 10～5. 3. 24
38	麗澤大学	14点	永江文書	調査研究	5. 2. 15
39	フェリス女学院大学	8点	永江文書・野田大塊文書	調査研究	5. 2. 15
40	早稲田大学	5点	永江文書・野田大塊文書	調査研究	5. 2. 26
41	東京大学林政学研究室	16点	花瀬村庄屋文書・中尾文書・鳥居文書・矢野文書・野田大塊文書	調査研究	5. 3. 3
42	個人	2点	後藤（健）所蔵史料	調査研究	5. 3. 7
43	東京大学社会科学研究所	20点	秋月諸家文書・永江文書	調査研究	5. 3. 21

写真資料等の貸出・掲載許可一覧（1）

番号	貸出先	点数	貸出・掲載資料名	貸出・掲載目的
1	山川出版社	1	政庁跡南門	『日本史リブレット人 17 平将門と藤原純友』に掲載
2	みやこ町歴史民俗資料館	1	大宰府政庁復元模型	豊前国府跡解説版に使用
3	安城市歴史博物館	1	貝原益軒書簡	展覧会「養生から健康へ」に使用
4	福岡地区社会科学研究協議会	1	大宰府政庁跡	「福岡版よいこの社会科」に使用
5	有限会社オフィス・イディオム	3	大宰府政庁復元模型他	「DVD付きNEW日本の歴史」に使用
6	平戸市生月町博物館・島の館	7	太田静六氏撮影写真	展示に使用
7	甘木歴史資料館	9	大宰府政庁跡出土鬼瓦他	「朝倉の鬼と大宰府の鬼」展に使用

写真資料等の貸出・掲載許可一覧（2）

番号	貸出先	点数	貸出・掲載資料名	貸出・掲載目的
8	宮崎県立西都原考古博物館	2	西新町遺跡遺構写真他	企画展に使用
9	栃木県立博物館	14	大野城跡出土鬼瓦他	特別企画展に使用
10	株式会社雄山閣	1	大宰府政庁跡復元模型	別冊季刊考古学に使用
11	西日本文化協会	2	「日誌 篠田分」	『西日本文化』503号に使用
12	地域情報センター	5	砦見古墳出土品	『ふくおか経済』7月号に使用
13	新修宗像市史編集委員会	35	大宰府政庁復元模型他	『新修宗像市史』に使用
14	祐天寺研究室	1	祐天上人関係資料	『続祐天寺史資料集』に使用
15	太宰府市教育委員会	1	塚堂遺跡出土遺物	『広報太宰府』7月号に使用
16	ユニフォトプレスインターナショナル	1	大宰府政庁復元模型	問題集に使用
17	九州テレ・コミュニケーション	1	大宰府史跡出土墨書土器	番組「2755（つなゴーゴー）」で使用
18	太宰府市教育委員会	2	齋藤秋圃作「十二ヶ月風俗図絵巻」他	パネル展に使用
19	個人	11	三雲遺跡出土遺物他	論文に使用
20	太宰府市教育委員会	3	筑前国分寺塔跡他	リーフレットに使用
21	春日市教育委員会	5	墨書土器「水城」他	企画展に使用
22	中世土器研究会	1	大宰府史跡出土磁器	単行本で使用
23	第一法規株式会社	1	大宰府政庁跡空中写真	月刊文化財に使用
24	鈴鹿市考古博物館	3	筑前国分寺塔跡他	特別展に使用
25	大阪府立狭山池博物館	3	延永ヤヨミ園遺跡導水施設他	特別展で使用
26	新修宗像市史編集委員会	13	永江文書他	新修宗像市史に使用
27	RKB映画社	4	船原古墳出土遺物	番組『ミライアングル』に使用
28	若狭おぼま食文化館	3	観世音寺礎礎	展示に使用
29	古代歴史文化協議会	2	大庭久保遺跡出土石剣他	図録に使用
30	アジア文化交流センター	1	三雲遺跡遺構写真	展示に使用
31	太宰府市教育委員会	1	博多太宰府図屏風	地域活用計画で使用
32	中津市歴史博物館	1	豊前国下毛郡津民荘香春口扇ヶ城之墟図	企画展に使用
33	中津市歴史博物館	2	一ッ戸城跡鳥瞰図	企画展に使用
34	朝日カルチャーセンター 福岡教室	3	絵葉書資料他	講座の広報に使用
35	小郡市教育委員会	3	三沢遺跡他	展示に使用

写真資料等の貸出・掲載許可一覧（3）

番号	貸出先	点数	貸出・掲載資料名	貸出・掲載目的
36	京都大学生存圏研究所	2	紫草荷札木簡他	学術誌に使用
37	乃村工藝社	1	旧福岡県庁全景	展示に使用
38	伊都国歴史博物館	68	三雲遺跡出土品	展示に使用
39	因幡万葉歴史館	5	文様埴他	展覧会「憶良と家持」に使用
40	岩戸山歴史文化交流館	18	王塚古墳他	企画展に使用
41	株式会社かみゆ	1	水城跡全景	書籍に使用
42	株式会社ズームエンタープライズ	1	大宰府政庁復元模型	テレビ番組に使用
43	目の眼	1	三沢蓬ヶ浦遺跡出土勾玉	特別展の紹介記事に使用
44	西日本文化協会	6	永江文書	雑誌『西日本文化』第504号に使用
45	株式会社エイジャ	1	宗原遺跡出土石器	書籍『福岡の教科書』に使用
46	株式会社講談社	1	大宰府政庁復元模型	書籍『日本の歴史』に使用
47	株式会社hotozero	1	大宰府跡出土木簡	ウェブマガジンに使用
48	大野城心のふるさと館	1	王塚古墳	特別展に使用
49	古都大宰府保存協会	6	水城銘墨書土器他	マップに使用
50	奈良大学総合研究所	1	大野城跡空中写真	公開講座に使用
51	梓書院	4	三雲南小路遺跡出土遺物他	書籍に使用
52	小学館	1	大宰府政庁復元模型	書籍に使用
53	東京法令出版株式会社	2	水城跡航空写真他	書籍に使用
54	株式会社日本入試センター	1	大宰府政庁復元模型	教材に使用
55	テレビジョンフィールド	1	日永遺跡出土銅矛	番組に使用
56	久留米市教育委員会	2	塚崎東畑遺跡全景	日本考古学協会ポスターセッションに使用
57	奈良大学	5	門田遺跡出土鉄剣他	書籍に使用
58	図書館流通センター	2	江戸麻布御殿表絵図	『港区史』に使用
59	太宰府天満宮	1	林文書	報告書に使用
60	RBCビジョン	2	大宰府出土木簡	番組に使用
61	吉川弘文館	1	ハサコノ宮2号墳出土遺物	書籍に使用

写真資料等の貸出・掲載許可一覧（４）

番号	貸出先	点数	貸出・掲載資料名	貸出・掲載目的
62	吉川弘文館	2	三雲遺跡出土遺物	書籍に使用
63	佐賀大学	一式	西新町遺跡出土遺物	大韓民国MBC光州テレビ番組「海上王国 馬韓」に使用
64	フィールドノート	13	大野城跡他	案内板に使用
65	春日市教育委員会	4	原遺跡	案内板に使用
66	太宰府市	2	博多太宰府凶屏風他	ホームページに公開
67	九州国立博物館	1	西新町遺跡竪穴住居跡	特別展「加耶」に使用
68	北九州市	1	香月村寿命唐戸通舟景	「グラ・マップ北九州」に使用
69	甘木歴史資料館	5	「水城」銘墨書土器	企画展に使用
70	第一学習社	1	大宰府の防衛網	副教材に使用
71	西日本文化協会	3	吉嗣拜山関係史料	西日本文化505号に使用
72	文藝春秋	7	桂川王塚古墳他	『装飾古墳の謎』に使用
73	吉川弘文館	1	大宰府跡出土木簡	『大学で学ぶ 沖縄の歴史』に使用
74	福岡市博物館	2	大宰府政庁復元模型他	展示に使用
75	プラスチックスタジオ	1	大宰府政庁復元模型	月刊広報誌『あんしんLife』に使用
76	(財)釜山文化財団	2	朝鮮人来聘記	ホームページに公開
77	斎宮活性化実行委員会	2	大宰府跡出土鬼瓦他	公開講座で使用
78	行橋市教育委員会	6	延永ヤヨミ園遺跡出土木簡他	特別展に使用
79	大野城心のふるさと館	1	水城跡	紀要に使用
80	太宰府市教育委員会	2	齋藤秋圃筆「十二ヶ月風俗図絵巻」他	紀要に使用
81	築上町教育委員会	1	福岡菜切古墳群	説明板に使用
82	株式会社グレイル	3	西新町遺跡他	書籍『目からウロコ日本古代の新常識!』に使用
83	西日本文化協会	3	西新町遺跡出土土器	『西日本文化』506号に使用
84	株式会社チューエツ	1	水城跡	教科書に使用
85	株式会社新泉社	6	三雲遺跡出土遺物他	『ビジュアル版 弥生時代ガイドブック』に使用
86	九州国立博物館	1	三足壺	特別展で使用
87	徳之島町教育委員会	2	大宰府出土木簡	『徳之島町誌』に使用
88	有限会社秋耕社	3	広幡山城他	『九州の名城を歩く一福岡編一』に使用
89	飯塚市教育委員会	1	目尾炭坑	パンフレットに使用

写真資料等の貸出・掲載許可一覧（5）

番号	貸出先	点数	貸出・掲載資料名	貸出・掲載目的
90	株式会社新泉社	1	栗田遺跡出土丹塗土器	書籍に使用
91	苅田町教育委員会	32	富久古墳群出土埋れ木玉	年報に使用
92	サイバー・ネット・コミュニケーションズ		大宰府史跡航空写真	『社会科 中学生の歴史』に使用
93	戎光祥出版株式会社	1	大宰府政庁跡空中写真	『図説 藤原氏』に使用
94	古都大宰府保存協会	1	大宰府史跡調査風景	『都府楼』54号に使用
95	個人	11	勝浦峰ノ畑古墳出土遺物	『沖ノ島研究』第9号に使用
96	毎日新聞福岡本部	1	竹原古墳	記事に使用
97	奈良文化財研究所	2	王塚古墳	企画展に使用
98	個人	2	代古墳出土遺物	論文に使用
99	個人	1	大宰府出土陶磁器	論文に使用
100	久留米市教育委員会	1	塚崎東畑遺跡	展示に使用
101	福岡地区社会科研究協議会	2	大宰府政庁跡空中写真	『福岡版よいこの社会科』に使用
102	八木書店	1	延永ヤヨミ園遺跡遺構写真	書籍に使用

(4) 学習支援・博学連携

◎学習支援活動

○来館学習

4年度の来館学習では、小グループに分かれて職員が引率する館内ツアー形式での学習プログラムを実施した。またエントランスに設置された大型サイネージを活用し、来館学習の際は最初にスライドを使ったオリエンテーションを行った。オリエンテーションでは、集石や経筒の画像を見せて、何に使われたのか子どもたちに予想させたり、文化財の保存・継承の意味を考えさせるめあてを立てたりするなど、学習の意欲を引き出す活動を取り入れた。そうすることで、子どもたちは学習の見通しをもち、学習意欲を高めることができた。それに加えて、「博物館歴史体感ツアー」というプログラム名をつけることで、学習への参加意欲をさらに高めることができた。

第1展示室では、自由見学を中心とし、子どもたちが個々に「推し」（お気に入り）をひとつ見つけるという課題を設定して学習活動を実施した。そのような活動を通して、児童・生徒達は、知識だけではなく、感性で文化財と出会うことができた。

第4展示室の遺構展示では、当時の人々の様子を思い浮かべられるよう解説をした。また、表面の触り心地や重さを感じることができるよう実物の土器や石器のハンズオン体験や銅剣・銅矛のレプリカを持ち上げる体験を行った。さらに中庭回廊では、科学を駆使して遺物を分析し、丁寧に修復、整理し、記録する作業についての説明を行った。子どもたちは、興味深そうに見聞きしていた。整理作業室や新収蔵庫、特別収蔵庫の見学を行う「バックヤードツアー」では、児童・生徒はもちろん、引率の先生方にも大変好評であった。今後も本館の埋蔵文化財センターとしての機能も来館学習を通して伝えていきたいと考えている。



オリエンテーションのスライド

学校団体等の来館者総数は、以下のとおりである。

期 日	学 校 名 及 び 学 年	来館者 (名)
4月21日 (金)	福岡県立小郡高等学校 (1年生)	201
5月14日 (土)	放課後等デイサービスしあわせ駅大野城	13
5月20日 (金)	小郡市立東野小学校 (6年生)	49
5月28日 (土)	放課後デイサービス チャイルドハート上津クオーレチャオ	26
5月28日 (土)	小郡市つっこ探検隊	11
6月2日 (木)	小郡市立東野小(4年生)	53
6月2日 (木)	小郡市校・園長会	24
6月7日 (火)	朝倉市立朝倉東小学校 (6年生)	32
6月8日 (水)	須恵町立須恵第一小学校 (6年生)	137
6月14日 (火)	大川市立大川小学校 (6年生)	46

期 日	学校名および学年	来館者数（名）
6月17日（金）	久留米市立青峰小学校（6年生）	10
6月21日（火）	小郡市立立石小学校（6年生）	20
6月23日（木）	福岡県高等学校歴史研究会総会	32
7月2日（土）	久留米大学	5
7月6日（水）	小郡市立三国小学校（6年生①）	117
7月7日（木）	小郡市立三国小学校（6年生②）	78
7月16日（土）	小郡市つっこ探検隊	7
8月17日（水）	放課後デイサービス ピース	33
8月30日（火）	小郡市立のぞみが丘小（6年生）	98
9月16日（火）	糸島立前原西中学校（2年生）	260
10月12日（水）	筑紫野市立筑紫小学校（特別支援学級①）	23
10月13日（木）	北九州市立葛原小学校（6年生）	125
10月14日（金）	筑紫野市立筑紫小学校（特別支援学級②）	23
10月19日（水）	筑紫野市立筑紫小学校（特別支援学級③）	23
10月23日（日）	行橋市立稗田小学校（6年生）	37
11月 2日（火）	私立開智中学校（2年生）	3
11月 8日（火）	私立九州産業大学付属高校	20
11月13日（水）	山口県立大学博物館実習	15
11月21日（月）	小郡市立のぞみが丘小学校（2年生）	117
11月26日（土）	久留米大学博物館実習①	15
12月18日（日）	久留米大学博物館実習②	15
12月27日（火）	放課後デイサービス プラムチャイルド	13
1月 5日（木）	放課後デイサービス なごみ園	13
2月 1日（水）	小郡市立味坂小学校（4年生）	26
2月 9日（木）	私立星槎国際高校（1年生）	73
3月25日（木）	放課後デイサービス チャイルドハート上津クオーレチャオ	26
	合計	1,967

○スクールミュージアム事業

スクールミュージアム事業は、福岡県内の公立小学校、中学校、高等学校、義務教育学校、中等教育学校、特別支援学校を対象として、一般財団法人福岡県教職員互助会、福岡県立美術館、福岡県青少年科学館及び当館が合同で実施しているものである。児童・生徒の鑑賞活動や科学体験活動、歴史・考古資料見学・考古学体験活動にかかる合同事業を行うことにより、情操教育、美術教育、科学教育、歴史教育の活性化及び地域文化の振興発展に寄与することを目的としている。当館は27年度から参画している。

通常の来館学習は1時間程度であるが、スクールミュージアム事業に関しては、1時間30分から2時間程度の時間を設定することが多いので見学に加えて、堅穴住居の組み立て体験やVRでの古墳内部の見学等の体験学習を実施して好評をいただいている。またこの事業には例年特別支援学校からの申し込みが入ることが多い。4年度は久留米聴覚特別支援学校の中学部の生徒が来館した。我々

教育普及担当の職員は耳の不自由な生徒に対して授業をした経験はほとんどないが、事前に学習プログラムの内容やスライドのデータを特別支援学校の先生方にお送りして共通認識を図り、当日の来館学習の際には先生方の手話通訳に合わせて説明用のフリップボードを準備し、なるべく学習内容が分かりやすいように努めた。今後もユニバーサルデザイン、ユニバーサルミュージアムの視点を大切にして教育普及事業を行っていききたい。

実施校と来館者数は以下の通りである。

期 日	学 校 名 及 び 学 年	来館者 (名)
6月8日 (水)	朝倉市立蜷城小学校 (6年生)	11
6月16日 (木)	久留米市立三潨小学校 (6年生)	7
6月24日 (金)	久留米市立西牟田小学校 (6年生)	74
9月29日 (木)	福岡市立柏原中学校 (1~3年生)	22
11月8日 (火)	八女市立立花小学校 (6年生)	37
12月9日 (金)	福岡県立久留米聴覚特別支援学校 (中学部1~3年生)	25
	スクールミュージアム総数	244

○職場体験

例年、職場体験では、館内の見学、土器の展開、拓本、図書整理作業など、博物館ならではの仕事のほか、警備、受付、清掃など、様々な業務を体験してもらっている。これらの体験を通して多くの人たちの多様な仕事によって館全体の事業が成り立っていることや、共に働く同僚の大切さなどに気づかせ、日常生活における自分の生き方や在り方を考えさせることを目指している。

4年度は新型コロナウイルス感染拡大を受けて、依頼はなかった。今後、中学校が職場体験を計画する際に、受け入れ先を確保することが難しい状況が予想される。県立の施設として、なるべく多くの生徒を受け入れられるように体験プログラムを検討していきたい。また今までは中学生ということもあり施設運営に重きが置かれている部分があったが、中学生が博物館に行く機会がほとんどないという状況を鑑み、当館の学芸員から文化財や展示について聞くという体験活動も積極的に取り入れていきたい。

○高校生インターンシップ

例年、高校生インターンシップは、高校教育課より委託を受けて行う「福岡県教育庁等高校生インターンシップ」を2回、また小郡市にある県立三井高等学校が独自で実施するインターンシップを1回実施している。インターンシップでは、中学生職場体験よりも内容を充実させ、県立の歴史博物館ならではのプログラムを提供している。特に4年度は学芸員や教育普及担当職員の職業体験の機会の提供し、勤労観・職業観を養うとともに職業選択能力の伸長への支援を目指している。



遺物整理業務体験

研修の内容、参加学校・人数は以下のとおりである。

	午前	午後
1日目	開講式、館内見学、オリエンテーション	広報普及業務体験
2日目	学芸員業務体験、保存科学業務体験	遺物整理業務体験
3日目	図書業務体験	

期 日	学校名	人数 (名)
7月20日 (火) ～ 7月21日 (水) ※19日は豪雨中止	福岡県教育庁等高校生インターンシップ	5 ※1名欠席
7月27日 (火) ～ 7月29日 (木)	福岡県立三井高校 (2年生)	中止
8月4日 (水) ～ 8月6日 (金)	福岡県教育庁等高校生インターンシップ	6
インターンシップ総数		11

○出前授業

通常の出前授業に加えて4年度よりVR機器を活用した「VR出前授業」を開始した。年度始めに事業説明資料を各学校に配付し周知を図ったところ多くの学校から申し込みがあった。初の事業であり試行錯誤での運営であったが、回を重ねるごとに改善を行うことができた。またVR体験は一度に実施できる人数が限られるために、同時に実物の遺物等に触れるハンズオン体験も一緒に行うことでさらに出前授業の内容の充実度が高まり好評をいただいている。

古墳内部に入って自分で歩いて見学する体験や、仏像を間近で見たり内側から内部の構造を見たりする非日常体験を学校で提供できるようになったことで、当館の教育普及事業に新たな価値が加わった。今後は運営の効率化を図る一方で、子ども達のすごい、面白いという感情だけに留めさせず、それらをきっかけに学びを深化させるような視点づくりやプログラムの改善に努めていきたい。通常の出前授業に関しては、小学校4年生による太宰府についての授業や職業講話の依頼があり、今後増えてくることが予想される。ホームページ等での広報を充実させ、提供できるプログラムがより見える化できるように心掛けたい。

4年度の実施状況は以下のとおりである。

期 日	学 校 名 及 び 学 年	人数 (名)
5月20日 (月)	県立筑紫台高校 (歴史研究同好会) ①VR	20
6月30日 (木)	春日市立春日西中学校 VR	27
7月8日 (金)	小郡市立大原中学校 2年生 職業講和	102
7月9日 (土)	県立筑紫台高校 (歴史研究同好会) ②VR	20
7月12日 (火)	福岡市立香椎東小学校 6年生 VR	131
7月13日 (金)	篠栗町立篠栗小学校 6年生 VR	84
7月15日 (金)	直方市立下境小学校 6年生 VR	36
7月26日 (火)	私立筑紫女学園中学校 2年生VR	20
9月1日 (木)	春日市立春日中学校2・3年生VR	17
9月30日 (木)	中間町立中間中学校 2年生 修学旅行事前学習	64
10月26日 (水)	県立香住ヶ丘高校 1年生 VR	40
2月2日 (木)	福岡市立春吉小学校 4年生	27
2月7日 (火)	春日市立春日北中学校 2年生 修学旅行事前学習	126
2月14日 (火)	古賀市立東中 1年生 キャリア教育授業	136
合計		850



高等学校でのVR出前授業のようす

小学校での学芸員による出前授業のようす

○オンライン遠隔授業

博物館機能に加え、埋蔵文化財センターや研究施設を兼ねる本館では、多くの学びを学校に提供することが可能である。しかしながら、多忙な学校現場において、校外学習を実施することが時間的、予算的に難しいという現状がある。そこでGIGAスクール構想により、情報端末が整備されている教室と本館をインターネットで結ぶオンライン遠隔授業を3年度より立ち上げた。来館しての学習が難しい学校に対して、ICT機器を活用して授業を行い、知的好奇心を高め、当館及び県内の博物館や文化財、今後の歴史学習に興味をもつきっかけづくりを行うことがねらいである。実施当初は試行錯誤であったが、実績を重ねるごとにより充実した学習プログラムが提供できるようになった。展示室から中継する文化財の解説とホームページの360度バーチャル観覧を組み合わせた「オンライン社会科見学」は高い満足度を得た。また3年度から行われている民間の旅行会社が実施している小学校4年生向けのオンライン社会科見学に4年度も引き続き参加し好評をいただいております、当館のPRにもつながっている。

4年度は新たな取り組みとして外部機関との連携を行っている。春日市の奴国の丘歴史資料館と共同して春日市の中学校に遠隔授業を行い、当館の教育普及担当職員が奴国の丘歴史資料館に出向き、そこから春日市の職員と一緒に中継で遠隔授業を行う取り組みを行った。また日本遺産古代日本の「西の都」を活用した授業を行っている那珂川市の中学校に対して、福岡県教育庁文化財保護課の担当職員が県庁から遠隔で生徒が作成したレポートに対しての助言を行うという遠隔授業を実



教室からみた授業の様子



展示室から中継をしている様子



双方向での質疑応答の時間



正面入口からの中継



コンテンツを活用した疑似見学



県庁からの遠隔授業

施している。

文化財は直接見て見学することが一番であるが、文化財そのものの魅力が高いため、オンラインの遠隔授業との親和性は高いと考える。また質疑応答等の双方向での学習は学習の個性化を図るうえでも有効な手立てである。今後も学校の要望に応えつつ、学校への広報活動や効果的な学習プログラムの開発に力を入れていきたい。

4年度の実施状況は以下のとおりである。

期 日	学 校 名 及 び 学 年	来館者 (名)
6月16日 (木)	芦屋町立山鹿小学校6年生	58
6月27・30日 (月・木)	春日市立春日南小学校6年生	160
7月26日 (火)	私立筑紫女学園中学校 (展示室)	20
10月18日 (火)	苜田町立与原小学校	126
11月 7日 (月)	福岡市立内浜小学校 (4年生)	148
11月17日 (木)	福岡市立筥松小学校 (4年生)	124
11月22日 (火)	春日市立春日東中学校 (1年生)	228
11月25日 (金)	福岡市立小笹小学校 (4年生)	143
1月11日 (水)	福岡市立当仁小学校 (4年生)	82
2月20日 (月)	福岡市立大原小学校 (4年生)	74
2月21日 (火)	福岡県立糸島高等学校 (1年生)	39
3月9日 (木)	福岡市立赤坂小学校 (4年生)	62
	合計	1,264

○福岡県教育センターキャリアアップ講座

期日：令和4年7月29日 (金)

内容：福岡県の教育センターでは、大学等の関係機関が実施する公開講座を、キャリアアップ講座として実施している。3年度より、福岡県教育庁文化財保護課の実施の講座を本館で行うことになった。研修は終日で、地域の歴史を児童に教える機会のある小学校の先生、日本史を生徒に教える機会のある中学校・高等学校の先生をそれぞれ対象としている。午前中は講義形式で県内の文化財の価値や魅力、博物館と文化財を活用した授業づくりについて学んでいただき、午後は当館が提供している体験プログラム等を実際に体験してもらった。それらを通して博物館や文化財を効果的に授業や教育活動で活用する手法や手立てを学んでいただいた。定員の30名の参加があった。



ギャラリートークの様子

実施した内容は以下のとおりである。

<日程>

時間	内容	研修方法
09:30～10:00	研修オリエンテーション・館内案内	
10:00～11:00	福岡県の歴史と文化財—その魅力を学ぶ—	講義
11:00～12:00	文化財の面白さ—学校教育における事例—	講義

時間	内容	研修方法
13:00～15:00	ワークショップ：文化財に触れる、体験する ①遺物の復元作業体験 ②実物の土器の解説とハンズオン体験 ③学芸員によるギャラリートーク ④VRによる古墳内部の見学体験	講義・演習
15:00～15:30	アンケート記入・事務連絡	

○教員のための博物館の日2022 in 九州歴史資料館

期日：令和4年8月19日（金）

内容：学校による当館の活用促進を図るために、まずは学校の先生方に「博物館の教育資源」である「ひと・もの・こと」を知ってもらい、博物館を楽しんでもらおうと企画である。この事業は国立科学博物館、公益財団法人日本博物館協会との共催であり、文部科学省の後援を受けている。実施日に関しては例年先生方が参加しやすい夏季休業中に計画をしている。4年度は、対象を学校の先生方に加え教員を目指す学生も対象とし、7名の学生の参加があり全体で30名を超える申し込みがあった。体験内容については概ね満足いただいたが、運営の方法や内容については改善の余地があり、5年度の運営に活かしていきたい。



ハンズオン体験

古賀市船原古墳のVR体験

広報資料

実施した内容は以下のとおりである。

<日程>

時間	内容	場所
13:10～13:20	受付	文化情報広場
13:20～13:50	開会行事（オリエンテーション）	研修室
13:50～15:50	①ハンズオン体験 ②バックヤードツアー ③VR体験 ④オンライン授業体験	第4展示室 研修室 新収蔵庫
15:50～16:00	閉会行事（アンケート記入）	研修室

○教員向け研修会「文化財を活用した学習意欲が高まる授業づくり」

期日：令和4年11月4日（金）

内容：10月8日（土）から、京都平野の原始・古代を紹介する特別展「京都平野と豊国の古代」を開催するにあたり、特別展会期中に教員や教員を目指す学生を対象とする研修会を開催した。博物館や文化財を活用した授業の大切さを認識している教員は多いが、教材開発に困難さを感じている

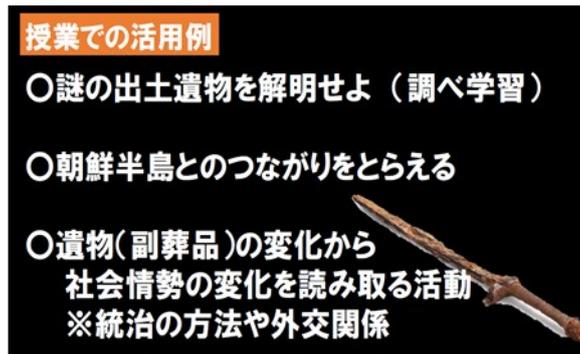
教員も少なくない。また歴史学習に対して苦手意識をもっている児童や生徒も一定数存在している。

そこで今回は、特別展における文化財についての講話や実物資料の解説からその価値と魅力について知ってもらうとともに、当館が所蔵する文化財や地域の歴史資料を使った教材について紹介を行った。本研修会を通して先生方の地域の歴史や文化財を大切にしようという意識醸成や文化財のもつ価値や魅力の理解を図り、主体的に学習に取り組む児童・生徒を育成する教材開発に役立てて頂くことを目的とした。また今年度は試験的な取り組みとして遠方の先生方が参加しやすいようにZOOMによるオンラインで開催をした。実施するなかで遠隔で行う研修の有効性が確認できたため、4年度の反省を踏まえ、次年度以降もオンラインによる教員向けの研修を計画していきたい。17名の参加があった。

実施した内容は以下のとおりである。



特別展の様子



古墳出土遺物の授業での活用例



広報資料

<日程>

	内 容	中継場所
13:45~14:00	受 付	
14:00~14:10	開会行事 (オリエンテーション)	研修室
14:10~14:45	講話「京都平野の飛鳥・奈良時代」	研修室
14:50~15:20	特別展観覧 (学芸員による展示解説)	第1展示室、第2展示室
15:20~15:30	休 憩	
15:30~16:00	教材として活用できる文化財及び九州歴史資料館の教育普及事業の紹介	研修室
16:00~16:15	閉会行事 (アンケート記入)	研修室

(5) ボランティア

◎九歴ボランティア

移転開館時から設置している当館のボランティア (通称「九歴ボランティア」) は、3年を一期として活動している。4年度は、第4期目の4年目である。30年度に新規ボランティアを募集して4年度は、24名で活動を行った。2年度は、コロナ禍のため、ボランティア活動自体が休止してお

り、ほとんど活動ができない状態であった。3年度についても休止と再開を繰り返し、予断を許さない状況が続いた。そのため今期の任期を一年延長し、4年間（令和5年3月まで）とした。

平常時は、土日・祝日の古代体験プログラムの実施や館主催の講演会・イベントの運営支援、来館学習や各種団体への対応補助、ボランティア主催のイベントなど、多くの場面で活躍している。

○定例研修会

九歴ボランティアとしての知見・識見を高めること、ボランティア間の交流を図ることを目的として、毎月第2土曜日の午前中（10:00～）に定例研修会を設定している。前半は、先月までの活動報告と今後の予定やイベントにおける役割分担の確認、活動日の調整である。後半は、学びある実践研修として、古代体験にかかわる内容や当館学芸員による展示解説を計画、実施した。



研修の様子

研修会では、2か月先まで見通しを持った情報共有を行うことによって、日々の活動に不安や齟齬が起きないよう綿密な打ち合わせを行うことができている。特に4年度は、運営を担当する指導主事が中心となり、ボランティアと職員とが思いを伝えあえるような、心のこもった研修指導を行ってきたことが大きな成果を上げている。これにより4年度は大変和やかで笑顔あふれる、建設的な雰囲気の研修会やイベントを運営することができた。

月	研修の内容	月	研修の内容
4月	VRコンテンツ船原古墳の練習	10月	特別展ギャラリートーク
5月	ボランティア協議会	11月	観世音寺について
6月	企画展「きゅうおにとタイムトラベル」について	12月	オンデマンド研修
7月	飛び出すむかしの宝物（オンデマンド）について	1月	人権研修
8月	企画展「やきもの はじめの一步①」について	2月	企画展「尾形家三代」ギャラリートーク
9月	VR皆見大塚古墳について	3月	竪穴住居づくり体験の研修

○バス研修会・交流会

期 日：令和4年9月14日（水）

訪問先：行橋市歴史資料館・稲童1号掩体壕、苅田町石塚山古墳

参加者：九歴ボランティア11名 職員5名 計16名

内 容：4年度は特別展の舞台である「京都（みやこ）平野」周辺の博物館や史跡の見学を行った。行橋市歴史資料館では、解説を聞きながら貴重な文化財などを見て回り、その後ゆくはし市民学芸員の方々と交流を実施した。ボランティア活動について意見交換や質疑応答などを通して、ボランティアとしてのスキルアップにつながるよい機会になった。現在の九歴ボランティアの活動についても振り返り、活動についての肯定感も高まったと感じた。また、稲童1号掩体壕でも市民学芸員の方が現地に来てくださって説明をしていただき、熱心な解説から学ぶことが多かった。苅田町の石塚山古墳では全長130メートルにも及ぶ九州最大級の前方後円墳の周囲を歩いたり、実際に後円部に昇ったりしながら見学を行った。こちらでも苅田町の職員の方からの詳しい解説をしてい

ただいた。



ゆくはし市民学芸員の会との交流会の様子



石塚山古墳の見学と解説の様子

○古代体験

前述の通り、新型コロナウイルス感染症拡大の状況や、健康面で活動を控えたいボランティアもいる実情を考慮し、日曜日の実施とした。古代衣装の着付け体験についても休止を継続している。代わりに3年度より、古代衣装変身ミラーが設置され、VR体験も実施している。4つのコンテンツのうち、比較的的操作や設定が簡単な「奪衣婆坐像」と、「船原古墳石室」の中を歩くコンテンツを実施することにした。VR機器の操作を覚えることに苦慮するボランティアも多かったが、当館でしか体験ができないリアルな体験に価値を感じているボランティアも多く、意欲的に操作方法を覚えようとする姿勢が見られた。特に「船原古墳石室」内を歩くコンテンツについては、操作技術の習得が難しかったため、繰り返し研修を行い操作方法を確認することで、ボランティアの安心と自信につながった。

投壺体験や拓本体験、瓦マグネット作りなどについても、道具の修理や改良を行い、保管方法の改善を講じたことで、よりスムーズで安全な体験活動を提供することができるようになった。古代体験の4年度の利用実績は右のとおりである。

なお、夏休み期間に平日にも実施する「平日古代体験」は7月27日（水）と8月3日（水）の2日実施し、92名の利用があった。

○ボランティアイベントの開催

3年度から特に力を入れている、九歴ボランティアが主体的に企画・実施する事業である。ボランティア自身が、1000年以上続く伝統的技法を学ぶことを通して、文化財愛護思想の普及を図るとともに、その知識・技術を地域の大人や、子供たちに伝え広めることを目的に、体験講座を設定した。4年度は5月5日（木・祝）に「折り紙カブトを作ろう」を、9月7日（水）に「大人組紐講座」を、2月26日（日）に「MyおひなさまとMy組紐体験」を実施した。

「折り紙かぶとを作ろう」は子供の日に合わせてイベントであり、22名の参加があった。

組紐作りは、当館ボランティアの活動に「組紐グループ」を位置付けており、グループ内で研修



古代体験の様子

体験内容	利用者 (名)	前年度比 (名)
鑄造体験	227	+197
拓本とり	207	+175
瓦マグネット	110	+63
銅剣・銅矛	203	+72
土器パズル	122	+122
むかしの遊び	249	+199
古代衣装変身ミラー	619	+435
VR体験	627	+557

を重ねることで、技術力と指導力の向上を図ってきた。その甲斐もあり、4年度は他館からの指導依頼や、団体での体験申し込みも多かった。今後は、普及活動を継続するとともに、経験者に対してさらに高難度の技能習得の機会を提供するなどの工夫を図り、活動の更なる活性化と来館者増に取り組んでいきたい1回の定員を20名したが、1回目が20名、2回目が15名の参加があった。

MyおひなさまとMy組紐体験は、例年雛祭りに合わせて実施しており、4年度は63名の参加があった。

○ボランティア自主活動「綿づくり」

3年度より綿づくりを九歴ボランティアの自主活動と位置づけ、本館の中庭に畑をつくっている。4年度は正式に九歴ボランティアの活動グループとして位置づけ、綿の育成とともに、その時々に応じたイベントを企画・実施してきた。イベントの一環として4月に綿の種をまき、日々の熱心な手入れで順調に成長し、9月には立派な綿が吹いた。一連の成長の様子は、3年から続く本館の新しい魅力のひとつとなり、7月下旬から8月上旬にかけて咲く花も大変好評であった。収穫後の綿は館の職員に謹呈したり、来館者への記念品として渡すことができた。その後ボランティアのメンバーで糸を紡ぎ、織るという作業も行った。種まきから芽吹き、刈り取るまでの一連の姿は館内のどこからでも目にすることができ、毎年の館の風物詩として定着しつつある。

	活動内容	関連イベント
2月	枯れ木の撤去	
3月	天地返し・冬の寒起こし	
4月	土づくり・畝づくり・種まき	綿の種まき・機織り体験
5月	水やり・摘芽	
6月	追肥・害虫駆除・支柱立て・敷き藁	
7月	剪定・開花	綿の種取り・糸車体験 (7/24 80名)
8月	結実	綿の見学・紹介 (※平日古代体験)
9月	実がはじける	
10月	収穫・天日干し・綿木引き	綿の摘み取り体験 (10/2 50名)
11月	休耕	綿紡ぎ・手織り講座 (11/15・22・29 計17名)
12月	休耕・畑じまい	子供手織り体験 特別展示
1月	休耕	
2月	枯れ木の撤去	
3月	天地返し・冬の寒起こし	

綿の育成に関する活動と関連イベント



4月 畑の準備



9月 綿が吹き始める

(6) 普及・活用事業

◎講座・講演会

○名誉館長講座

内容：西谷正名誉館長を講師とする、主に第4土曜日に実施する連続講座である。4年度は「筑紫・豊（前）の四つの窓」をテーマに、福岡県が面する玄界灘・響灘・周防灘・有明海に関する遺跡について全12回で紹介するものとして開始した。通常は1年度1テーマで全12回の連続講座であるが、3年度以降は新型コロナウイルス感染症の影響で1回当たりの受講者数を減じたため、受講者をAグループ・Bグループに2分割した上で、講座内容は6回分を設定し、同一内容の講座を2回（2ヶ月）ずつ実施した。そのため本シリーズも4年度では全12回は完結せず、5年度まで継続実施予定である。なお引き続き座席指定制を導入した。



名誉館長講座の様子

開催日、演題、受講者数は次のとおりである。

回	開催日	演題	受講人数 (名)
第1回A	4月23日	I. 玄界灘・響灘（1）陶埴（土笛）の分布	74
第1回B	5月28日	I. 玄界灘・響灘（1）陶埴（土笛）の分布	85
第2回A	6月25日	（2）「聞」国の想定	68
第2回B	7月23日	（2）「聞」国の想定	70
第3回A	8月27日	（3）「胸形」国の可能性	84
第3回B	9月24日	（3）「胸形」国の可能性	75
第4回A	10月22日	（4）博多・津屋崎綱首の問題	57
第4回B	11月26日	（4）博多・津屋崎綱首の問題	71
第5回A	1月7日	II. 周防灘（1）弥生文化の始まりと小国の形成	59
第5回B	1月28日	（1）弥生文化の始まりと小国の形成	67
第6回A	2月25日	（2）ヤマト王権の成立と前方後円墳の出現	71
第6回B	3月25日	（2）ヤマト王権の成立と前方後円墳の出現	67
受講者数総計			848

○九歴講座

内容：主に毎月第2土曜日に当館や3分館の学芸員の他、市町村教育委員会等の外部講師を招いて実施する講座である。4年度は全12回を予定し、4年振りに全ての回を予定通り実施でき、延べ756

名の方が受講した。なお4年度実施分には、3年度の九歴講座等より延期されたものも含まれている。また感染拡大防止のため、2年度以降は定員80名（および当館ボランティア）とした上で、事前予約制・座席指定制を導入している。予約方法として第5回より、従来の往復はがきに加えて電子申請も導入している。

開演日、演題、講師、受講者数は次のとおりである。

回	開催日	演題	講師（所属）	受講人数 （名）
第1回	4月9日	近代府県行政と福岡県 ～昭和初期を中心に～	渡部邦昭（九州歴史資料館）	30
第2回	5月14日	山本作兵衛コレクションからみ る筑豊の炭坑	朝鳥和美（田川市石炭・歴史博物 館）	41
第3回	6月11日	大宰府史跡の保存	進村真之（九州歴史資料館）	52
第4回	7月9日	朝倉の鬼 －まつろわぬ者・羽白熊鷲－	小田和利（甘木歴史資料館）	85
第5回	8月13日	豊国の横穴式石室墳と瀬戸内海 航路	小嶋 篤（九州歴史資料館）	77
第6回	9月10日	古賀市船原古墳1号土坑出土の 玉虫装飾馬具について	西 幸子（古賀市教育委員会）	64
第7回	10月8日	京都平野の飛鳥・奈良時代	酒井芳司（九州歴史資料館）	81
第8回	11月12日	京都平野の古墳時代	山口裕平（行橋市教育委員会）	73
第9回	12月10日	近世立花家の歴史編纂	白石直樹（柳川古文書館）	51
第10回	1月14日	高良山の仏教美術 －山の内外で守られた仏像－	國生知子（九州歴史資料館）	64
第11回	2月11日	尾形家三代の作品と画稿	日野綾子（九州歴史資料館）	52
第12回	1月11日	大宰府外郭線の調査成果	吉田東明（九州歴史資料館）	86
受講者数総計				964



九歴講座の様子

○九歴ゼミ

内容：第2・第4水曜日の夜18：30～20：00（18：00受付開始）まで実施する、当館の学芸員を講師とした連続講座である。7～9月、10～12月、1～3月の年間3期、各期6回ずつ開講した。加えて年度当初には新型コロナウイルス感染拡大等のため、3年度に完結しなかった回も実施している。例年も事前予約制だが、2年度以降は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、定員を50名とした上で、座席指定制を導入している。4年度は応募者全員を受講生とした。なお予約方法として第2期より、従来の往復はがきに加えて電子申請も導入している。

開催期間、演題、講師、各期延べ受講者数は次のとおりである。なお延べ受講者数は、4年度に開講された回の人数のみを計上している。

期	開催期間	演題	講師	延べ受講人数 (名)
3年度 延期分	4月14日～ 5月12日	「福岡の美術－狩野派の展開・博多 湾岸の古仏」	井形 進 日野綾子	70
第1期	7月14日～ 9月22日	永江・野田文書で読む日本近代史	渡部邦昭	126
第2期	10月13日～ 12月22日	福岡のやきもの	遠藤啓介	203
第3期	1月12日～ 3月23日	大宰府・太宰府天満宮史料を読む～ 大宰府の歴史編～	酒井芳司	248
受講者延べ数総計				647

○記念講演会

内容：特別展等の展示の開催を記念して講演会を実施した。4年度も新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、定員を80名（および当館ボランティア）とした上で、事前予約制・座席指定制を導入している。予約方法として、従来の往復はがきに加えて電子申請も導入している。

開催日	演題	講師	受講者数 (名)
11月6日 (土)	特別展開催記念講演会 「古代の豊前と渡来人」	亀田修一氏 (岡山理科大学名誉教授)	70
1月21日 (土)	企画展開催記念講演会 「福岡の御抱え絵師たち」	小林法子氏 (元福岡県文化財保護審議)	38
受講者数総計			108



記念講演会「福岡の御抱え絵師たち」の様子

○夕べのギャラリートーク

内容：当館では、他の観覧者の鑑賞の妨げにならないよう、第1展示室での展示解説を差し控え、その代わりに解説シートを無料で配布している。平成24年度からは、学芸員が担当した展示物について解説を行うギャラリートークを実施した。平成28年度までは、一旦閉館したのちに、18：30より再度開館、ギャラリートークは19：00より20：00までとしていたが、より参加者の層と利便性を再考し、平成29年度より毎月最終金曜日の閉館直後である16:30から17:00の実施とした。

4年度は、当初は新型コロナウイルス感染症の感染防止対策として、定員を10名程度（および当館ボランティア）、の事前予約制としたが、感染状況の変化に伴い、第5回より予約不要とした。開催日、内容、講師、受講者数は次のとおりである。なお下記の他に各種イベントに合わせて、ギャラリートークが開催されたこともある。

回	開催日	内容	講師	受講者数 (名)
第1回	5月27日	常設展P art1「展示室と展示方法」	松川博一	6
第2回	6月24日	常設展P art2「仏教美術」	井形 進	8
第3回	7月29日	常設展P art3「近代資料」	渡部邦昭	5
第4回	8月26日	企画展「土器・陶器・磁器のちがい」	遠藤啓介	12
第5回	10月28日	特別展「京都平野と豊の国の古代」 1	進村真之	5
第6回	11月25日	特別展「京都平野と豊の国の古代」 2	酒井芳司	6
第7回	12月23日	企画展「山国川流域の遺跡」	森井啓次	1
第8回	1月27日	企画展「尾形家三代 - 探幽に学んだ福岡藩御抱え絵師 -」	日野綾子	10
第9回	2月24日	企画展「古代九州の刀剣」	城門義廣 (福岡県文化財 保護課)	17
			参加者数総計	70



ギャラリートークの様子

○出前講座

内容：当館職員が外部の団体等の依頼を受けて館外の会場で実施する講座で、4年度は県民および県内外の文化財関係者等の要請を受けて計25回の講座に赴いた。4年度の実績は以下のとおりである。

	開催日	依頼者	タイトル	会場	講師	参加者数 (名)
1	6月5日(日)	公立学校共済組合	ふたつの亀山上皇像	福岡リーセントホテル	國生知子	19
2	6月14日(火)	つくし郷土史会	藤原広嗣の乱	筑紫野市歴史博物館	松川博一	25
3	7月13日(水)	公立学校共済組合	令和の里 太宰府と黒田官兵衛	福岡リーセントホテル	松川博一	30
4	7月23日(土)	八女市岩戸山歴史文化交流館	筑紫・火・豊の埴輪と古墳築造	八女市岩戸山歴史文化交流館	小嶋 篤	30
5	7月30日(土)	公立学校共済組合	筑紫君と筑紫大宰	福岡リーセントホテル	小嶋 篤	40
6	8月27日(土)	太宰府天満宮ガイドサービスの会	太宰府ゆかりの天神伝承と縁起絵	太宰府天満宮	松川博一	40
7	9月2日(金)	西日本文化協会	狩野派と福岡藩	福岡アジア美術館	日野綾子	75
8	9月3日(土)	九州国立博物館	筑紫大野城と大宰府四天王寺	九州国立博物館	松川博一	105
9	9月3日(土)	北海道立埋蔵文化財センター	九州における縄文文化から弥生文化	北海道立埋蔵文化財センター	宮地聡一郎	66
10	9月4日(日)	東北大学	日中韓の王宮と官衙の比較宗教史研究(現地踏査・研究発表)	筑前国分寺跡・四王寺山・宝満山・	松川博一	5
11	9月5日(月)	東北大学	日中韓の王宮と官衙の比較宗教史研究(現地踏査・研究発表)	筑前国分寺跡・四王寺山・宝満山・	松川博一	5
12	9月17日(土)	愛環教室	大宰府史跡等について	三橋生涯学習センター	宮地聡一郎	13
13	9月20日(火)	立石校区コミュニティセンター緑の里くろつち会館	九州歴史資料館の利用について	立石校区コミュニティセンター緑の里くろつ	渡部邦昭	9
14	9月24日(土)	八女市岩戸山歴史文化交流館	装飾古墳について	八女市岩戸山歴史文化交流館	吉田東明	45
15	9月28日(水)	(公社)日本地すべり学会	古代のハイテクノロジー～水城・大野城に見る飛鳥時代の土木技術～	博多国際展示場&カンファレンスセンター	入佐友一郎	200
16	10月2日(日)	空也上人没後1050年記念講演会実行委員会	植木の空也上人像	蓮照寺	國生知子	70

	開催日	依頼者	タイトル	会場	講師	参加者数 (名)
17	10月11日(火)	原北公民館高齢者教室	大宰府史跡について	原北公民館	吉村靖徳	30
18	10月15日(土)	公立学校共済組合	福岡装飾古墳美術館	福岡リーセントホテル	吉村靖徳	35
19	10月22日(土)	八女市岩戸山歴史文化交流館	古墳の埋葬施設からみた磐井の乱の前と後	八女市岩戸山歴史文化交流館	吉村靖徳	40
20	10月30日(日)	久山町教育委員会	若八幡宮現地見学会 絵馬解説	若八幡宮	日野綾子	71
21	11月3日(木・祝)	レスポワール久山	首羅山月イチ登山会 山頂解説	首羅山	井形 進	38
22	11月16日(水)	放送大学	大宰府出土の木簡	九州歴史資料館	小嶋 篤 進村真之 酒井芳司 小林 啓	24
23	11月17日(木)	放送大学	大宰府出土の木簡	大宰府史跡	進村真之 小嶋 篤	24
24	11月19日(土)	太宰府市文化ふれあい館	太宰府のエビスさま	太宰府市文化ふれあい館	松川博一	30
25	11月25日(金)	JFE建材株式会社	大宰府史跡等について	ルートイングランディア太宰府	進村真之	19
26	11月26日(土)	八女市岩戸山歴史文化交流館	磐井の乱と筑紫君・ヤマト王権とその後	八女市岩戸山歴史文化交流館	酒井芳司	40
27	12月4日(日)	甘木歴史資料館	杷木神籠石と古代山城(シンポジウムコーディネーター)	サンライズ杷木	酒井芳司	82
28	12月4日(日)	久留米市・久留米市教育委員会	高良山の歴史と文化	久留米大学	松川博一	140
29	12月17日(土)	「紫のたねをまく」の会	紫衣の高僧・玄昉	大分県日出町・創造空間	松川博一	25
30	12月17日(土)	筑豊文化財行政連絡協議会	筑豊の埴輪	桂川町住民センター	小嶋 篤	30
31	12月25日(日)	明治大学日本古代学研究所	大宰府と出土文字史料(国際学術研究会 交響する古代ⅩⅢ)	明治大学グローバルホール	酒井芳司	255
32	1月21日(土)	公立学校共済組合	観世音寺と菅崎宮と大内氏	福岡リーセントホテル	松川博一	20
33	1月28日(土)	八女市岩戸山歴史文化交流館	今城塚古墳と継体大王そして岩戸山古墳のその後	八女市岩戸山歴史文化交流館	森井啓次	42
34	2月4日(土)	みやま市教育委員会	古代山城と女山神籠石	みやま市立図書館	吉村靖徳	50
35	2月11日(土)	九州国立博物館	倭人と渡来人	九州国立博物館	小嶋 篤	120

	開催日	依頼者	タイトル	会場	講師	参加者数 (名)
36	2月25日(土)	八女市岩戸山歴史文化交流館	古代における磐井の乱の影響	八女市岩戸山歴史文化交流館	松川博一	39
37	3月5日(日)	日本遺跡学会	遺跡の多様なあり方を求めて	奈良文化財研究所	入佐友一郎	100
38	3月8日(水)	高良大社崇敬会	高良山の歴史と文化	ホテルニューブラザ久留米	松川博一	50
39	3月18日(土)	公立学校共済組合	幻の鉄道～福岡県の未成線を追って	福岡リーセントホテル	渡部邦昭	25
40	3月19日(日)	東北大学	古代大宰府の境界と官衙・寺院	国立歴史民俗博物館	松川博一	4
41	3月21日(火)	奈良文化財研究所	近世・近代における旧跡・名所の保存顕彰	奈良文化財研究所	入佐友一郎	12
参加者数総計						2,122

◎一般来館者対応事業

当館の施設や事業内容を知っていただき、文化財やその保護・保存の重要性をより深く理解していただくために、来館者の展示資料に関する質問や、館外からのレファレンスへの対応のほか、来館者対応事業として館独自のサービスを職員が行っている。

○来館者への施設解説

学校団体以外の一般来館者に対しても、より深く当館を理解していただくために、事前申し込みのあった団体に対しては職員による施設解説を行っている。4年度は、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響を受けて、一般の来館団体は大幅に減少し、9件の案内を行った。

○収蔵品オンデマンド「飛び出すむかしの宝物」

本事業に関しては、新型コロナウイルス感染症の拡大状況を注視し、実資料を取り扱う事に対する影響を考慮しながら実施について検討し、2・3年度は中止としていた。しかし、来館者からの評価も高い展示であり、感染対策を十分に行うことで、4年度については5月より再開した。毎週、日曜日に実施しており、普段触ることのできない出土品を触りながら、疑問に感じた点はその場で学芸員に尋ねることができるなど、参加者にとって非常に満足度の高い企画である。

○発掘新聞・発掘情報ディスプレイ

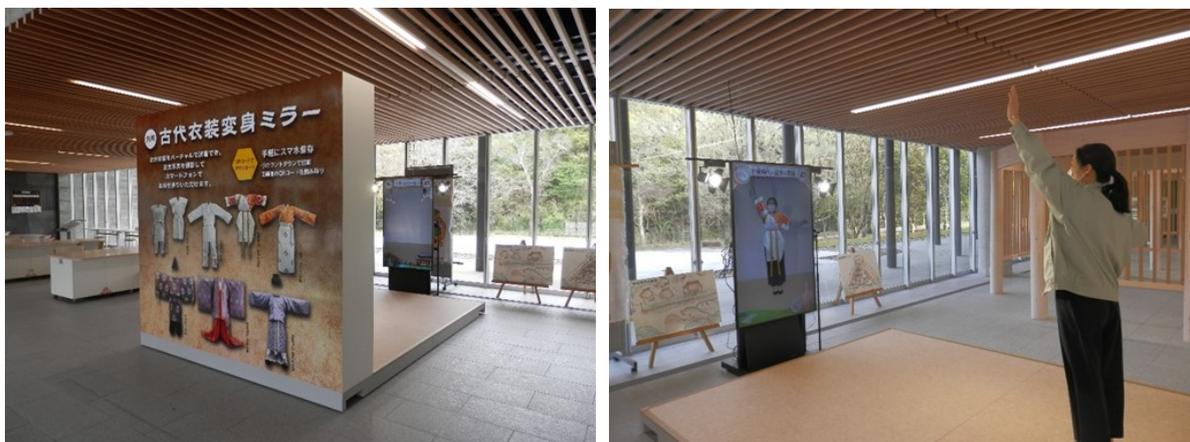
発掘新聞は当館が日頃行っている県内の発掘調査を速報的に紹介するもので、不定期に発行している。館内に掲示している他、当館のホームページ上でも公開している。発掘情報ディスプレイは館内で県内の発掘調査情報を紹介するもので、3年度より運用を開始した。

○古代衣装変身ミラー

従前から実施している鑄造体験、ハンズオン体験などの「古代体験」に加え、新たな体験アイテム「古代衣装返信ミラー」を3年度から使用している。コロナ禍以前は古代衣装試着を行っていたが、衣装の着付けをする際には利用者とボランティアが接近するため古代体験の中でも感染予防対策が最も難しいメニューであった。そこで、デジタルで古代衣装試着ができるコンテンツを制作し、代替とするとともに館のアミューズメント性を高めたものが「古代衣装変身ミラー」である。これはインタラクティブサイネージを利用して、デジタル化した古代衣装を試着できるようにしたもので、縄文時代の貫頭衣・弥生時代の貫頭衣・古墳時代の胡服・古墳時代の巫女衣装・奈良時代

の貴族の衣装・奈良時代の女官の衣装・平安時代の狩衣・平安時代の女房装束の計8種を選択できる。職員がいなくても体験でき、手をかざすだけで操作できるため、多くの来館者が試着映像を楽しんだり、またその姿を写真に収めたりしていた。

運用当初は正面からの映像のみ撮影可能であり、足を重ねたり横を向いたりという動きには対応できておらず、撮影者の動きが限定的であったが、その点について一度改善を行い、現在は弥生時代の貫頭衣や古墳時代の胡服など一部の衣装ではあるが、どの角度からでも着用した姿が撮影できるようになっている。撮影回数2,707回、延べ利用回数10,828人（1人当たり2種類試着、2人に1人が撮影するものとして算出）



古代衣装変身ミラー

◎体験教室・イベント等

当館に親しんでいただき、またあらゆる世代に歴史や文化財を身近に感じてもらうことや、子ども達に対して、学校教育と併せて自ら体感して学ぶことを通して、授業内容を深く理解し、歴史学習に対する意欲を高めことを目的として、各種の体験教室やイベントを開催している。

○キッズミュージアム

当時の暮らしの体験を通して、歴史・文化などに対する興味を高め、歴史や文化財を大切にすることを実践意欲や態度を養うことを目的に毎年実施している小学生向けの体験イベントである。通年型のプログラム（全3回）と単発で実施する短期プログラムを実施している。

4年度は通年プログラムの内容として、新たに藍染体験を取り入れた。文化としての藍の歴史を知り、実際に制作する活動は来館者の満足度も高かった。書くプログラムでオリエンテーションの際にきゅうおにが喋る演出も、雰囲気作りにとっても効果があったと考える。弥生土器作りに関しては、体験の持ち方そのものを再考したい。また、短期プログラムとしては3年度好評であったナイトミュージアムを再度開催している。

4年度の内容は以下の通りである。（参加者数は申し込み本人のみの人数。引率の家族は含まない）

キッズミュージアム通年プログラム

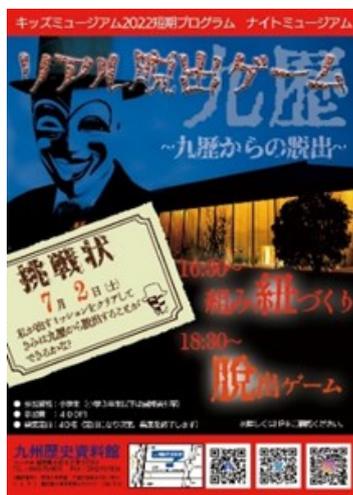
期 日	内 容	参加者（名）
6月 4日（土）	藍染体験・田植え体験	17
8月 6日（土）	弥生土器作り	47
10月15日（土）	石包丁作り、稲刈り体験	50

キッズミュージアム短期プログラム

期 日	内 容	参加者（名）
4月29日（金・祝）	「古代の生活体験2022・春」 竪穴住居組み立て・弓矢体験	25
7月 2日（土）	ナイトミュージアム2022「夜の博物館でリアル脱出ゲーム」	53
12月 17日（土）	紙漉きで年賀はがき作り・科学実験	14



長期プログラム 藍染体験の様子



短期プログラム 紙漉き体験の様子

○古代体験まつり

期 日：令和4年11月13日（日）

内容：過去に九歴ボランティアのバス研修で訪問した3つの資料館・博物館（糸島市立伊都国歴史博物館・八女市岩戸山歴史文化交流館・宗像市海の道むなかた館）と近隣の施設（九州国立博物館・小郡市埋蔵文化財調査センター・春日市奴国の丘歴史資料館）に参加を呼びかけ、それぞれの施設が行っている古代体験を実施してもらい、参加者が1日でいろいろな体験ができるイベントを開催した。

当日は雨の中の開催であったが、たくさんの来館者で館内は賑わっていた。当館の体験としては、通常実施している古代体験のほかに、3年度から運用を開始したVR体験（船原古墳石室）を

実施し、多くの来館者が体験をしている。約350名の来館があった。昨年度まで取り組んでいた竪穴住居組立体験については、今年度は雨天のため出展を見合わせた。今年度より体験予約チケットを導入したことで、受付業務の負担が軽減されたのは良い点であった。しかし、多数の来館者に対して体験の道具・材料が足りず、結果、午後の来館者に十分な体験内容を提供できなかったことは今後の懸案事項である。



「古代体験まつり」ポスター



本年度より導入した体験予約チケット

体験予約表 () 番			
場所	内容	決行 1回目	決行 2回目
2階	ちゅうそう体験		
	土器づくり		
	印かんづくり		
中庭	弓矢体験		
	菊玉づくり		
	石包丁づくり		
1階	飯団せつけんづくり		
	瓦マグネットづくり		
	粘土体験		
表庭	VRで古墳探検		
	VRで帯衣鑑に会う		
	きゅーはく号		
	ぎつつよう体験		
	とうこ体験		

体験の待ち時間・所要時間は各ブースでご確認ください。
 ・呼び出しの際、お願しいだけない場合は予約をキャンセルさせていただきます。
 ・呼び出しは整理券番号による呼び出しとさせていただきます。
 ・呼び出し時間が増えたら、プース付近にお越しください。

○なるほど！こども歴史教室

期 日：令和4年11月19日（土）

内容：特別展示「京都平野と豊の国の古代」に併せて、展示中の文化財について学芸員の解説を聞くとともに、関連する体験活動に参加できる子供向けイベントを開催した。当日は体験活動の講師として「創作とんぼ玉工房山下」さんにお越しいただき、とんぼ玉の歴史と、その製法について解説していただいた。開設に際して、古代のガラス製首飾りのレプリカなどを事前に準備していただいたおかげで、来館者は、より特別展示の内容やその歴史と関連付けながら、ガラス工芸に興味を持つことができていた。制作に関しても、目の前で形作られるとんぼ玉に子供のみならず保護者までも目が輝かせながら、その工程に見入っていた。展示解説においても、自分たちが作ったガラス工芸と似たものが歴史的価値をもって展示されている様に驚き、それらを含めた文化財の数々と、その解説に真剣に耳を傾ける姿が印象的であった。9名の参加があった。



「こども歴史教室」ポスター



制作したとんぼ玉や、見本作品の数々

◎その他関連機関・団体との共催事業

○桜コンサート

期日：令和4年4月3日（日）10：30～16：00

主催：桜コンサート実行委員会

共催：九州歴史資料館・三国中校区なかよし地域ネット人権のまちづくり推進連絡会

内容：平成28年度から共催で実施しているイベントである。地域のまちづくり協議会が共同で立ち上げた実行委員会が開催するもので、地域の個人や団体の参加型のコンサートである。数々の音楽好きの方々が、中庭で素晴らしい演奏やパフォーマンスを繰り広げた。また、古代体験も同時開催とした。コロナ禍での開催であったが、420名以上の来館者を得た。



桜コンサートの様子

○九州歴史資料館「京都平野と豊国の古代」特別展開催記念茶会

期日：令和4年10月23日（日）10：00～15：00

内容：当館では、令和4年10月8日（土）から12月10日（日）の会期で、特別展「京都平野と豊国の古代」を開催した。その開催を記念して企画した本茶会は、小郡市文化協会裏千家との共催で平成25年度から特別展開催期間中に実施しているもので、共催の連携企画の相乗効果により例年多数の参加者を得ている。4年度はコロナ禍での中止期間を経て、元年度以来3年ぶりの開催である。

なお、記念茶会と並行して、特別展ギャラリートークを2回開催することで、展示をより多くの方に観覧いただく契機とした。茶会とギャラリートークを合わせ、延べ207名の参加であった。また、筑紫台高等学校による生製品の物販も行い、イベント性を高めるとともに、学習成果の披露を行った。



特別展開催記念茶会の様子

○アクロスミュージアムコンサート

期日：令和4年10月29日（土）13：30～15：30

内容：公益財団法人アクロス福岡との共催事業として開催され、例年、特別展開催の記念イベントと位置づけている。プロのアーティストによる本物の音楽に触れる機会を作ることで、当館に親しみを持っていただくとともに、来館者が特別展を観覧することで、本県の歴史や文化への興味や理解を深めていただくこと、さらには、文化財保護思想を普及させることを目的としている。

4年度は、特別展のタイトルである「京都平野と豊国の古代」をイメージしつつ、西川のぼら（ヴァイオリン）、田中茜（ヴィオラ）、西尾麻衣子（ピアノ）の息の合った美しいアンサンブルが繰り広げられた。演奏された楽曲は、V.アザラシヴィリ「ノクターン」、葉加瀬太郎「情熱大陸」、A.メンケン「ホール・ニュー・ワールド」など、アンコールを含めて計11曲であった。

コロナウイルス感染拡大の影響により、当日の客席は椅子の間隔を空けて配置し、通常の7割の70席定員とした。2回の公演の間に椅子を消毒するなどの感染対策を行った。参加者は立ち見を含めて184名と昨年比25%増の結果となった。

日程	プログラム
13：30～14：00	アクロスミュージアムコンサート 第1部
15：00～15：30	アクロスミュージアムコンサート 第2部



アクロスミュージアムコンサートの様子

○文化財めぐり

期日：令和4年10月30日（日）

主催：福岡県教育委員会（文化財保護課）

講師：吉村靖徳（当館副館長）

内容：特別展「京都平野と豊国の古代」の関連イベントとして、バスツアー「みやこ古墳日和」を企画した。本展は、京都平野の原始・古代を概観することにより、古来、豊国（豊前国）が朝鮮半島、九州北部、近畿地方との交流の拠点として繁栄し、日本の古代文化形成の上で大きな役割をはたしたことに思いをはせていただくことで、地域における文化財の顕彰と保存の一助になることを祈念するものである。

その開催を記念して企画した本イベントは、当該展覧会で出土資料を展示する、京都平野の代表的な古墳について、当館職員が解説しながら現地をめぐり、展示と古墳との結びつきを実感していただいた。このことによって、県民の京都平野の歴史や福岡県の古墳への理解の深化と文化財愛護思想の普及に資するものとするを旨とした。見学した古墳は苅田町石塚山古墳、行橋市石並古墳（稲童20号墳）・稲童21号墳、みやこ町綾塚古墳、橘塚古墳である。綾塚古墳と橘塚古墳では、みやこ町歴史民俗博物館の井上信隆氏からも御案内いただいた。25名の参加があった。



文化財めぐりの様子

○いつでもまち旅「バックヤードツアー in 九州歴史資料館」

主催：久留米まち旅博覧会事務局

共催：九州歴史資料館

内容：「いつでもまち旅」は、久留米まち旅博覧会事務局主催の事業で、自元に暮らす人々が普段から慣れ親しんだ地域の宝物で、自らが訪れる人をもてなす手作りの旅プランをコンセプトに行っている。当館は平成26年度から「いつでもまち旅」に参画しており、一般の来館者が立ち入ることのできない博物館の裏側を学芸員が案内するバックヤードツアーと本物の瓦を用いた拓本のブックカバーの作成を行っている。4年度は年間通じて実施し、参加人数は49名であった。



いつでもまち旅の様子

○全国歴史民俗系博物館協議会

全国歴史民俗系博物館協議会（歴民協）は、平成23年3月11日の東日本大震災をきっかけに設立され、全国を9つのブロックに分け、館長が設立の呼びかけ人となった12館が、各ブロックの幹事館となった。九州ブロックは、九州国立博物館と当館が幹事館を務めている。

歴民協の第9回年次集会は、2年度以来、新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため、二度の延期により、4年2月16日（水）に宮城県多賀城市の東北歴史博物館にて開催予定であったが、感染拡大のため、中止となった。また多賀城市での開催は、これ以上は延期せず、代表幹事館も東北歴史博物館から事務局のある国立歴史民俗博物館に引き継ぎ、職務を代行し、4年度の総会は書面開催となり、研究集会は開催されなかった。

○九州山岳霊場遺跡研究会

九州山岳霊場遺跡研究会は、九州山岳霊場遺跡研究会が主催し、当館が事務局として共催し、あわせて九州各地の霊山が所在する現地において、地元自治体や寺社、日本山岳修験学会等の共催や後援を得て、毎年8月末に開催されて来た。

第11回九州山岳霊場遺跡研究会「宝満山の古代山岳信仰」を福岡県太宰府市にて、3年10月30日（土）・31日（日）に開催した後（8月に新型コロナウイルスの感染が拡大したため、10月に延期開催）、ほぼ九州の主な霊山を一巡したので、時間をおいて総括大会を開催する予定である。そのため、4年度は開催を休止した。

(7) 重点施策

◎九州歴史資料館古代史研究事業

当館は、昭和47年、日本古代最大の地方官衙遺跡である大宰府史跡の調査研究などを行う県立施設として設置され、長きにわたり律令期を中心とした学際的研究をリードしてきた。今後は、前史も含めた新たな枠組みとして「古代史研究」を掲げ、大宰府史跡の研究とともに古墳時代の研究を進めることで、当館の調査研究の幅を広げていく。古代史研究第1期（4～6年度）の研究テーマは「筑紫君をめぐる古代史」である。

研究成果は、重点施策として採択された各種事業を通して積極的に還元していくこととしており、4年度には「古代史研究フォーラム（11月23日）」「特別展「京都平野と豊国の古代」（10月8日～12月10日）」「テーマ講座「福岡県の古墳時代」（計4回）」「古代史研究チャンネル動画制作（計4本）」を実施した。

○フォーラム

令和4年度古代史研究フォーラム「古墳が語る日本創成の風景」

日程：令和4年11月23日（水・祝）

会場：アクロス福岡イベントホール

内容：九州歴史資料館では、九州の歴史と特質を明らかにすることを目的として、昭和48年の開館以来、大宰府史跡の発掘調査をはじめさまざまな調査研究を行い、その成果を蓄積してきた。本館では、その成果を大きく生かし、福岡の古代史を今までと違った視点で読み解き、豊かな歴史像を構築することを目的として、3年度から弥生時代や古墳時代にも研究対象を広げる新たな古代史研究を開始した。

4年度は「福岡の古墳」をテーマに、本館がこれから進める新たな取り組みを広く紹介し、また、多くの人々に県内の古墳の魅力を知っていただく事を目的として、古代史研究フォーラム「古墳が語る日本創成の風景」を開催した。なお、事業は日本遺産「古代日本の『西の都』魅力発信事業」の一環とした。

フォーラム第一幕では、国立歴史民俗博物館の松木武彦教授に、日本の古墳時代の特色を汎世界的視点から解説いただき、本館吉村靖徳副館長から、福岡県の古墳とその魅力について報告を行った。第二幕は朝日新聞社の中村俊介氏にコーディネーターを依頼し、第一幕の登壇2名に加えて、糸島高校歴史部の部員2名、きゅーはく女子考古部初代部長の稗田雅矢氏、本館学芸員の酒井芳司氏が登壇し、それぞれの立場から様々に意見交換を行うトークセッションを開催した。

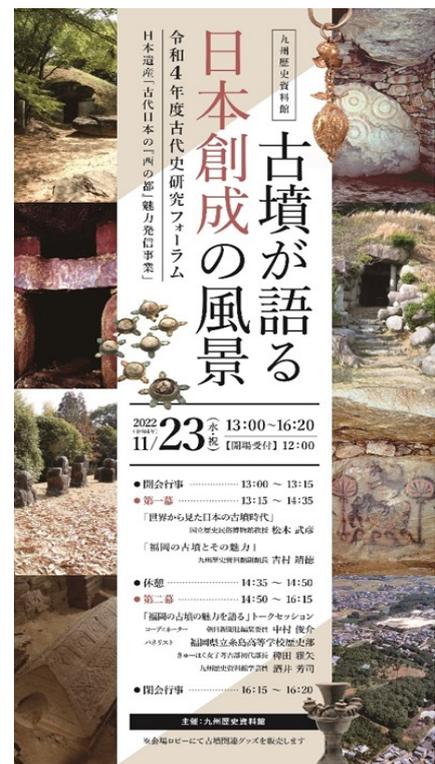
なお、幕間には日本遺産や特別対談『古代史の魅力を語る』動画放映を行い、ロビーでは古墳写真パネルの展示や関連グッズ販売を行う等、会場の魅力化・活性化に努めた。

参加者数：約500名

< 内容 >

開会挨拶・趣旨説明：13:00～13:15

第一幕：13:15～14:35



古代史研究フォーラム看板

「世界から見た日本の古墳時代」 国立歴史民俗博物館教授 松木武彦

「福岡の古墳とその魅力」 九州歴史資料館副館長 吉村靖徳

第二幕：14:50～16:15 「福岡の古墳の魅力語る」トークセッション

朝日新聞社編集委員 中村俊介 きゅーはく女子考古部初代部長 稗田雅矢

福岡県立糸島高等学校歴史部 九州歴史資料館学芸員 酒井芳司

閉会行事：16:15～16:20

○古代史研究映像制作

フォーラムや特別展などに参加できなかった方々へ、古代史の魅力や当館の活動を知っていただくために、「筑紫君磐井の乱の実像に迫る」と題した4編の動画を制作した。動画は、大学教員や市町村文化財担当者の協力を得て、福岡県内の古墳を対象に制作し、磐井の乱の実像を視聴者が考察できる内容とした。制作した動画は、当館ホームページのYoutube内に新設した「古代史研究チャンネル」に投稿した。6年度までに計10編程度の制作を予定している。

① 筑紫君磐井の乱の実像に迫る（①御塚・権現塚古墳 久留米市編）

出演：小澤太郎氏（久留米市文化財保護課），酒井芳司（当館）

② 筑紫君磐井の乱の実像に迫る（②王塚古墳 桂川町編）

出演：辻田淳一郎氏（九州大学人文科学研究院），酒井芳司（当館）

③ 筑紫君磐井の乱の実像に迫る（③月岡古墳・日岡古墳 うきは市編）

出演：重藤輝行氏（佐賀大学芸術地域デザイン学部），酒井芳司（当館）

④ 筑紫君磐井の乱の実像に迫る（④今宿古墳群・東光寺剣塚古墳 福岡地域編）

出演：藏富士寛氏（福岡市史跡整備活用課），酒井芳司（当館）



当館ホームページに新設した古代史研究チャンネル（令和5年6月12日の状況）

◎西新町遺跡出土遺物再整理

西新町遺跡は福岡市早良区西新に所在する。修猷館高等学校校舎建て替えに伴う発掘調査の結果、古墳時代初頭を中心とする集落遺跡で、当時の日本列島最大の国際貿易港であったことが明らかとなった。当館では西新町遺跡出土品を展示に更に活用しやすくするために、4年度から6年度にかけて再整理事業を行うこととなった。4年度は有識者による指導・助言を仰ぎ、広報用リーフレットを刊行した。

(8) 広報活動

◎一般向け広報

当館では、25年度から学芸調査室に「広報普及班」を設置し、幅広い手段や媒体を活用して広報活動を行っている。例年、予算上有料広告を用いた大々的な広報は難しいものの、4年度は特別展と古代史研究フォーラムについて有料広告を実施した。無料広報としては、ホームページやポスター・チラシ、TwitterなどのSNS媒体はもとより、公共の広報誌や民間のフリーペーパー、インターネット情報サイトなど様々な媒体を活用し、近隣施設には直接訪れて広報資料の掲示協力を依頼するなどして展示やイベントの周知を行っており、特に30年度からは近隣の3つの公民館では回覧板に添付してもらうことにしている。こうした周知方法では、展示やイベントの企画内容や対象とする世代に合わせて、毎企画ごとに配布先、周知方法を考慮するなどの工夫もしている。さらに、マスコミ関係には展示等の情報を提供するとともに、取材と情報紹介について依頼を行っている。

また、来館者の利便性を考慮した広報を心がけ、文化情報広場に講座関係のチラシや資料を集めて。当館が展示と講座の情報の発信源となるよう工夫を行っている。

○ホームページ

令和3年5月より、社会教育総合センターのアドレスになっていたURLが<https://kyureki.jp/>に移行した。また、Twitterの運用とともに、速報性が高い情報を発信できるようになった。ホームページでは、展示案内のほかイベントの告知や、講座・講演会の告知、発掘情報や各種資料の案内を掲載しており、4年度はその編集作業を文化財企画推進室と埋蔵文化財調査室とで分担して、2名体制で対応している。

また、4年度は子供向けのイベントに関する参加申し込みを、ホームページを介した電子申請方式に完全移行した。これにより、参加者の集計や把握、参加者数が定員に達した際の対応などが大幅に簡素化され、情報の共有も容易になり、職員の負担が軽減された。大人向けの講座・講演会についても、現在は往復はがきと電子申請の併用としている。

学校向けの資料やコンテンツも充実しつつあり、ホームページを見て来館を検討する学校や団体が増えてきている。総アクセス数は228,637回であった。

○SNS (Twitter・Instagram)

当館に関する様々な取り組みを紹介し、館の魅力をPRするために、情報の速報性に特化したTwitterでの情報発信をおこなった。投稿内容は、展示・イベントの告知や実績報告、季節の話題などで、「ぼく、きゅうおに」という一人称を用いながら、親しみやすい内容でのリアル



ホームページのトップ画面



タイム発信を心掛けた。また、情報の蓄積や深化に特化したInstagramの投稿もおこなった。投稿内容は、館藏品や文化財などの写真を中心に解説も添えて発信した。

なお、平成28年度から運用を開始したTwitterは、4年度末までに1,515のフォロワーを獲得。4年度9月から本格運用を開始したInstagramは、4年度末までに169のフォロワーを獲得している。

SNS名	年間投稿数	年間閲覧数 インプレッション	年間フォロワー	累計フォロワー
Twitter	262	481,580	539	1,515
Instagram	14	—	169	169

○YouTube

3年度は福岡県150年に関する解説動画を連続5回アップロードしたが、4年度は新たな動画をアップロードすることは無かった。ただし、運用に向けた動きは継続しており、より興味・関心を引くコンテンツ作りに向けての調整や、映像資料の撮影を行った。田主丸大塚古墳や、山王古墳群の取材、また発掘現場の映像撮影を行うなどして、それらの資料を撮り貯め、映像を制作している。5年度は、これらの資料を活用し、様々な映像コンテンツを配信するほか、福岡県内の代表的な古墳について古墳時代を専門とする研究者が解説する映像作品などを公開していく予定である。総再生回数2,586回であった。



現在公開中の動画

◎他施設等との相互広報

他施設や団体との連携については、県内各市町村の博物館・資料館を紹介することを目的として、各館にご協力いただき統一的な各館の紹介チラシを掲示している。予算の関係で配布はできないものの、当館ホームページや館内で紹介し、県内施設での相互広報などのネットワークの構築を進めている。今後は相互リンクや広報資料の共有などを進めていく予定である。

○県政PR展示

会期：令和4年10月4日（火）～10月23日（日）、5年1月17日（火）～2月5日（日）

会場：福岡県立図書館1階第1閲覧室

主催：福岡県立図書館

内容：福岡県観光政策課では、県庁11階物産観光展示室「福岡よかもんひろば」で県内市町村、庁内各課及び各種団体が主催する観光・物産PRイベント等を行っている。4年度は、10月に特別展「京都平野と豊の国の古代」に係る展示・イベントのお知らせを、1月に冬の3つの企画展のポスターを掲示した。

○よかもんひろば利用広報

会期：令和4年9月5日（月）～9月11日（日）

会場：福岡県庁11階物産観光展示室「福岡よかもんひろば」回廊

主催：物産観光展示室「福岡よかもんひろば」

内容：アクロス福岡では、コミュニケーションエリアで自治体や文化施設の企画展示やイベントを実施している。4年度は、期間中に特別展「京都平野と豊の国の古代」と関連イベントのポスター展示を実施した。

○アクロス福岡コミュニケーションエリア利用広報

会期：令和3年8月9日（月）～8月15日（日）
※中止

主催：公益財団法人 アクロス福岡

内容：アクロス福岡では、コミュニケーションエリアで自治体や文化施設の企画展示やイベントを実施している。3年度は企画展「福岡県政150年」、交流キャラバン展「炭坑の記録、世界の記憶」等のポスター展示と大型スクリーンでの展示画像の上映を予定していたが、福岡県コロナ特別警報の発出に伴い予定期間中の当館が臨時閉館となったことから、中止となった。



よかもんひろば利用広報の展示風景

◎博学連携・学習支援に向けた広報

博学連携への観点から、広報普及班の在籍教員を中心に学校への広報活動を行っている。従来から行っていた校長会や研修会での当館の教育普及事業の説明や教育委員会を通じた広報資料の配付に加え、4年度からホームページを活用した広報活動に力を入れている。具体的には先生方向けのページを整理し研修会等で配付している事業説明資料をウェブ上で閲覧できるようにした。また電子申請のシステムを活用したお問い合わせ・お申し込みフォームも多く活用していただいている。今後も紙資料とデジタルをうまく掛け合わせ効果的な広報活動を行い、多くの活用につなげていきたい。

九州歴史資料館 オンライン授業のご案内

交通費0円 入館料0円 移動時間0分 歴史への興味・関心上がる

九州歴史資料館 KYUSHU HISTORICAL MUSEUM TEL: 0942-75-9575 FAX: 0942-75-7834

オンライン授業の広報資料

学校に「古墳」お届けします

九州歴史資料館 VR出前授業のご案内

九州歴史資料館 KYUSHU HISTORICAL MUSEUM TEL: 0942-75-9575 FAX: 0942-75-7834

VR出前授業の広報資料

の宝石箱

学校の先生方へ

九州歴史資料館 KYUSHU HISTORICAL MUSEUM TEL: 0942-75-9575 FAX: 0942-75-7834

ホームページのパンナー

このほか下記の広報を行った。

◎一般向け広報

当館では、25年度から学芸調査室に「広報普及班」を設置し、幅広い手段や媒体を活用して広報活動を行っている。例年、予算上有料広告を用いた大々的な広報は難しいものの、4年度は特別展と古代史研究フォーラムについて有料広報を実施した。無料広報としては、ホームページやポスター・チラシ、TwitterなどのSNS媒体はもとより、公共の広報誌や民間のフリーペーパー、インターネット情報サイトなど様々な媒体を活用し、近隣施設には直接訪れて広報資料の掲示協力を依頼するなどして展示やイベントの周知を行っており、特に30年度からは近隣の3つの公民館では回覧板に添付してもらうことにしている。こうした周知方法では、展示やイベントの企画内容や対象とする世代に合わせて、毎企画ごとに配布先、周知方法を考慮するなどの工夫もしている。さらに、マスコミ関係には展示等の情報を提供するとともに、取材と情報紹介について依頼を行っている。

また、来館者の利便性を考慮した広報を心がけ、文化情報広場に講座関係のチラシや資料を集めて。当館が展示と講座の情報の発信源となるよう工夫を行っている。

広報した事項	媒体	期日
特別展「京都平野と豊 の国の古代」	西鉄全駅でのポスター掲示	6クール
古代史研究フォーラム	西日本新聞朝刊「ぐるっと九州」鹿児島県を除く 全九州通し版	10月19日掲載

○有料広報

当館では、不定期ながら新聞広告や駅のポスター掲示などの広報を実施している。4年度に実施した広報は以下の通りである。

このほか元年度に行った主な広報は以下のとおりである。

- ・ポスター・チラシの配布：歴史関係施設・団体、企画内容に則した団体、主催・共催や講師派遣先の講演会・講座参加者、他機関の講演会・イベント等、書店等の店舗
- ・県・市の広報媒体への情報掲載：教育福岡・福岡県だより・グラフ福岡・広報おごおりほか
- ・歴史系専門雑誌、イベント情報雑誌への情報掲載：「博物館研究」「古代文化」ほか
- ・情報サイトへの情報提供：イベントバンク・いこーよ ほか
- ・特別展・企画展開催直前のマスコミ向け内覧会の開催など情報提供
- ・県庁行政棟1階県民ホールでのポスター、デジタルサイネージの掲示

なお、館のアピールを行うため、平成29年度から継続して「福岡県観光パスポート（ふくおかよかとこパスポート）」と「ミュージアム周遊パス」に参加した。

「福岡県観光パスポート（ふくおかよかとこパスポート）」は福岡県が、株式会社日本旅行へ委託し、観光客の動向調査及び県内周遊を目的として実施する事業である。「ミュージアム周遊パス」は大規模スポーツ国際大会の開催を契機として、九州各県の美術館・博物館等文化施設への周遊を促進する取り組みで、参加して施設情報を掲載した。

(9) 実習・研修

◎博物館実習

内容：4年度は9大学から16名の実習生を受け入れ、8月23日（火）～9月2日（金）の10日間実施した。参加した実習生の在籍校および人数ならびに実習カリキュラムは以下のとおりである。



博物館実習（大宰府史跡の見学）風景

大学名	学部名	学科名	実習生数 (名)
九州産業大学	地域共創学部	地域づくり学科	1
久留米大学	文学部	情報社会学科	1
西南学院大学	法学部	法律学科	1
西南学院大学	国際文化学部	国際文化学科	1
筑紫女学園大学	文学部	アジア文化学科	1
福岡大学	人文学部	歴史学科	5
佐賀大学	芸術地域 デザイン学部	地域デザインコース	3
立命館大学	文学部	人文学科	1
神戸女子大学	文学部	史学科	1
東京農業大学	生命科学部	バイオサイエンス学科	1
実習生総数			16

博物館実習カリキュラム

日程	午前	午後	担当
第1日	オリエンテーション 開講式施設見学	講話「学芸員の実務」 古代体験	広報普及班 学芸研究班
第2日	大宰府史跡の見学		大宰府調査班
第3日	発掘調査と出土遺物の整理		文化財調査班
第4日	西谷正名誉館長講話	考古資料の取り扱い	広報普及班 学芸研究班
第5日	教育普及	名誉館長講座受講	広報普及班
第6日	美術工芸資料の取り扱い	美術工芸資料の取り扱い	学芸研究班
第7日	広報普及 図書整理	広報普及 図書整理	広報普及班 企画推進班
第8日	資料の保存修復と保管	資料の保存修復と保管	文化財科学班
第9日	歴史資料の取り扱い	歴史資料の取り扱い	学芸研究班 広報普及班
第10日	博物館の保存環境	実習のまとめ 閉講式	文化財科学班 広報普及班

◎九州歴史資料館文化財研修

福岡県は、『福岡県文化財保護大綱』を定め、県と市町村とが連携した地域の文化財保護の充実に取り組んでいる。これに基づく具体的な施策として、当館では、文化財保護課と連携し、市町村の担当職員を対象とした文化財研修を開催し、業務に必要な知識や技術を伝えるとともに、職員同士が様々な情報を交換する機会を設けた。一連の研修を通じて、県及び市町村の担当職員の資質の向上と、互いに連携しながら文化財保護を推進していく関係性の創出を目指している。

4年度から、文化財保護行政の体系と仕組みを学ぶための「文化財基礎研修」と、各種文化財業務の遂行に必要な基礎知識や技術を習得するための部門別研修の実施を本格的に開始した。部門別研修は、「有形文化財（建造物）基礎研修」（隔年1回）、「有形文化財（美術工芸品）基礎研修」（年1回）、「民俗文化財基礎研修」（隔年1回）、「記念物基礎研修」（隔年1回）、「史跡等整備基礎研修」（隔年1回）、「埋蔵文化財発掘調査基礎研修」（平成29年度より実施、年7回）、「埋蔵文化財安全衛生講習会」の構成となっている。このうち、4年度に行った研修は下記の表のとおりで、市町村職員延べ190名の参加を得た。

○文化財基礎研修および部門別研修

研修名	開催日	場所	テーマ	内 容		人数 (名)
文化財 基礎研修	7月1日	当館研修室	文化財保護 行政の基礎 知識	講 義	文化財保護行政の今日的意義	40
					文化財保護制度の歴史	
					埋蔵文化財の保護と市町村の役割	
					各種文化財の保護と補助制度	
					福岡県の文化財保護行政の特色と課題	
史跡等整備 基礎研修	8月10日	当館研修室	史跡整備事 業の基礎知 識	講 義	史跡等整備総論	35
					整備基本計画（基本構想）の立案	
					史跡整備における景観の考え方	
					整備基本設計・実施設計の概要と留意点	
					整備工事・工事監理における留意点	
					事例報告	
					補助メニューと近年の動向	
有形文化財 （建造物） 基礎研修	9月9日	るり色ふる さと館、居 蔵の館（う きは市）	民 家（町 屋）調査の 基礎知識	講 義・ 演 習	民家（町屋）調査の基礎知識	20
					写真の撮り方	
					実測方法の説明	
					演習：測量、図面作成	
有形文化財 （美術工芸 品）基礎研 修	2月17日	当館研修室	古文書の基 礎知識	講 義・ 演 習	古文書の基礎知識	20
					古文書調査の進め方	
					演習：収蔵庫見学、取扱いの基礎知識と実演見学、取扱い実習（卷子・掛軸・書冊等）	



有形文化財（建造物）基礎研修



有形文化財（美術工芸品）基礎研修

○埋蔵文化財発掘調査基礎研修

平成29年度より、県内市町村文化財担当職員の埋蔵文化財の調査・事務処理の知識及び技術の向上を目的として、発掘調査等の実務経験が少ない新採職員等を対象とした基礎研修を実施している。4年度は全7回の講座として企画実施した。

「埋蔵文化財発掘調査基礎研修」研修内容

			テーマ		内容
1	6月17日（金）	埋 文 事 務 手 続 き	埋蔵文化財に関する法律	講 義	文化財保護法・関連法令
			埋蔵文化財事務手続き		事務手続きの流れ 九州地区基準・県取扱要綱
事前審査					
試掘確認調査					
埋蔵文化財関連国庫補助事業					
2	7月15日（金）	発 掘 調 査	事前準備	講 義	発掘調査着手にかかる諸手続き
					着手前の現地確認
					調査計画の策定
					作業員の募集と雇用
		安全衛生管理			
		本調査	講 義	機材搬入	
				表土剥ぎ	
遺構検出					
囿化	実 習	遺構掘り下げ			
		囿化			
写真撮影	実 習	撤収・埋め戻し～引渡し 終了後の保護法上の手続き等			
囿化実習		測量機器の取り扱い			
3	9月30日（金）		発掘調査実習	実習	遺構検出・掘削の基礎、囿化

			テーマ		内容
4	10月21日（金）	整理・報告書作成	整理・報告書作成	講義	整理事業の流れ
					文章の作成、編集、入稿、校正
	実習		遺構割付、遺物割付		
5	11月18日（金）		実測、写真撮影	実習	土器実測
				実習	拓本
6	12月16日（金）		拓本、実測	講・実	写真撮影の方法
		実習		石器、金属器等実測	
7	1月20日（金）	保存管理	トレース	講・実	トレースの方法
			特殊遺物の対応	講義	特殊遺物の対応
			遺物の保存管理		遺物の保存処理 科学分析の方法と外注の実際

（10）市町村支援

◎文化財保護に係る技術支援

主に県内の文化財保護に寄与するため、当館職員による市町村への技術支援を推進している。これは、2年度に策定した『福岡県文化財保護大綱』の記載内容に基づき、「九州歴史資料館文化財研修」と対になるものとして、3年度に取り組みが強化されたものである。なお、本支援については、研修により得た知識だけでは解決することができない現場の事象に対する実地でのアフターフォローという側面もあわせ持つ。

4年度の実績としては、以下に記す98件の依頼を受けて、当館の技術職員が各種技術支援を行った。ただし、一つの派遣文書で複数回の支援を行う案件が多いこと、文書に基づいていない派遣依頼も見られることから、実数としては下表よりも多い。

市町村等への技術支援 実績一覧（派遣依頼文書受理分）

期 間	依 頼 元	目 的 ・ 理 由	担 当	
			所 属	氏 名
4月1日～	新修宗像市史編集委員会	原始・古代部会における指導助言・史資料調査等	学芸調査室・埋蔵文化財調査室	松川・吉田・酒井
4月1日～	みやま市教育委員会	史跡女山神籠石災害復旧事業における現地指導等	文化財企画推進室・埋蔵文化財調査室	森井・入佐・坂元
4月1日～	桂川町教育委員会	特別史跡王塚古墳整備事業に係る技術支援	学芸調査室・文化財企画推進室	入佐・加藤・小林
4月13日	新修宗像市史編集委員会	名残不動堂の現地調査	学芸調査室	井形進・日野綾子
4月15日	新修宗像市史編集委員会	承福寺絵画の現地調査	学芸調査室	井形進・日野綾子
4月19日	新修宗像市史編集委員会	九州飛行機(株)採取資料の保存処理に係る現地指導	学芸調査室	加藤和歳

期 間	依 頼 元	目 的 ・ 理 由	担 当	
			所 属	氏 名
4月28日	新修宗像市史編集委員会	鎮国寺仏像の現地調査	学芸調査室	井形進・日野綾子
5月20日	新修宗像市史編集委員会	増福院涅槃図の現地調査	学芸調査室	井形進・日野綾子
5月23日	那珂川市教育委員会	那珂川市文化財専門委員会への出席	学芸調査室	松川博一
5月23日～	大刀洗町教育委員会	高樋塚添遺跡発掘調査への現地指導	埋蔵文化財調査室	森井・坂本・坂元
5月27日	宗教法人宗像大社	宗像大社沖津宮出土品等保存活用計画策定委員会への出席	学芸調査室	加藤和歳
5月29日	新修宗像市史編集委員会	宗像大社の仏像調査	学芸調査室	井形進・日野綾子
5月31日	貝島家住宅文化財調査委員会	貝島家住宅文化財調査委員会への出席	文化財企画推進室	渡部邦昭
6月1日	公益財団法人古都大宰府保存協会	機関紙『都府楼54号』第1回編集委員会への出席	学芸調査室	酒井芳司
6月1日	福津市教育委員会	新原・奴山古墳群発掘調査に係る現地指導	埋蔵文化財調査室	宮地総一郎
6月2日	新修宗像市史編集委員会	鎮国寺奥の院の現地調査	学芸調査室	井形進・日野綾子
6月24日	八女市教育委員会	八女市岩戸山歴史文化交流館協議会への出席	学芸調査室	松川博一
6月27日	長崎県松浦市教育委員会	鷹島海底遺跡調査指導委員会への出席	学芸調査室	小林啓
6月28日	長崎県松浦市教育委員会	鷹島海底遺跡出土遺物の保存処理に係る調査指導	学芸調査室	小林啓
6月29日	岩手県二戸市教育委員会	特別史跡水城跡整備に係る現地協議	文化財企画推進室	入佐友一郎
6月28日	直方市教育委員会	史跡筑豊炭田遺跡群整備基本設計策定に係る現地協議	文化財企画推進室	入佐友一郎
7月1日～	太宰府市教育委員会	大宰府の絵師に関する調査協力	学芸調査室	日野綾子
7月1日～	東峰村教育委員会	阿蘇4火砕流堆積物等保存活用計画策定指導委員会への出席	文化財企画推進室	入佐友一郎
7月6日	大野城市史跡対策委員会	大野城市史跡対策委員会への出席	文化財企画推進室	入佐友一郎
7月12日	甘木歴史資料館	甘木歴史資料館所蔵絵画資料の取扱いに係る指導	文化財企画推進室	國生知子
7月13日	福岡市	福岡城祈念櫓事前調査業務委託審査委員会への出席	文化財企画推進室	入佐友一郎
7月22日	長崎県諫早市	歳神社木造女神像ほか概要調査	学芸調査室	井形進

期 間	依 頼 元	目 的 ・ 理 由	担 当	
			所 属	氏 名
7月26日	福岡市	福岡城鉄物櫓石垣修復検討業務委託 審査委員会への出席	文化財企画推進室	入佐友一郎
7月28日	朝倉市教育委員会	朝倉市文化財レスキュー事業報告書 の執筆	学芸調査室・文化財企 画推進室	加藤・遠藤 ・國生
7月29日	飯塚市教育委員会	飯塚市文化財保護審議会への出席	学芸調査室	井形進
8月10日	志免町教育委員会	志免町文化財保護審議会への出席	文化財企画推進室	國生知子
8月22日	久山町教育委員会	史跡首羅山遺跡保存活用整備指導委 員会	学芸調査室	井形進
8月26日	長崎県教育庁	令和4年度第1回長崎県文化財保護審 議会への出席	学芸調査室	井形進
8月31日	朝倉市教育委員会	令和4年度第1回朝倉市文化財保存活 用地域計画協議会への出席	文化財企画推進室	國生知子
9月16日	飯塚市教育委員会	「飯塚市鳥瞰図」の現地調査	学芸調査室	井形進
9月22日	久山町教育委員会	若八幡宮絵馬の現地解説及び協議	学芸調査室	日野綾子
9月29日～	久留米市教育委員会	高良山総合調査（第2次）における 調査指導	学芸調査室	遠藤啓介
9月30日	柳川市教育委員会	令和4年度柳川古文書館協議会への 出席	学芸調査室	松川博一
9月30日	糸島市地域振興 部	令和4年度第1回糸島市文化財保護審 議会への出席	文化財企画推進室	國生知子
10月1日	長崎県松浦市教 育委員会	海底遺物の発掘及び引上げ調査への 現地指導	学芸調査室	小林啓
10月5日	朝倉市秋月博物 館	令和4年度朝倉市秋月博物館協議会 への出席	学芸調査室	松川博一
10月7日	古賀市教育委員 会	令和4年度第2回船原古墳調査指導委 員会への出席	学芸調査室	加藤和歳
10月13日	太宰府市史跡対 策委員会	令和4年度第1回太宰府市史跡対策委 員会への出席	副館長	吉村靖徳
10月16日	東峰村教育委員 会	阿蘇4火砕流堆積物等指定記念一般 公開への支援	埋蔵文化財調査室	坂本真一
10月17日	直方市教育委員 会	史跡筑豊炭田遺跡群有識者委員会現 地指導会への出席	文化財企画推進室	入佐友一郎
10月20日	長崎県諫早市	木造傳大士坐像と大蔵経の詳細調査	学芸調査室	井形進
10月25日	鹿児島県立埋蔵 文化財センター	廣牧遺跡出土遺物整理に係る指導助 言	埋蔵文化財調査室	宮地総一郎
10月26日	八女市教育委員 会	八女市岩戸山文化交流館協議会への 出席	学芸調査室	松川博一
11月1日～	苅田町教育委員 会	町指定史跡松山城跡の文献史料調査 への指導	学芸調査室	酒井芳司

期 間	依 頼 元	目 的 ・ 理 由	担 当	
			所 属	氏 名
11月3日	久山町文化交流センター	史跡首羅山遺跡ツキイチ登山会における現地講師	学芸調査室	井形進
11月8日	福岡市	史跡板付遺跡保存活用検討会への出席	文化財企画推進室	入佐友一郎
11月15日	東峰村教育委員会	阿蘇4火砕流堆積物等保存活用計画策定指導委員会への出席	文化財企画推進室	入佐友一郎
11月15日	百合野山荘調査・分析スタッフの会	貝島家住宅文化財調査委員会への出席	文化財企画推進室	渡部邦昭
11月16日	古賀市教育委員会	古賀市立歴史博物館整備に伴う指導助言	学芸調査室	松川博一
11月19日	宗像市教育委員会	沖ノ島の斜面保護に係る指導助言	文化財企画推進室	入佐友一郎
11月25日	那珂川市文化財専門委員会	那珂川市文化財専門委員会への出席	学芸調査室	松川博一
11月30日	福岡市	史跡福岡城跡祈念櫓・鉄物櫓整備検討委員会への出席	文化財企画推進室	入佐友一郎
12月2日	東峰村教育委員会	阿蘇4火砕流堆積物等保存活用計画策定指導委員会への出席	文化財企画推進室	入佐友一郎
12月4日	甘木歴史資料館	秋季企画展記念シンポジウムへの出席	学芸調査室	酒井芳司
12月6日～	須恵町教育委員会	佐谷観音経塚発掘調査にかかわる指導助言	埋蔵文化財調査室	森井啓次
12月21日ほか	うきは市教育委員会	史跡屋形古墳群（原古墳）整備に係る現地指導	文化財企画推進室	入佐友一郎
12月23日	朝倉市教育委員会	令和4年度第2回朝倉市文化財保存活用地域計画協議会への出席	文化財企画推進室	國生知子
12月24日	研究・知財戦略機構	文科省科学研究費国際学術研究会への参加・報告	学芸調査室	酒井芳司
2023年1月10日	みやま市教育委員会	史跡女山神籠石災害復旧事業報告書作成に係る指導助言	文化財企画推進室	入佐友一郎
1月27日	宗教法人宗像大社	国宝宗像大社出土品等保存活用計画策定指導委員会への出席	学芸調査室・埋蔵文化財調査室	加藤和歳・宮地総一郎
1月27日	長崎県教育庁	長崎県文化財保護審議会への出席	学芸調査室	井形進
2月3日	公益財団法人古都大宰府保存協会	『都府楼54号』第2回編集委員会への出席	学芸調査室	酒井芳司
2月7日	直方市教育委員会	史跡筑豊炭田遺跡群有識者委員会現地指導会への出席	文化財企画推進室	入佐友一郎
2月7日	福岡市	史跡板付遺跡保存活用検討会への出席	文化財企画推進室	入佐友一郎

期 間	依 頼 元	目 的 ・ 理 由	担 当	
			所 属	氏 名
2月15日	文化庁文化財第二課	近世・近代の埋蔵文化財の保存活用に関する調査研究委員会への出席	埋蔵文化財調査室	宮地総一郎
2月16日	宗像・沖ノ島と関連遺産群保存活用協議会	さつき松原に漂着した陶磁器に関する指導	学芸調査室	遠藤啓介
2月16日	糸島市地域振興部	令和4年度第2回糸島市文化財保護審議会への出席	文化財企画推進室	國生知子
2月28日	大野城市史跡対策委員会	大野城市史跡対策委員会への出席	文化財企画推進室	入佐友一郎
3月2日	直方市教育委員会	史跡筑豊炭田遺跡群有識者委員会現地指導会への出席	文化財企画推進室	入佐友一郎
3月2日	宗像市教育委員会	宗像市文化財保護審議会への出席	文化財企画推進室	國生知子
3月5日	日本遺跡学会	日本遺跡学会2022年度大会への出席等	文化財企画推進室	入佐友一郎
3月7日	久留米市文化財収蔵資料審議会	久留米市文化財収蔵資料審議会への出席	文化財企画推進室	國生知子
3月7日	東峰村教育委員会	阿蘇4火砕流堆積物等保存活用計画策定指導委員会への出席	文化財企画推進室	入佐友一郎
3月8日	春日市教育委員会	春日市文化財専門委員会への出席	埋蔵文化財調査室	宮地総一郎
3月9日ほか	うきは市教育委員会	屋形古墳群（原古墳）整備に係る現地指導	文化財企画推進室	入佐友一郎
3月10日	朝倉市教育委員会	朝倉市文化財保存活用地域計画協議会への出席	文化財企画推進室	國生知子
3月21日	奈良文化財研究所	令和4年度遺跡整備・活用研究集会への出席	文化財企画推進室	入佐友一郎
3月22日	久山町教育委員会	久山町文化財保護審議会への出席	学芸調査室	井形進
3月22日	行橋市教育委員会	史跡御所ヶ谷神籠石整備事業に係る現地指導	埋蔵文化財調査室	吉田東明
3月22日	糸島市地域振興部	櫻井神社境内絵図史料調査に係る現地指導	学芸調査室	日野綾子
3月23日	桂川町教育委員会	特別史跡王塚古墳保存整備検討委員会への出席	学芸調査室・文化財企画推進室	加藤和歳・入佐友一郎
3月23日	長崎県松浦市教育委員会	鷹島海底遺跡出土遺物の保存処理に係る現地指導等	学芸調査室	小林啓
3月24日	長崎県松浦市教育委員会	鷹島海底遺跡調査指導委員会への出席	学芸調査室	小林啓
3月24日	久留米市文化財保存活用地域計画協議会	久留米市文化財保存活用地域計画協議会への出席	文化財企画推進室	入佐友一郎

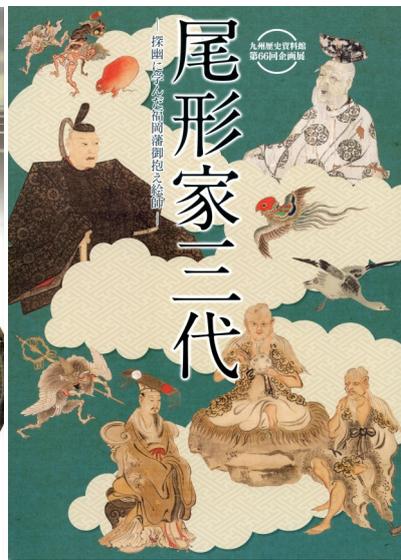
期 間	依 頼 元	目 的 ・ 理 由	担 当	
			所 属	氏 名
3月24日	九州国立博物館	九博列品等修理請負候補者選定委員会への出席	文化財企画推進室	國生知子
3月24日	那珂川市教育委員会	那珂川市文化財専門委員会への出席	学芸調査室	松川博一
3月29日	大分県中津市教育委員会	令和4年度中津市歴史博物館協議会への出席	学芸調査室	松川博一
3月30日	飯塚市教育委員会	飯塚市文化財保護審議会への出席	学芸調査室	井形進

(11) 刊行物一覧

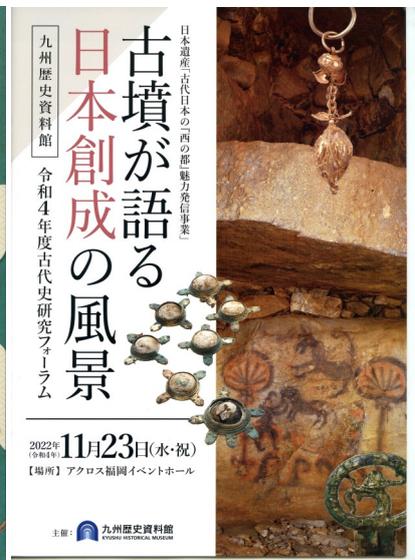
No.	書名	刊行月
1	『九州歴史資料館研究論集48』	3月
2	『九歴だよりN0. 55』	4月
3	『九歴だよりNo. 56』	11月
4	『特別展 京都平野と豊の国の古代』	10月
5	『企画展 尾形家三代―探幽に学んだ福岡藩御抱え絵師―』	1月
6	『九州歴史資料館解説シート83 「やきもの」の分類』	7月
7	『九州歴史資料館解説シート84 【用語解説】器の形』	7月
8	『九州歴史資料館解説シート85 福岡鉄道遺産ものがたり8―日豊本線編―』	10月
9	『九州歴史資料館解説シート86 筑紫・豊（前）の4つの窓（前編）』	12月
10	『九州歴史資料館解説シート87 船原古墳遺物埋納坑調査の最前線2022―2023』	3月
11	『一般国道210号浮羽バイパス第26集 新開遺跡』	3月
12	『福岡県文化財調査報告書第280集 十郎丸長谷遺跡』	3月
13	『福岡県文化財調査報告書第281集 湯辺田・下柿瀬遺跡』	10月
14	『福岡県文化財調査報告書第282集 本郷流川遺跡』	12月
15	『福岡県文化財調査報告書第283集 法正寺遺跡群第2次・山口古墳群』	3月
16	『大宰府外郭線 I』	3月
17	古代史研究フォーラム予稿集『古墳が語る日本創成の風景』	11月
18	『西新町遺跡』再整理事業リーフレット	3月



特別展「京都平野と豊の国の古代」図録



企画展「尾形家三代」図録



古代史研究フォーラム『古墳が語る日本創成の風景』予稿集

(12) 交流事業

◎日韓学術文化交流事業

福岡県教育委員会では、アジア文化交流センターからの執行委任事業として、百済・新羅の調査研究を行っている韓国国立文化財研究所との間で職員の相互派遣による学術交流事業を行っている。

4年度は新型コロナ感染予防のため本事業を中止した。

(13) 協議会等

◎九州歴史資料館協議会

令和4年8月8日(月)に木川会長ほか12名の委員が出席(うち7名はリモート)して協議会を開催した。

○協議・報告事項

- 1 報告事項 3年度事業報告 3年度九州歴史資料館自己評価表(実施段階)
- 2 協議事項 4年度事業計画、4年度九州歴史資料館自己評価表(計画段階)

九州歴史資料館協議会委員名簿

4年6月1日現在

	氏名	所属
(会長)	木川 りか	九州国立博物館博物館科学課長
(副会長)	黒田 修三	前宇美町立図書館長
委員	石田 智子	鹿児島大学准教授
	河上 麻由子	大阪大学大学院准教授
	小林 知美	筑紫女学園大学准教授
	中野 等	九州大学大学院教授
	樋田 京子	太宰府市教育委員会教育長
	岩切 優子	筑紫野市立筑山中学校長
	秋永 晃生	小郡市教育委員会教育長
	植野 かおり	公益財団法人立花財団 立花家史料館長
	岩城 一磨	小郡市立のぞみが丘小学校長
	山野 善郎	有限会社建築史塾Archist代表取締役
	金田 明大	奈良文化財研究所埋蔵文化財センター長
川述 昭人	前八女市岩戸山歴史文化交流館長	

2 九州歴史資料館概要

(1) 沿革

昭和43年7月1日	大宰府史跡発掘調査指導委員会が発足し、第1回委員会が開催される。
昭和44年9月5日	福岡県が、九州歴史資料館設置計画の基本構想を発表
昭和46年3月8日	太宰府天満宮が九州歴史資料館・国立博物館用地として社有地約14万㎡を寄贈 福岡県は九州歴史資料館を建設することとし、建設工事に着手
昭和47年3月	建設工事竣工（落成式）
昭和47年4月	「福岡県公の施設及び管理に関する条例」に基づき九州歴史資料館設置 「九州歴史資料館組織規則」制定 副館長以下19名発令
昭和47年5月	鏡山猛、初代館長に就任
昭和47年11月	「九州歴史資料館協議会規則」制定（委員15名を委嘱）
昭和48年2月	「九州歴史資料館の利用に関する規則」制定
2月24日	九州歴史資料館開館（展示室一般公開始まる）
昭和49年8月	求菩提資料館開館
昭和50年9月4日	博物館相当施設（相当施設第9号）
昭和53年10月	大宰府史跡発掘調査10周年記念特別展「一甦る遠の朝廷—大宰府」開催
昭和56年4月	田村圓澄、第二代館長に就任
昭和59年2月	開館10周年記念特別展「国宝観世音寺鐘・妙心寺鐘とその時代」開催 開館10周年記念シンポジウム「古代の西海道と大宰府」開催
昭和60年4月1日	「九州歴史資料館条例」施行 求菩提資料館・甘木歴史資料館・柳川古文書館を分館とする
昭和60年5月25日	甘木歴史資料館開館
昭和60年10月1日	柳川古文書館開館
昭和63年9月	大宰府史跡発掘調査20周年記念特別展「発掘が語る遠の朝廷—大宰府」開催
平成2年9月	「とびうめ国体」の本県開催に並行し、特別展「古代の福岡」開催（～11月）
平成5年4月	吉久勝美、第三代館長に就任
平成5年10月	開館20周年記念特別展「日本の鬼瓦」開催
平成8年4月	高橋良平、第四代館長に就任
平成8年12月26日	公開承認施設（第51号）
平成9年6月	福岡県教育委員会教育長 光安常喜、九州歴史資料館長に兼務発令
平成10年10月	大宰府史跡発掘調査30周年記念特別展「大宰府復元」開催
平成14年4月	福岡県教育委員会教育長 森山良一、九州歴史資料館長に兼務発令
平成15年1月	開館30周年企画展示「大宰府へ、こころが動き、ものが動く」開催
平成15年8月	特別展「大宰府へ、ひとが動き、ものが動く」開催
平成16年4月	特別展「大宰府へ、くが動き、ものが動く」開催
平成18年11月	特別展「観世音寺」開催
平成20年4月	西谷 正、第七代館長に就任 組織規則の一部改正；課制を廃止し、室・班制とする 小郡市三沢に新九州歴史資料館建設工事着手
平成20年10月	大宰府史跡発掘調査40周年記念事業開催（～12月） 『都府楼』刊行記念講演会、シンポジウム、企画展示など
平成21年6月	新九州歴史資料館建設工事竣工

平成22年 3月	特集展示「九歴の歩み」開催
平成22年 7月	組織移転（太宰府市→小郡市）
平成22年11月20日	開館記念式典・一般公開開始（21日～）
	開館記念特別展「大宰府—その栄華と軌跡—」開催（～1月）
平成22年12月	開館記念シンポジウム「大宰府と西海道—古代の役所と人々の暮らし—」開催
平成23年 2月	常設展公開開始
平成23年 4月	文化財調査室（文化財調査班、保存管理班）設置
平成23年 7月25日	登録博物館（第22号）
平成23年11月	特別展「発掘された日本列島2011」開催（～12月）
平成24年 1月	移転開館1周年記念企画展「北部九州の霊山と経塚」開催（～2月）
平成24年10月	特別展「長崎街道—世界とつながった道—」開催（～12月）
平成25年 1月	企画展「聖地四王寺山」開催（～3月）
平成25年 4月	荒巻俊彦、第八代館長に就任 学芸調査室に広報普及班設置、学芸普及班は学芸研究班に名称変更、総務室に総務班設置
平成25年 9月	開館40周年・移転開館3周年記念特別展 「戦国武将の誇りと祈り—九州の覇権のゆくえ—」開催（～11月）
平成25年10月	開館40周年・移転開館3周年記念イベント開催
平成26年 1月	企画展「五卿と志士—維新前夜の太宰府—」開催（～2月）
平成26年 4月	杉光 誠、第九代館長に就任
平成26年 8月	企画展「黒田官兵衛と城」開催（～9月） 企画展「水城築堤1350年記念企画展「徹底解説!! 水城のすべて」」開催（～9月）
平成26年10月	特別展「福岡の神仏の世界—北部九州に華ひらいた信仰と造形—」開催（～11月）
平成26年11月	入館者10万人達成記念式典
平成27年 9月	企画展「貝原益軒—大宰府研究の先賢たち—」開催（～10月）
平成27年10月	大野城築城1350年記念・移転開館5周年記念特別展 「四王寺山の1350年—大野城から祈りの山へ—」開催（～12月）
平成27年10月	移転開館5周年記念イベント開催
平成28年 9月	特別展「八女の名宝」開催（～11月）
平成28年11月	企画展「大宰府の役人と文房具」開催（～1月）
平成29年 8月	特別展「霊峰英彦山」開催（～9月）
平成29年10月	企画展「福岡県の城」開催（～12月） 企画展「大宰府を探るサイエンス」開催（～12月）
平成30年 2月	企画展「堅粕薬師と東光院の古仏たち」開催（～4月）
平成30年 4月	特別展「大宰府への道」開催（～6月）
平成30年 6月	企画展「幕末の城—近世の沿岸警備と幕末期城郭—」開催（～8月）
令和元年10月	特別展「久留米—その歴史と文化—」（～12月）
令和 2年 1月	企画展「太宰府天満宮の境内絵図—さいふまいるの江戸・明治—」（～2月）
令和 2年 2月	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館（～5月）
令和 2年 4月	吉田法稔、第十代館長に就任
令和 2年10月	移転開館10周年記念特別展「福岡の至宝に見る信仰と美」開催（～11月）
令和 2年11月 8日	移転開館10周年記念イベント開催（感染症拡大防止のため式典は縮小実施）
令和 2年12月	企画展「朝鮮通信使と福岡—福岡県朝鮮通信使総合調査成果展—」開催（～2月）

令和3年4月	組織改編により文化財企画推進室を新設し、企画推進班を設置 保存管理班を学芸調査室から文化財企画推進室に移設 文化財調査室を埋蔵文化財調査室に名称変更
令和3年4月28日	城戸秀明、第十一代館長に就任
令和3年5月	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館（～6月）
令和3年8月	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館（～9月）
令和3年10月	特別展「九州山岳霊場遺宝―海を望む北西部の山々から―」（～12月）
令和4年4月	組織改編により、広報普及班を学芸調査室から文化財企画推進室へ移設 保存管理班を文化財科学班に名称変更し、文化財企画推進室から学芸調査室へ 移設、調査研究班を大宰府調査班へ名称変更
令和4年10月	特別展「京都平野と豊の国の古代」（～12月）

（2）施設概要

- 1) 本館棟 鉄筋コンクリート造・一部鉄骨造、地上2階
展示室、図書閲覧室、研修室、会議室、保存科学諸室、文化財整理諸室、
特別収蔵庫、図書収蔵庫、調査研究室、写真室、文化情報広場
- 2) 一般収蔵庫棟 鉄骨造、地上2階
木器保存処理室・一般収蔵庫
- 3) 新収蔵庫棟 軽量鉄骨造、地上1階
新収蔵庫
- 4) 敷地面積 43,438.62㎡
- 5) 延床面積 13,840.79㎡(本館:9,475.92㎡、一般収蔵庫:2,326.15㎡、新収蔵庫:
2,038.72㎡)
- 6) 建設費 約36億円(本館・一般収蔵庫)

（3）予算（4年度）

当館の事業費総額は230,671千円で、内訳別にみると次のとおりである。

1	九州歴史資料館費	204,930千円
	資料館運営費	123,644千円
	歴史資料調査研究費	1,553千円
	歴史資料等収集整備費	742千円
	資料館展示費	1,590千円
	特別展示事業費	9,579千円
	県史史料管理公開事業費	9,187千円
	九州歴史資料館整備費	44,413千円
	古代日本の「西の都」魅力発信事業	14,222千円
2	文化財保護費	25,741千円
	大宰府史跡発掘調査費	25,741千円
	※受託・執行委任事業は除く	

(4) 組織・職員 (令和4年4月1日現在)

①九州歴史資料館



所 属	職 名	氏 名	摘 要
館 長		城 戸 秀 明	
副館長		吉 村 靖 徳	副館長兼 埋蔵文化財調査室長
総務室	企画主幹		黒 岩 計 光 総務室長
	総務班	企画主査	高 山 美 保 子 総務班長
		主任主事	古 賀 知 香
		主任主事	小 原 大 輔
	主事	原 口 美 紀	
学芸調査室	企画主幹		松 川 博 一 学芸調査室長
	学芸研究班	参事補佐	井 形 進 学芸研究班長
		参事補佐	酒 井 芳 司
		技術主査	遠 藤 啓 介
		主任技師	日 野 綾 子
	文化財科学班	参事補佐	加 藤 和 歳 文化財科学班長
技術主査		小 林 啓	
文化財企画推進室	企画主幹		秦 憲 二 文化財企画推進室長 兼広報普及班長
	企画推進班	参事補佐	入 佐 友 一 郎 企画推進班長
		企画主査	國 生 知 子
	広報普及班	指導主事 兼 事務主査	中 野 宏 人
		指導主事 兼 事務主査	田 中 奨 俊
		主任技師	渡 部 邦 昭
参事補佐		森 井 啓 次 文化財調査班長	
文化財調査班	参事補佐	小 川 泰 樹	
	技術主査	坂 本 真 一	
	技術主査	坂 元 雄 紀	
	大宰府調査班	参事補佐	吉 田 東 明 大宰府調査班長
参事補佐		進 村 真 之	
参事補佐		宮 地 聡 一 郎	
主任技師		小 嶋 篤	

②九州歴史資料館研究論集編集委員会

委員長	副館長	吉村 靖徳			
委 員	学芸調査室長	松川 博一	委 員	総務班長	高山 美保子
委 員	文化財企画推進室長	秦 憲 二	事務局長	大宰府調査班長	吉田 東明

(5) 関係法規

○九州歴史資料館条例

昭和60年1月21日福岡県条例第4号)

最終改正 令和5年3月 福岡県条例第5号

(設置)

第1条 地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)第30条の規定に基づき、歴史資料の収集、保管、調査及び研究を行うとともに、併せてこれを展示し、もって文化財の保護と文化財愛護思想の普及に資するため、歴史資料館を設置する。

(名称及び位置並びに分館の設置)

第2条 歴史資料館の名称及び位置は、次のとおりとする。

名 称	位 置
九州歴史資料館	小郡市

2 九州歴史資料館に分館を置き、その名称及び位置は、次のとおりとする。

名 称	位 置
求菩提資料館	豊前市
甘木歴史資料館	朝倉市
柳川古文書館	柳川市

(利用の承認等)

第3条 福岡県公の施設の設置及び管理に関する条例(昭和39年福岡県条例第5号)第3条から第6条まで及び第9条の規定は、九州歴史資料館の利用の承認等について適用する。この場合において、第4条第1項中「知事若しくは委員会から公の施設の管理に関し委任を受けた者」とあるのは、「指定管理者」と読み替えるものとする。

(九州歴史資料館協議会)

第4条 博物館法(昭和26年法律第285号)第23条第1項の規定に基づき、九州歴史資料館協議会(次項及び第六項において「協議会」という。)を置く。

2 協議会の委員(以下この条において単に「委員」という。)は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者の中から任命する。

3 委員の定数は、15人以内とする。

4 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

5 委員は、再任されることができる。

6 前各項に定めるもののほか、協議会に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

(使用料)

第5条 九州歴史資料館を利用する者は、別表第1各表の区分に応じ、当該各表に掲げる金額の使用料を納めなければならない。

2 前項の規定により納付した使用料は、還付しない。ただし、規則で定める場合に該当するときは、その全部又は一部を還付することができる。

(手数料)

第6条 資料の複写を依頼しようとする者は、別表第2の区分に応じ、同表に掲げる金額の手数料を納めなければならない。

(使用料又は手数料の減免)

第7条 知事は、規則で定める場合に該当するときは、使用料又は手数料を減額し、又は免除することができる。

(適用除外)

第8条 前3条の規定は、第2条第2項に規定する分館(以下単に「分館」という。)については、適用しない。

(指定管理者による管理)

第9条 分館の管理に関する業務のうち次に掲げるものは、地方自治法(昭和22年法律第67号)第244条の2第3項の規定により、法人その他の団体であって教育委員会が指定する者(以下「指定管理者」という。)に行わせるものとする。

一 分館の利用の許可に関する業務

二 分館の諸施設の維持及び保守に関する業務

三 前2号に掲げるもののほか、教育委員会が別に定める業務

(指定管理者の指定の手続)

第10条 指定管理者の指定を受けようとする者は、教育委員会規則で定める申請書に、次に掲げる書類を添えて、教育委員会に提出しなければならない。

一 事業計画書

二 前号に掲げるもののほか、教育委員会規則で定める書類

2 教育委員会は、前項の規定による申請があったときは、次の各号のいずれにも該当する者の中から最も適切に分館の管理を行うことができると認められた者を指定管理者として指定するものとする。

一 事業計画の内容が、住民の平等な利用を確保することができるものであること。

二 事業計画の内容が、分館の効用を最大限に発揮させるとともに、効率的な管理ができるものであ

ること。

三 分館の管理を安定して行うために必要な人員及び財政的基盤を有しているものであること。

四 法令並びに関係条例及び規則の規定を遵守し、適正な管理ができるものであること。

五 その他教育委員会が分館の設置の目的を達成するために必要と認めるものとして別に定める事項

3 教育委員会は、指定管理者の指定をしたとき、及び指定を取り消したときは、遅滞なく、その旨を公示するものとする。

(秘密保持義務)

第11条 指定管理者及び分館の管理に関する業務に従事する者(以下「従事者」という。)は、個人情報適切に保護されるよう配慮するとともに、分館の管理に関し知り得た秘密を他に漏らし、又は自己の利益のために利用してはならない。指定管理者の指定の期間が満了し、又は指定を取り消され、及び従事者の職務を退いた後においても、同様とする。

(協議)

第12条 この条例に定めるもののほか、管理に要する経費その他必要な事項は、教育委員会と指定管理者が協議して定める。

(規則への委任)

第13条 この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附 則(抄)

(施行期日)

この条例は、昭和60年4月1日から施行する。

附 則(令和元・7・16福岡県条例第5号)

(施行期日)

この条例は、令和元年10月1日から施行する。

(九州歴史資料館条例の一部改正に伴う経過措置)

第二十九条の規定による改正後の九州歴史資料館条例の規定は、施行日以後にされる利用の承認に係る使用料について適用し、施行日前にされた利用の承認に係る使用料については、なお従前の例による。

別表第1(第5条関係)

1 九州歴史資料館が主催して展示する歴史資料館の観覧料

区	分	金額 (1回につき)
個人で観覧する場合	一般	210円
	大学生・高校生	150円
20人以上の団体で観覧する場合	一般	150円
	大学生・高校生	100円

備考

1 この表において「大学生・高校生」とは、大学、高等専門学校、高等学校、中等教育学校の後期

課程、特別支援学校の高等部、専修学校又はこれらに準ずるものに在学する者をいう。

2 この表において「一般」とは、大学生・高校生及び中学生(中学校、義務教育学校の後期課程、中等教育学校の前期課程、特別支援学校の中学部又はこれらに準ずるものに在学する者をいう。)以外の者であって、15歳以上の者をいう。

2 展示室の使用料

区	分	金額 (1日につき)
入場料を徴収しない場合	第2展示室	3,510円
	第4展示室	8,500円
入場料を徴収する場合	第2展示室	5,260円
	第4展示室	12,750円

3 会議室及び研修室の使用料

区	分	金額(1時間につき)
	会議室	390円
	研修室1	390円
	研修室2	390円
	研修室3	390円

備考 使用時間に1時間に満たない端数があるときは、当該端数を1時間として計算する。

別表第2(第6条関係)

区	分	金額(1枚につき)
	電子式複写(白黒)	10円
	マイクロフィルムから	10円

○九州歴史資料館の利用、指定管理者の指定等に関する規則

(昭和48年2月20日教育委員会規則第4号)

最終改正 令和3年3月 教育委員会規則第4号

(目的)

第1条 この規則は、九州歴史資料館条例(昭和60年福岡県条例第4号。以下「条例」という。)第13条の規定に基づき、九州歴史資料館(以下「資料館」という。)の利用、指定管理者の指定等について定めることを目的とする。

(休館日)

第2条 資料館の休館日は、次のとおりとする。

一 月曜日。ただし、その日が国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日当たるときは、その日後においてその日に最も近い休日でない日

二 12月28日から翌年1月4日まで

- 2 前項の規定にかかわらず、九州歴史資料館長等(分館にあっては指定管理者。以下「館長等」という。)が必要と認めた場合は、臨時に休館又は開館することができる。ただし、この場合は、館長等がその都度あらかじめ日時を公示しなければならない。
- 3 前項の規定により、指定管理者が分館を臨時に休館又は開館しようとするときは、あらかじめ教育委員会の承認を受けるものとする。
(開館時間)
- 第3条 資料館の開館時間は、午前9時30分から午後4時30分までとする。ただし、入館は、午後4時までとする。
- 2 館長等は、特別の事情があるときは、前項に規定する開館時間を変更することができる。
- 3 前項の規定により、指定管理者が分館の開館時間を変更しようとするときは、あらかじめ教育委員会の承認を受けるものとする。
(利用の申込)
- 第4条 資料館(分館を除く。)の展示室、会議室及び研修室を利用しようとする者は、別に定める利用申込書を、事前に九州歴史資料館長に提出しなければならない。
(利用申込の取消又は変更)
- 第5条 前条の申込みをした者が、利用を中止し、又は利用内容を変更しようとするときは、直ちに九州歴史資料館長にその旨を通知しなければならない。
(利用の承認)
- 第6条 九州歴史資料館長は、第4条の使用申込が提出されたときは、速やかにこれを審査して使用の承認又は不承認を決定し、申込者に通知しなければならない。
(資料の複写)
- 第7条 資料の複写を必要とする場合は、九州歴史資料館長が別に定めるところにより、これを依頼することができる。ただし、次の各号の一に該当する場合は、九州歴史資料館長は、複写を認めないことがある。
- 一 著作権法(昭和45年法律第48号)に違反するおそれがあると認められるとき。
 - 二 資料館の管理上支障があると認められるとき。
 - 三 その他九州歴史資料館長が複写を不相当と認めるとき。
- 2 前項の複写は、九州歴史資料館に設置された複写機器により行うものとする。
(利用制限)
- 第8条 館長等は、次の各号の一に該当すると認められる者については、入館を禁じ、又は退館を命ずることができる。
- 一 他人に迷惑をかけ、展示品又は施設設備を損傷するおそれがあると認められる者
 - 二 その他係員の指示に従わない者
(資料の館外貸出し)
- 第9条 資料の館外貸出しは、原則として行なわないものとする。ただし、博物館、図書館、学校、官公署、その他館長等が適当と認めたものに対しては、この限りでない。
- 2 前項ただし書に掲げるものが資料の館外貸出を受けようとする場合は、別に定めるところにより、館長等の許可を受けなければならない。
- 3 資料の館外貸出しを受けたものは、館長等の指示するところにより、管理に当らなければならない。
- 4 館外貸出しを受けた資料は、これを他に転貸してはならない。
- 5 資料の貸出期間は、品目によって館長等がその都度定めるものとする。
(損害の賠償)
- 第10条 観覧者、利用者又は資料の館外貸出しを受けたものが、自己の責に帰すべき理由により、施設設備、展示品又は資料を損傷し、又は滅失したときは、館長等の指示を受けてこれを原形に復し、又は館長等が定める相当の代価をもって損害を賠償しなければならない。
(寄贈又は寄託)
- 第11条 資料館は、資料の寄贈又は寄託をうけることができる。
- 2 資料館に資料を寄贈又は寄託しようとする者は、別に定めるところにより、館長等にその旨申出るものとする。
- 3 館長等が寄贈又は寄託を受けることを決定した場合は、本人にこの旨を通知するものとする。
(寄贈資料の取扱い)
- 第12条 寄贈を受けた資料には、寄贈者の氏名及び寄贈年月日を標記し、永くその篤志を伝えるものとする。
(寄託資料の取扱い)
- 第13条 寄託を受けた資料(以下「寄託資料」という。)の寄託期間は、その都度館長等が寄託者と協議して定めるものとする。
- 2 寄託資料は、資料館所蔵の資料と同一の取扱いとする。
- 3 寄託資料は、寄託者の請求又は資料館の都合によりこれを返還することがある。
- 4 寄託資料が天災その他不可抗力によって滅失又は損傷したときは、資料館は損害賠償の責を負わない。
(申請書及び添付書類)
- 第14条 条例第10条第1項の教育委員会規則で定める申請書は、別記様式によるものとする。
- 2 条例第10条第1項第2号の教育委員会規則で定める書類は、次に掲げる書類とする。
- 一 同種の施設の管理及び運営に係る活動実績報告書

二 前号に掲げるもののほか、教育委員会が特に必要なものとして別に定める書類
(その他)

第15条 この規則に定めるもののほか、必要な事項は、館長等が別に定める。

附 則

この規則は、昭和48年2月24日から施行する。

附 則 (平成22・6・30教育委員会規則第10号)

この規則は、平成22年7月1日から施行する。

附 則 (令和3・3・16教育委員会規則第4号)

この規則は、令和3年4月1日から施行する。

○九州歴史資料館組織規則

(昭和47年4月1日教育委員会規則第2号)

最終改正 平成23年3月 教育委員会規則第2号

(趣旨)

第1条 この規則は、九州歴史資料館条例(昭和60年福岡県条例第4号)第3条の規定に基づき、九州歴史資料館(以下「資料館」という。)の組織その他必要な事項を定めるものとする。

(職員の職)

第2条 資料館職員の職として、次の表の上欄に掲げる職を置き、その職務は、それぞれ同表下欄に掲げるとおりとする。

館 長	教育長の命を受け、資料館の事務を掌理し、所属職員を指揮監督する。
副 理 事	上司の特命に係る事務を処理する。
副 館 長	館長を補佐し、館長が不在のとき又は館長が欠けたときは、その職務を代理する。
参 事	上司の命を受け、資料館の事務を分担処理する。
参事補佐	上司の命を受け、資料館の事務を分担処理する。
企画主幹	上司の命を受け、企画・調整等に関する事務に関し、館長又は副館長を補佐する。
指導主事	上司の命を受け、学校教育に関する専門的事項の指導に関する事務に従事する。
社会教育主事	上司の命を受け、社会教育に関する専門的事項の指導に関する事務に従事する。
企画主査	上司の命を受け、調査、計画立案等の事務を処理する。
事務主査	上司の命を受け、企画主幹等を補佐し、事務を処理する。
技術主査	上司の命を受け、企画主幹等を補佐し、技術を処理する。
	上司の命を受け、企画主幹等を補佐し、歴史資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業について専門的事項を処理する。

主任主事	上司の命を受け、複雑な事務をつかさどる。
主任技師	上司の命を受け、複雑な技術をつかさどる。 上司の命を受け、歴史資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業について複雑な専門的事項をつかさどる。
主 事	上司の命を受け、事務をつかさどる。
技 師	上司の命を受け、技術をつかさどる。 上司の命を受け、歴史資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業について専門的事項をつかさどる。
主任技能員	上司の命に従い、高度な技能を要する労務に従事する。
技 能 員	上司の命に従い、労務に従事する。

(所掌事務)

第3条 資料館の所掌事務は、次のとおりとする。

- 一 古文書、典籍等の収集、保管、調査及び研究に関すること。
- 二 美術工芸品、民俗資料等の収集、保管、調査及び研究に関すること。
- 三 古文書、典籍、美術工芸品、民俗資料等の展示及び文化財愛護思想の普及に関すること。
- 四 考古資料の収集、保管、調査及び研究に関すること。
- 五 考古資料の展示に関すること。
- 六 歴史資料の科学的保存処理に関すること。
- 七 史跡の発掘調査及び研究に関すること。
- 八 史跡に関する歴史資料の収集、保管、調査、研究、展示及び整備に関すること。
- 九 公印の管守並びに職員の身分及び服務並びに文書の收受、発送、編集及び保存、公文書の開示等に関すること。
- 十 予算並びに税外諸収入の収入並びに経費の支出並びに物品の出納及び保管並びに現金及び有価証券等の保管に関すること。
- 十一 九州歴史資料館協議会に関すること。
- 十二 職員の研修及び福利厚生に関すること。
- 十三 施設設備の管理に関すること。
- 十四 埋蔵文化財の発掘調査受託事業等の事務に関すること。
- 十五 埋蔵文化財の発掘調査に関すること。

(補則)

第4条 この規則に定めるもののほか、必要な事項は、教育長が別に定める。

附 則

この規則は、公布の日から施行する。

附 則 (平成23・3・30教育委員会規則第2号)

この規則は、平成23年4月1日から施行する。

○九州歴史資料館協議会規則

(昭和60年3月30日教育委員会規則第4号)

最終改正 平成24年3月 教育委員会規則第1号

(趣旨)

第1条 この規則は、九州歴史資料館条例(昭和60年福岡県条例第4号)第4条第1項に規定する九州歴史資料館協議会(以下「協議会」という。)の運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(会長及び副会長)

第2条 協議会に、会長及び副会長各1名を置く。

2 会長及び副会長は、委員の互選によるものとし、任期は1年とする。ただし、再選することができる。

3 会長は、会務を総理する。

4 副会長は、会長が欠けたとき又は会長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議の招集)

第3条 協議会の会議は、必要に応じ、会長が招集する。

2 資料館の館長は、必要と認めるときは、会長に協議会の招集を求めることができる。

(議決)

第4条 協議会の会議は、委員の半数以上が出席しなければ、会議を開き議決することができない。

2 協議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

(庶務)

第5条 協議会の庶務は、九州歴史資料館において処理する。

(補則)

第6条 この規則に定めるもののほか、協議会の運営及び会議に関し必要な事項は、会長が協議会にはかつて定める。

附 則(抄)

(施行期日等)

1 この規則は、昭和60年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 この規則の施行の日の前日において九州歴史資料館協議会委員に任命されている者については、別に辞令が発せられない限り改正後の九州歴史資料館協議会規則(以下「改正後の規則」という。)第四条の規定により任命されたものとみなし、当該委員の期間は改正後の規則第五条の規定による委員の期間に通算する。

附則(平成24年3月28日教育委員会規則第1号抄)

(施行期日)

この規則は、平成24年4月1日から施行する。

○九州歴史資料館の使用料及び手数料に関する規則

(平成22年6月30日福岡県規則第30号)

最終改正 令和3年3月 県規則第26号

(趣旨)

第1条 この規則は、九州歴史資料館条例((昭和60年福岡県条例第4号。以下「条例」という。))に規定する九州歴史資料館(以下「資料館」という。)の使用料及び手数料に関し必要な事項を定めるものとする。

(使用料の徴収時期)

第2条 使用料(条例第5条第1項の使用料をいう。以下同じ。)は、資料館の利用の承認の際に徴収する。ただし、国又は地方公共団体が利用する場合にあっては、当該利用の後に徴収することができる。

(使用料の還付)

第3条 条例第5条第2項ただし書の規則で定める場合は、次の各号に掲げる場合とし、同項ただし書の規定により還付する使用料の額は当該各号に掲げる場合の区分に応じ当該各号に定める額(その額に十円未満の端数があるときは、これを切り捨てた額)とする。

一 天災地変その他資料館の利用の承認を受けた者の責めに帰することができない場合 当該利用に係る使用料の全額

二 前号に掲げる場合のほか、知事が特に必要と認める場合

知事が必要と認める額

(手数料の徴収時期)

第4条 手数料(条例第6条の手数をいう。以下同じ。)は、資料の複写の依頼を受けるときに徴収する。

(使用料及び手数料の減免)

第5条 条例第7条の規則で定める場合は、次の各号に掲げる場合とし、同条の規定により減額又は免除(「以下「減免」という。)」をする使用料又は手数料の額は、当該各号に掲げる場合の区分に応じ当該各号に定める額(その額に十円未満の端数があるときは、これを切り捨てた額)とする。

一 学校教育法(昭和22年法律第26号)に規定する高等学校、中等教育学校の後期課程又は特別支援学校の高等部の生徒が教育上の目的のために教職員に引率されて観覧(資料館が主催して展示する歴史資料の観覧をいう。以下同じ。)をする場合 当該観覧に係る観覧料(条例別表第一の一の表の観覧料をいう。以下同じ。)の全額

二 学校教育法に規定する幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校又は特別支援学校の幼児、児童又は生徒を教育上の目的のため

- に引率する教職員が観覧をする場合
当該観覧に係る観覧料の全額
- 三 児童福祉施設（児童福祉法（昭和22年法律164号）第7条第1項に規定するものをいう。以下同じ。）に入所又は通所している少年（同法第4条第3号に規定する少年をいう。以下同じ。）が教育上の目的のために児童福祉施設の職員に引率されて観覧をする場合 当該観覧に係る観覧料の全額
- 四 児童福祉施設に入所又は通所している幼児（同法第4条第2号に規定する幼児をいう。）又は少年を教育上の目的のために引率する児童福祉施設の職員が観覧をする場合 当該観覧料に係る観覧料の全額
- 五 学校教育法に規定する高等学校、中等教育学校の後期課程若しくは特別支援学校の高等部の生徒又はこれに準ずる者が土曜日に観覧をする場合 当該観覧に係る観覧料の全額
- 六 身体障害者福祉法（昭和24年法律第283号）第15条に規定する身体障害者手帳の交付を受けている者が観覧をする場合 当該観覧に係る観覧料の全額
- 七 療育手帳制度要綱（昭和48年9月27日厚生省発児第156号）に規定する療育手帳（以下単に「療育手帳」という。）の交付を受けている者が観覧をする場合 当該観覧に係る観覧料の全額
- 八 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（昭和25年法律第123号）第45条に規定する精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者が観覧をする場合 当該観覧に係る観覧料の全額
- 九 福岡県男女共同参画センター、福岡県人権啓発情報センター及び福岡県総合福祉センターの設置及び管理に関する条例施行規則（平成8年福岡県規則第55号）第9条第5号に規定する身体障害者若しくは身体障がいのある人、療育手帳の交付を受けている者又は精神保健及び精神障害者福祉に関する法律施行令（昭和25年政令第155号）第6条第3項に規定する1級若しくは2級の精神障害者（以下「障がいのある人」と総称する。）の介護人が当該障がいのある人とともに観覧をする場合 当該観覧に係る観覧料の全額
- 十 65歳以上の者が観覧をする場合 当該観覧に係る観覧料の全額
- 十一 県又は県教育委員会の主催する行事の用に供するため、入場料を徴収して展示室、会議室又は研修室（以下「展示室等」という。）の使用をする場合 当該使用に係る使用料の50パーセントに相当する額
- 十二 前号の用に供するため、入場料を徴収しないで展示室等の使用をする場合 当該使用に係る使用料

- の全額
- 十三 学校教育法第1条に規定する学校が資料館の設置の目的に適合する展示室等の使用をする場合 当該使用に係る使用料の全額
- 十四 地方公共団体が資料館の設置の目的に適合する展示室等の使用をする場合 当該使用に係る使用料の全額
- 十五 県の機関が資料の複写を依頼する場合 当該複写に係る手数料の全額
- 十六 前各号に掲げる場合のほか、知事が特に必要と認める場合 知事が必要と認める額
- 十七 中等教育学校の後期課程若しくは特別支援学校の高等部の生徒又はこれに準ずる者が土曜日に観覧する場合 当該（減免の申請）
- 第6条 前条第一号から第四号までのいずれかに該当する場合の観覧料の免除を受けようとする場合は、これらの号に規定する引率をする者は、九州歴史資料館観覧料免除申請書（様式第1号）を知事に提出しなければならない。
- 2 前条各五号から第十号までのいずれかに該当する場合の観覧料の免除を受けようとする場合は、これらの号に規定する者（前条第九号に該当する場合にあっては、障がいのある人）は、これらの号に該当することを証明することができる書類を資料館の職員に提示しなければならない。
- 3 前条第十一号から第十四号までのいずれかに該当する場合の使用料の減免を受けようとする者は、九州歴史資料館使用料減免申請書（様式第2号）を知事に提出しなければならない。
- 4 前条第十五号に該当する場合の手数料の免除を受けようとする者は、九州歴史資料館複写手数料免除申請書（様式第3号）を知事に提出しなければならない。
- 5 前条第十六号に該当する場合の使用料又は手数料の減免を受けようとする者は、別に指示する方法により申請しなければならない。
- 附 則
この規則は、平成22年7月1日から施行する。
附 則（平成29・9・29教育委員会規則第34号）
この規則は、平成29年10月1日から施行する。
附 則（令和3・3・30県規則第26号）
この規則は、公布の日から施行する。

3 諸 統 計

(1) 入館者状況

ア 令和4年度入館者状況

期 間	開館日数	入館者数	1日平均入館者数
令和4年 4月1日から 令和5年 3月31日まで	306日	35,496人	116人

イ 過去5年間の入館者推移

単位・人

年度区分	開館日数	合計入館者数	合計有料入館者数	合計入館者内訳			1日平均入館者数
				大人	高大生	中学生以下	
30年度	302	23,367	1,585	19,504	731	3,132	77
元年度	278	31,500	1,489	28,313	588	2,599	113
2年度	266	16,939	2,622	15,595	314	1,030	64
3年度	238	21,417	2,044	17,581	429	3,407	90
4年度	306	35,496	2,704	29,678	913	4,905	116

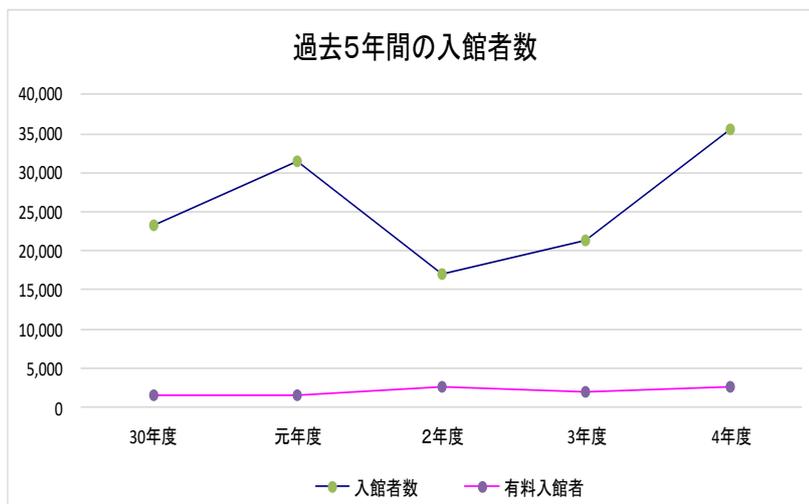
※つり天井工事実施のため、平成30年8月13日から令和元年10月11日まで、第1・3展示室（有料展示室）を閉室。

※新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、

令和2年は2月28日～5月18日、令和3年は5月11日～6月20日、8月6日～9月13日 臨時閉館

ウ 過去5年間の入館者推移

単位・人



(2) 収蔵資料・図書

< 寄贈等資料 >

考古資料 287,372 点 歴史資料 129,367 点

< 図 書 >

購 入 5,110 冊 寄 贈 179,499 冊

4 日誌抄（4年度）

年 月 日	内 容
令和4年	パネル展「保存科学成果展—船原古墳遺物埋納坑調査の最前線2021～2022—」（～6月26日（日））
4月3日（日）	桜コンサート（共催：桜コンサート実行委員会）
4月5日（火）	特集展示「きょうおにとタイムトラベラー大昔の暮らしと国づくり」（～7月18日（月・祝））
4月29日（金・祝）	キッズミュージアム短期プログラム「古代の生活体験2022・春」 竪穴住居組み立て・弓矢体験
5月5日（木・祝）	ボランティアイベント「折り紙かぶとを作ろう」
6月4日（土）	キッズミュージアム2022通年型プログラム「古代体験①」 ガイダンス・藍染体験・田植え体験
6月17日（金）	第1回埋蔵文化財発掘調査基礎研修
6月28日（火）	パネル展「「倭の水人」の実態を探ってみた」（～9月4日（日））
7月1日（金）	文化財基礎研修
7月2日（土）	ナイトミュージアム2022①「夜の博物館でリアル脱出ゲーム」
7月5日（火）	埋蔵文化財安全衛生講習会
7月15日（金）	第2回埋蔵文化財発掘調査基礎研修
7月20日（水）	特集展示「やきもの はじめの一步！①やきものの種類とうつわの形」（～10月2日（日））
7月24日（日）	ボランティアイベント「綿の種取り・糸車体験」
7月27日（水）	ボランティアイベント「平日古代体験」1日目（無料体験+機織り体験）
7月29日（金）	教育センターキャリアアップ講座「歴史体験！～身近な文化財を通して地域の歴史や文化に親しむ～」
8月3日（水）	ボランティアイベント「平日古代体験」2日目（無料体験+組紐体験）
8月6日（土）	キッズミュージアム2022通年型プログラム「古代体験②」 弥生土器作り
8月8日（月）	九州歴史資料館協議会
8月10日（水）	史跡等整備基礎研修
8月19日（金）	教員のための博物館の日in九歴
8月23日（火）	博物館実習（～9月2日（金））
9月6日（火）	パネル展「世界遺産「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群」（～10月2日（日））
9月7日（水）	ボランティアイベント「大人組紐講座」
9月9日（金）	有形文化財（建造物）基礎研修
9月30日（金）	第3回埋蔵文化財発掘調査基礎研修
10月4日（火）	パネル展「福岡鉄道遺産ものがたり8～日豊本線編～」（～12月4日（日））
10月8日（土）	特別展「京都平野と豊の国の古代」（～12月4日（日））
10月9日（日）	ボランティアイベント「綿の摘み取り体験」
10月15日（土）	キッズミュージアム2022通年型プログラム「古代体験③」 石包丁づくり・稲刈り体験
10月19日（水）	大宰府史跡調査研究指導委員会（～10月20日（木））
10月21日（金）	第4回埋蔵文化財発掘調査基礎研修
10月23日（日）	特別展開催記念茶会（共催：小都市文化協会裏千家）

年 月 日	内 容
10月29日 (土)	アクロスミュージアムコンサートin九州歴史資料館
10月30日 (日)	文化財めぐり「みやこ古墳日和」
11月4日 (金)	教員対象研修会
11月6日 (日)	特別展開催記念講演会「古代の豊前と渡来人」
11月13日 (日)	古代体験まつり
11月15日 (火)	ボランティアイベント「大人糸紡ぎ・手織り講座①」
11月18日 (金)	第5回埋蔵文化財発掘調査基礎研修
11月19日 (土)	なるほど!!こども歴史教室2022
11月22日 (火)	ボランティアイベント「大人糸紡ぎ・手織り講座②」
11月23日 (水・祝)	古代史研究フォーラム「古墳が語る日本創生の風景」
11月29日 (火)	ボランティアイベント「大人糸紡ぎ・手織り講座③」
12月3日 (土)	ナイトミュージアム2022②「夜の博物館でリアル脱出ゲーム」
12月6日 (火)	企画展 発掘成果展「山国川流域の遺跡」(～3月26日(日))
12月6日 (火)	パネル展「筑紫・豊(前)の四つの窓(前編)」(～2月26日(日))
12月6日 (火)	ボランティア活動成果展「綿づくり展」(～12月16日(金))
12月16日 (金)	第6回埋蔵文化財発掘調査基礎研修
12月17日 (土)	キッズミュージアム短期プログラム「古代の生活体験2022・冬」紙漉きで年賀はがき作り・科学実験
令和5年 1月18日 (水)	企画展「尾形家三代-探幽に学んだ福岡藩御抱え絵師-」 「古代九州の刀剣」(～3月12日(日))
1月18日 (水)	ボランティアイベント「大人組紐講座」
1月20日 (金)	第7回埋蔵文化財発掘調査基礎研修
1月21日 (土)	企画展開催記念講演会「福岡の御抱え絵師たち」
2月17日 (金)	有形文化財(美術工芸品)基礎研修
2月26日 (日)	ボランティアイベント「MyおひなさまとMy組紐」
2月28日 (火)	パネル展「筑紫地区文化財写真展-ちくし再発見～見てみんね。中世の筑紫～」(～3月12日(日))
3月13日 (月)	文化財安全パトロール(坂本町遺跡・新外町遺跡)
3月14日 (火)	パネル展「保存科学成果展-船原古墳遺物埋納坑調査の最前線2022～2023」(～6月4日(日))

福岡県行政資料	
分類番号 JH	所属コード 2120261
登録年度 5	登録番号 0001

九州歴史資料館年報（令和4年度）

発行日 令和5年8月1日
編集・発行 九州歴史資料館
〒818-0068
福岡県小郡市三沢5208-3
TEL 0942-75-9575
FAX 0942-75-7834

ANNUAL BULLETIN

OF

KYUSHU HISTORICAL MUSEUM

2022

CONTENTS

Preface

1	2022 Report of Kyushu Historical Museum	
(1)	Survey and Research	4
(2)	Exhibition	20
(3)	Item Available	28
(4)	Study Support/Museum, school Cooperation	40
(5)	Volunteer	47
(6)	Dissemination/Utilization	51
(7)	Priority Measures	64
(8)	Public Relations Activities	66
(9)	Practice and Training Opportunities	70
(10)	Support for Municipalities	73
(11)	Published matter	79
(12)	Interchange	80
(13)	Conference and Meeting Facilities	80
2	Organization of Kyushu Historical Museum	
(1)	History	81
(2)	Building and Grounds	83
(3)	Budget	83
(4)	Organization Chart and Staff	84
(5)	Rules and Regulations	85
3	Statistics of Kyushu Historical Museum	
(1)	Museum Visitors	91
(2)	Total Materials and Books	91
4	Outline of 2022 Activities	892